

新入生の学校環境への適応に関する研究

学校では、いじめや不登校など様々な問題が生じている。その中でも、特に小学校1年生、中学校1年生、高等学校1年生は環境の変化などから子どもたちが学校に適応できない状況が多い。

本研究では、このような小1プロブレム、中1ギャップ、高校1年生の様々な不適応に対し、どのような対応及び支援が必要であるのかを、小学校4校・中学校2校・高等学校2校において新入学児童生徒にグループ・アプローチ等の実践を行ったり、学校間連携を行ったりすることで検証し、その有効性を確かめた。

<検索用キーワード> 学校不適応 小1プロブレム 中1ギャップ 高校1年生の不適応
グループ・アプローチ 学校間連携 学校適応度調査

研究会委員

豊明市立豊明小学校教諭	石見 雅典(平成20年度)
豊明市立豊明小学校教諭	鈴木 義昭(平成21,22年度)
豊明市立舘小学校教諭(現同校教頭)	岸 洋行(平成20年度)
豊明市立舘小学校教諭	近藤 雅彦(平成21,22年度)
東郷町立東郷小学校教諭	宮道 弘巳(平成20,21,22年度)
東郷町立兵庫小学校教諭(現豊明市立中央小学校教頭)	下出 修史(平成20年度)
東郷町立兵庫小学校教諭	水野 和幸(平成21,22年度)
豊明市立栄中学校教諭	近藤 雅彦(平成20年度)
豊明市立栄中学校教諭	澤田 好弘(平成21,22年度)
東郷町立諸輪中学校教諭(現東郷町立東郷中学校教頭)	大澤 孝明(平成20年度)
東郷町立諸輪中学校教諭	早川 佳秀(平成21,22年度)
県立豊明高等学校教諭	長谷川光広(平成20,22年度)
県立豊明高等学校教諭(現県立東郷高等学校教頭)	近藤 雅(平成21年度)
県立成章高等学校教諭	荻野 堅資(平成20年度)
県立成章高等学校教諭(現県立豊橋南高等学校教諭)	石田 桂子(平成21年度)
県立成章高等学校教諭	内藤ひでみ(平成22年度)
総合教育センター教育相談研究室長(現県立岡崎高等高校教頭)	村上 慎一(平成20年度)
総合教育センター教科研究室長(現県立東海南高等学校教頭)	都築 数雄(平成20年度)
総合教育センター教育相談研究室長	荻野 堅資(平成21,22年度)
総合教育センター研究指導主事(現高浜市立高浜小学校教諭)	加藤 応子(平成20,21年度主務者)
総合教育センター研究指導主事(現刈谷市立小垣江東幼稚園園長)	沼田留美子(平成20,21年度)
総合教育センター研究指導主事	坪井 佳代(平成20年度)
総合教育センター研究指導主事	丸崎 恵子(平成20,21,22年度)
総合教育センター研究指導主事	坂田 貴仙(平成21,22年度)
総合教育センター研究指導主事	山本 由紀(平成22年度)
総合教育センター研究指導主事	佐藤 淑乃(平成22年度)
総合教育センター研究指導主事	岡村 直樹(平成20,21年度 22年度主務者)

1 はじめに

学校では、いじめ・不登校など様々な問題が生じている。中でも、特に小学校1年生・中学校1年生・高等学校1年生は、環境の変化などから、子どもたちが学校に適応できない状況が多いと考えられる。

小学校1年生では、入学時に小学校生活や集団生活にうまく適応できず、授業が成立しにくい状況が生まれる、いわゆる小1プロブレムが問題になっている。22年度の愛知県教育委員会の調査でも「授業中に勝手に教室の中を立ち歩いたり、教室の外へ出て行ったりすることが度々あった」「担任の指示どおりに行動しないことが度々あった」という児童の姿が、4月に32.4%の学校で見られた。また、小学校1年生の不登校数を調べると、不登校数の割合は全国で0.09%(1058人に一人の割合)であるのに対して、愛知県では0.18%(552人に一人の割合)であり、愛知県は全国平均より多くの児童が不登校になっていることが分かる。(図2)(平成21年度調査)

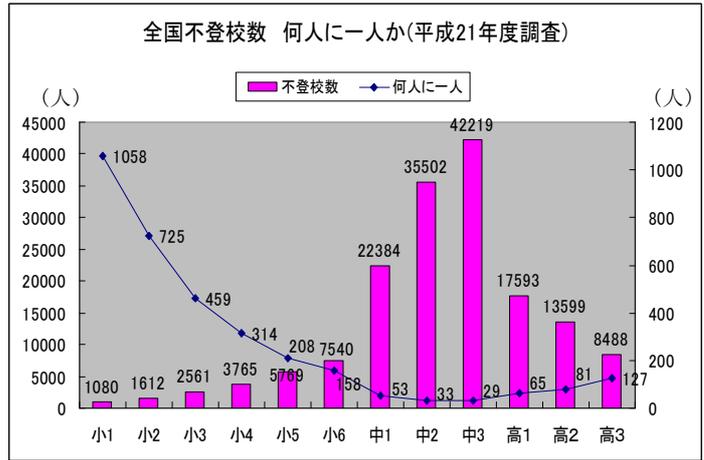
さらに、「授業中に立ち歩きをする」「友達とうまくかかわることができない」といった問題行動も多くなっている現状である。

中学校1年生では、小学校から中学校への大きな環境の変化により、自己有用感を喪失(学習・部活動についていけない、親しい友人・教員等の支えがなくなる、周囲の仲間から認めてもらえない、新しい人間関係がつかれない、自己理想と現実の自分の違いに悩む)し、中1ギャップが生じると言われている。

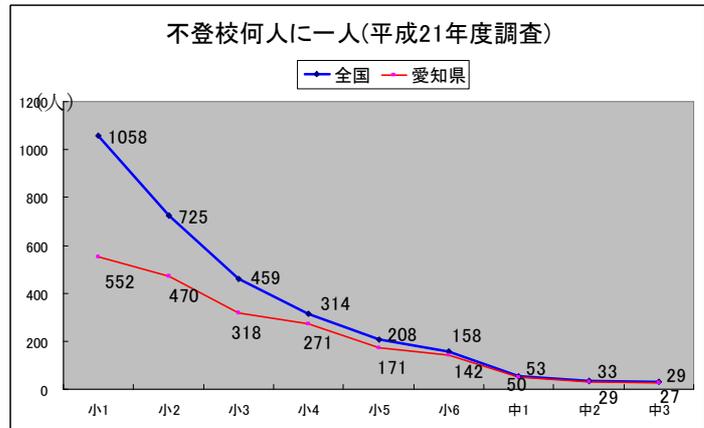
また、図1の学年別不登校数を見ると、小学校6年生から中学校1年生の増え方が著しく大きくなっていることが分かる。図2からは、愛知県でも同じ傾向が見られることが分かる。さらに、中学校2、3年の不登校数が更に増えていることを考えると、一度不登校になると、登校できるようになることが難しいことがわかる。

さらに、図3の学年別のいじめ件数を見ても、中学校1年生で急に多くなり、件数もピークになっている。このことから、新しい環境に慣れずに、人間関係づくりがうま

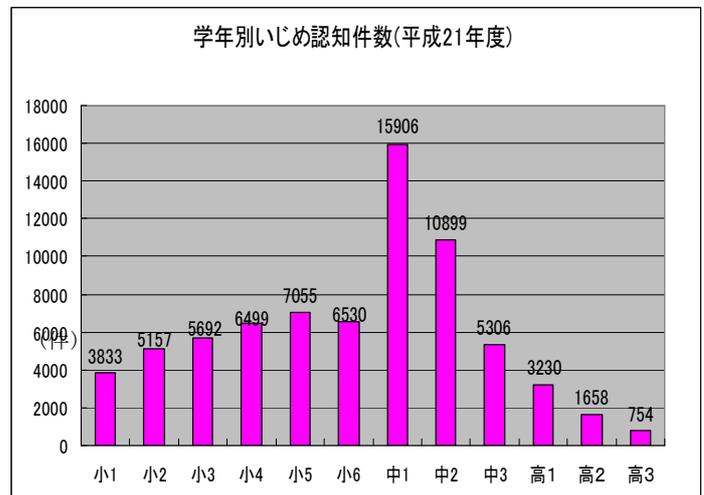
【図1 不登校数】



【図2 不登校数の割合 愛知県と全国との比較】



【図3 学年別いじめ件数】



くできていない様子が分かる。

高等学校1年生では、新しい集団、新しい教科・科目などの変化に興味・関心をもち、新たな決意や目標をもちやすい時期であるとともに、生徒同士や生徒と教師の新たな人間関係づくりや未知の事柄への不安を抱く時期でもある。その中で、新しい学習環境や人間関係につまずいて、学校生活への不適応を起こすことも少なくない。

図4からは、高等学校1年生の42人に一人が高等学校を中途退学しているということが分かる。この数からも、高等学校に入学しても学校環境に適応できずに不登校になったり、学校を退学したりする生徒が多いという現状が分かる。

現代の児童生徒の様々な不適応行動や問題行動をなくすためには、入学直後から各学校の実態にあった対応をすることが求められる。小学校学習指導要領解説には「入学当初から徐々に大きな集団における幅広い人間関係の中で活動できるようにし、集団で活動することの楽しさを味わわせたり、友達の大切さを実感させたりする。徐々に児童が学校での生活に慣れるようにして、学校生活を楽しく送ることができるようにする」と書かれている。また、高等学校学習指導要領解説には「高等学校入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望と目標をもって生活できるように工夫すること。人間関係を形成する力を養う活動などを充実するように工夫すること」と書かれている。

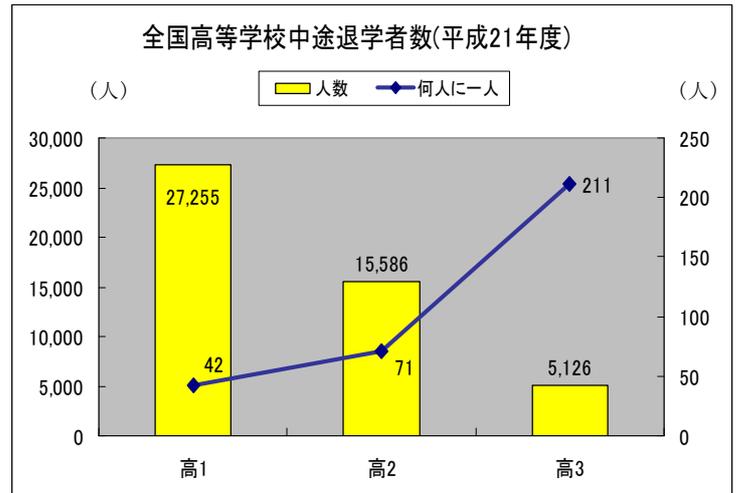
このように、新入児童生徒一人一人が、入学当初に学級で受け入れられているという所属感や仲間意識が高まれば、早期によりよい人間関係が構築され、不適応行動や問題行動の予防、改善、解消に役立ち、新しい学校環境へ適応できると考えられる。そこで、新入生の所属感や人間関係づくりを促すためにグループ・アプローチを通して各学校はもとより学校間で連携し、その有効性を検証していく。

今回は、小・中・高等学校の実態に応じたグループ・アプローチの効果的な実施内容や実施時期について、より研究を深めていきたいと考える。

2 研究の経緯

従来の生徒指導・教育相談では、問題解決的なアプローチの傾向が強く、一つ一つの問題に対応してきた。これに対し、不適応行動や問題行動が起こってから対処するのではなく、問題が起こる前に手段を講じた方がより効果的ではないかという考えのもと、当センターでは、不適応行動を「予防」し、児童生徒が自らの手で未来を「開発」する力を育成するために、予防・開発的教育相談という考え方を重要視し、平成12年度から予防・開発的教育相談を効果的に行うための研究に取り組んできた。そして、他者と触れ合うことで学びを得ることができるグループ・アプローチに着目し、第Ⅰ期「予防・開発的教育相談の在り方に関する研究」（平成12年度～14年度）、第Ⅱ期「予防・開発的教育相談の推進に関する研究」（平成15年度～16年度）、第Ⅲ期「心の発達への支援に関する研究」（平成17年度

【図4 高等学校中途退学者数】



～19年度)に続く第Ⅳ期の研究として、平成20年度から取り組んできた。第Ⅳ期の研究では、第Ⅲ期までの研究の成果を踏まえつつ、全国的に認められる現象である小1プロブレム、中1ギャップ、高1の様々な不適応について、予防開発的な教育相談の見地から、グループ・アプローチの実践を中心に調査・研究を行い、支援の方法を探った。それぞれの支援の実践とその成果について報告したい。

第Ⅰ期「予防・開発的教育相談の在り方に関する研究 ー構成的グループ・エンカウンターを中心にしてー」

学級活動、部活動、保護者会、教科の授業など、様々な場面での実践を行った。この結果、集団内の結び付きが強くなり、帰属意識が高まるなどの効果が確認された。一方、教育活動への定着に対して、①時間確保の工夫 ②年間計画に基づいた計画的な取組 ③構成的グループ・エンカウンター以外のグループ・アプローチ活用についての研究など三つの課題が明らかになった。

第Ⅱ期「予防・開発的教育相談の推進に関する研究 ー行事に生かすグループ・アプローチを中心としてー」

実践時間の確保を考慮し、学校行事を核とした年間計画を立てて実践すると効果が大きいことが明確になった。また、児童生徒の「心の絆づくり」への効果とともに、中学生や高校生には構成的グループ・エンカウンター以外のグループワーク・トレーニングやラボラトリー体験学習の方が抵抗なく取り組めることも分かった。

第Ⅲ期「心の発達の支援に関する研究」

児童生徒のそれぞれの発達段階に即したグループ・アプローチの有効な活用が、心の発達を支援し、社会性の獲得に向けて、効果的であることが分かった。

第Ⅳ期「新入生の学校環境への適応に関する研究」(本研究)

第Ⅲ期までの研究で、児童生徒の実態に応じたグループ・アプローチを選択して実施することが児童生徒の健全な心の発達を促すために非常に重要であることを確認できた。

第Ⅳ期での研究は、小1プロブレム、中1ギャップ、高1の様々な不適応に対して、入学直後から人間関係づくりを促すグループ・アプローチに焦点をあてて実践を進めることにした。また、きめ細かな支援や各校種間の連携も進め、どのような対応及び支援が必要であるかを検証し、有効な支援の在り方を探究していくことにした。

3 研究の目的

豊かな人間関係を築き、学校環境に適応することができる個や集団への支援の在り方を検証する。

4 研究の仮説と手だて

仮説

各学校の実態に応じ、新入生児童生徒に人間関係づくりを促すグループ・アプローチを実施すれば、新しい集団の中で人間関係を築いていく力をはぐくむとともに、不適応行動や問題行動を未然に予防し、学校環境への適応を支援することができるであろう。

手だて

小学校、中学校、高等学校の1年生の全クラスで、児童生徒の実態に応じたグループ・アプローチを実践する。実施時期については、新入生が入学した早い時期から、学校行事等を考慮して計画的に数回実践する。

学校の状況に応じて校種間で連携を図りながら、新入生の学校環境への適応を図っていく。

5 研究の方法

入学直後とグループ・アプローチの実践を重ねた後に行う適応度調査と、実践中に新入生の変化の観察を随時行い、その効果を測定する。

また、小学校や中学校での不安を進学する学校に伝え、入学前の不安がどのように変化したのかを調べるなど、学校間連携の在り方についても調査する。

(1) 適応度調査について

各協力校代表委員の計画に基づき、グループ・アプローチを実践し、それぞれの児童生徒の校種に応じた評価尺度（研究協力校代表委員作成による適応度調査）を用いて、その効果を測定する。

●適応度調査の内容

小学校；1～4は「心の健康と生活習慣に関する調査」（文部科学省 平成15年3月）より抜粋して作成，5，6については小学校の研究協力員で作成

【質問内容】

- 1 わたしは ひとりぼっちで さみしい。
- 2 わたしは みんなと なかよく できる。
- 3 がっこうは たのしい。
- 4 わたしは ともだちを たたく。
- 5 せんせいと おはなし するのが すき。
- 6 だいすきな じゅぎょうがある。

中学校、高等学校；心理測定尺度集IV「対人関係・適応」より抜粋

【質問内容】

「学校への反発感傾向因子」

- 1 学校の先生に対して親しみを感じる。
- 2 この学校に対して親しみを感じる
- 3 この学校の生徒であることを誇りに思う。

「友人関係における孤立感傾向因子」

- 4 親しい友達がいる。
- 5 友達と一緒にいると楽しい。
- 6 勉強以外のことを友達とよく話す。
- 7 友達とできるだけ交わるようにしている。

「登校嫌悪感傾向因子」

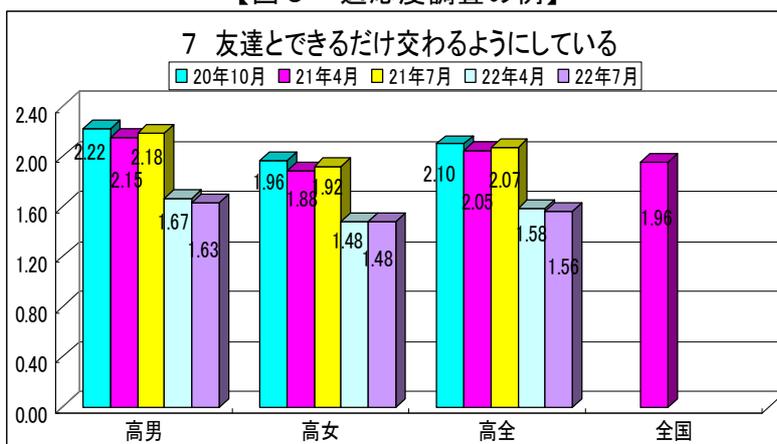
- 8 学校を休みたいという気持ちになる。
- 9 私にとって学校はいごちが悪い。

【適応度調査の見方】

それぞれの質問ごとに〔1 当てはまる 2 やや当てはまる 3 どちらともいえない 4 あまり当てはまらない 5 当てはまらない〕

で答え、その平均値をとる。つまり、数値が低い方が適応度が高くなっていると言える。5本のグラフは、一番左がグループ・アプローチをしていない平成20年の10月のグラフ。2本目3本目は平成21年度の比較、4本目5本目は今年度の比較になる。なお、「登校嫌悪感傾向因子」についてはアンケート結果を回答選択肢の番号を逆にすることで、低数値の方が適応度が高くなっている(図5)。

【図5 適応度調査の例】



(2) 入学時の期待・不安及びグループ・アプローチを体験したあとの感想

中学校及び高等学校においては、本研究3年次に入学時の期待・不安を調べた。また、グループ・アプローチを実践した後に再度、期待・不安がどのように変化したのかについても調査した。さらに、グループ・アプローチを体験した後の気持ちについても調査した。

6 研究の内容

(1) グループ・アプローチの実践

各校種ごとに、グループ・アプローチを実践し、どのような効果があるのか検証する。具体的なグループ・アプローチの内容については各学校ごとに児童・生徒の実態を考えながら実践していく。なお、実践する主なグループ・アプローチについては、以下のとおりである。

- 小学校1年生……幼稚園・保育園での遊びを取り入れた学年担任合同作成によるエクササイズ
構成的グループ・エンカウンター
- 中学校1年生……グループワーク・トレーニング
構成的グループ・エンカウンター
ラボラトリー体験学習
- 高等学校1年生……グループワーク・トレーニング
ラボラトリー体験学習

(2) 幼稚園・小学校・中学校・高等学校の連携

新しい学校環境に飛び込む児童生徒たちにとって、環境の変化による不安は強く感じられるものであり、スムーズに対応できずに不適応行動や問題行動を起こすこともある。そのため、不登校等の兆候を早期に発見し、対処するだけでなく、小学校・中学校・高等学校間の緊密な連携体制の確立を基盤とした上での、人間関係づくりの能力の育成が必要と考える。

したがって、新入生の学校環境適応への促進には各校種間による連携は必要である。学校環境への適応に生かす方策を探るために、各校種間の連携の実態を調査する。

今回は、二つの小学校の一部の児童がある一つの中学校へ、また、一つの中学校からある一つの高

等学校へ進学する生徒がいるので、その児童生徒について追跡調査をする。その他、幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校の連携について調査する。

【実践と実践テーマ】

No.	実践のテーマと内容	
1 A 小 学 校	テーマ	－児童の実態に即したエクササイズの改良実践を通して－
	内容	1年生が学校環境に適応するために、固定エクササイズや新しいエクササイズを工夫改良し取り組んだ実践。児童の実態や関心意欲を考えながら、学級担任とよりよいかかわり方を考えながら人間関係づくりを目指した。
	主な G A	・あいさつじゃんけん ・ぞうさんのさんぽ ・進化じゃんけん ・じゃんけん列車 ・おみくじトーキング ・〇×ゲーム ・サイコロトーキング ・ドッジビー ・かえるジャンプ ・集合ゲーム ・鬼ごっこ(増え鬼, 手つなぎ鬼) 等
2 B 小 学 校	テーマ	－幼保小連携による児童の実態を生かした実践を通して－
	内容	伝統校で素直な児童が多い中、幼保小の連絡会で「環境に馴染むのに時間がかかる, こだわりが強い, 初めてのことが苦手」などの入学児童の実態を把握したうえで、グループ・アプローチを行った。
	主な G A	・あくしゅだいさくせん ・あくしゅであいさつ ・集合ゲーム ・ジャンケン列車 ・進化ジャンケン ・ジャンボジャンケン ・三色鬼ごっこ ・こおり鬼 等
3 C 小 学 校	テーマ	－異学年交流や幼保小連携を生かした実践を通して－
	内容	学級単位または学年単位で人間関係を深めるためのグループ・アプローチを実践した。その際、特別支援学級の児童との交流も深めた。また、1年生と6年生とのペア活動を通して学校に早く適応できる取組を行った。幼稚園・保育園との連携では、入学前の園児との交流会を行い、子どもたちの適応に関して調査した。
	主な G A	・「1, 2, 3」 ・出会いのあいさつ ・じゃんけんお巡りさん ・猛獣狩り ・あくしゅであいさつ ・先生とビンゴ ・じゃんけんぽ, けんけんぽ ・カードめくり ・じゃんけん汽車 ・フルーツバスケット ・いすとりゲーム 等
4 D 小 学 校	テーマ	－グループ・アプローチと異学年交流活動を生かした取組－
	内容	1年生がスムーズに学校生活に適応できるように、グループ・アプローチと異学年交流活動を生かした実践を行った。グループ・アプローチでは、幼稚園・保育園との情報交換や交流会を生かし、児童会では、異学年交流活動のペア学年で6年生との活動を通して人間関係づくりの向上を図った。
	主な G A	・あかいくつゲーム ・じゃんけんれっしゃ ・なかまあつめ ・イエス・ノーゲーム ・握手ではいろろう ・好きな4つのコーナーに集まろうゲーム ・握手でバイバイ ・笛の合図でなかまをつくろう ・ひらがなからどうぶつをつくろう 等

5 E 中 学 校	テーマ	—小中連携による生徒の実態を生かした実践を通して—
	内容	小学校の時にもっていた友人に関する不安を中学校の教師に知ってもらうことで、不適応を未然に防ぐことができると考え、入学当初にグループ・アプローチを実践しながら生徒同士の人間関係づくりを目指した。
	主な G A	・匠の里 ・謎のマラソンランナー ・ばらばら紙芝居を完成させよう
6 F 中 学 校	テーマ	—校区の生徒の実態を把握した実践を通して—
	内容	中学校に進学する2校の小学校の生徒数に差があるということから、小学校ごとの子どもたちの学校適応に注目した実践。特に、少人数の小学校から来た生徒の期待度や不安度に注目しながら実践を行った。
	主な G A	・文章完成法 ・班対抗クイズ法 ・ジェスチャーゲーム ・匠の里
7 G 高 等 学 校	テーマ	—グループ・アプローチと校種間連携を通して—
	内容	生徒の居住地区が広範囲にわたる状況で、入学時のオリエンテーションとして人間関係づくりを深めるため、グループ・アプローチを実践した。また、中学校との校種間連携では、入学時の期待や不安をつかんだうえで、学級や学校になじめるような支援を行った。
	主な G A	・宇宙船での選択 ・匠の里
8 H 高 等 学 校	テーマ	—キャリア教育の一環としての実践を通して—
	内容	グループ・アプローチを利用して、人間関係における高1生徒の問題を解消するだけにとどまらず、「生きる力」の一つとして、豊かな人間関係を構築する力を育成したいというキャリア教育も目指した実践を行った。
	主な G A	・匠の里 ・サバイバル ・好きなプロスポーツは

G A = グループ・アプローチ

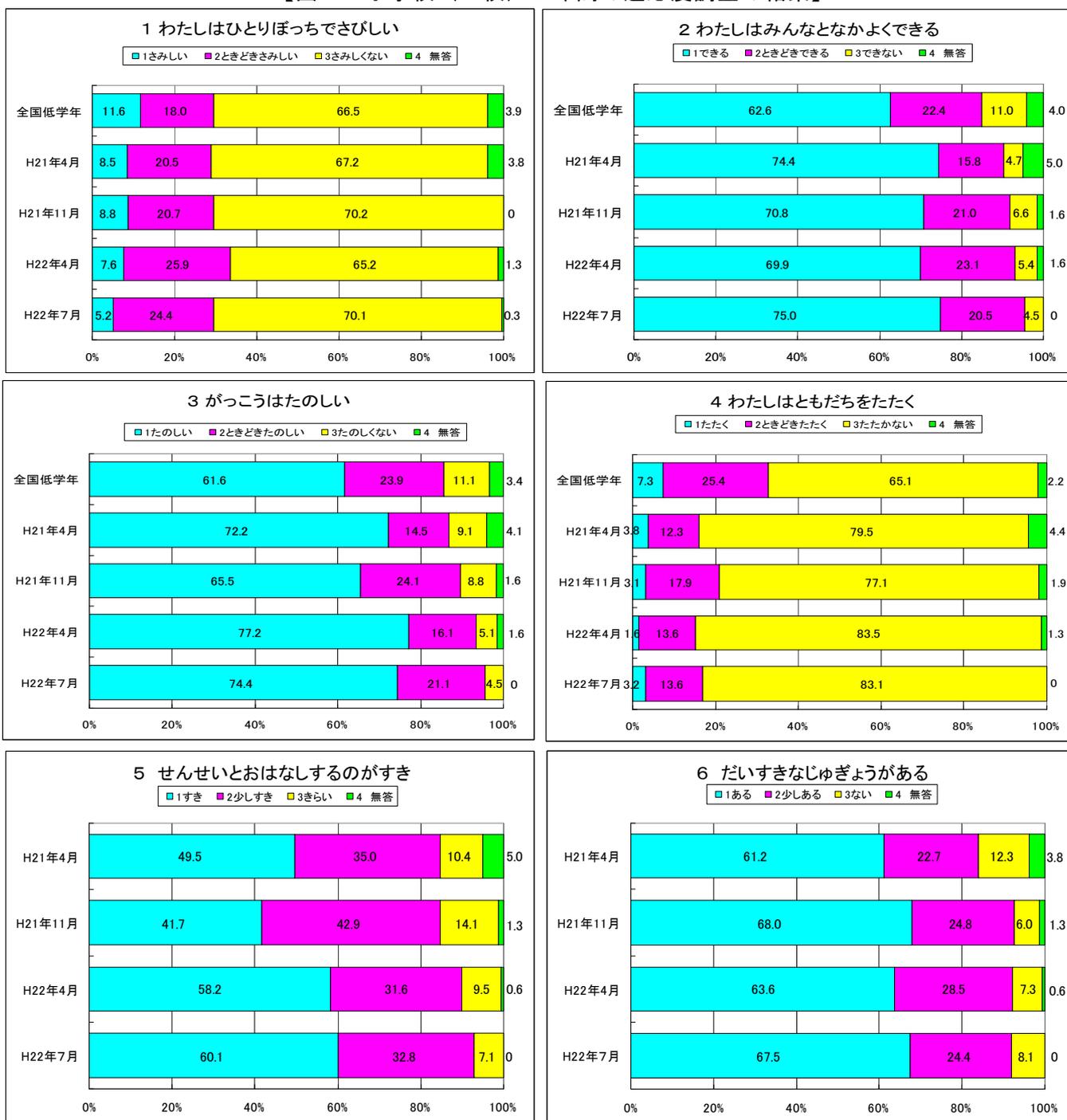
7 研究のまとめ

本研究では、小学校、中学校、高等学校の新入生を対象として「各学校の実態に応じ、新入生児童生徒に人間関係づくりを促すグループ・アプローチを実施すれば、新しい集団の中で人間関係を築いていく力をはぐくむとともに、不適応行動や問題行動を未然に予防し、学校環境への適応を支援することができるであろう」という仮説を検証することを目的として実践研究を行った。この目的に対し、各学校で児童生徒の学校への適応にふさわしいグループ・アプローチを実践し、児童生徒の変容を学校ごとの方法で調査した。また、学校状況に応じて、校種間の連携も深めながら適応度を調べた。

ここでは、各校種ごとに研究を振り返り、その成果と課題について整理したい。

(1) 小学校について

【図6 小学校（4校）2年間の適応度調査の結果】



まず、図6の適応度調査について考えてみたい。「1わたしはひとりぼっちでさみしい」という項目について昨年度は大きな変化はなかった。今年度については、4月の段階で「さみしい」「ときどきさみしい」と答える児童が多かったが、7月にはかなり減少したことが分かる。また、「2わたしはみんなとなかよくできる」「3がっこうはたのしい」という項目については、毎年、肯定的に答える児童がグループ・アプローチを実践した後に多くなり、適応度が高まったと考えられる。

一方、「4わたしはともだちをたたく」については、毎年4月に比べると割合が増えている。また、図7は、愛知県が小学校1年生の実態調査を行ったものである。各項目で、時期がたつにつれて問題行動は減っている状況だが、唯一「③児童同士のけんかやトラブルが日常的に起きていた」については、4月よりも5月が増加している。

このことから、入学したばかりの児童は、友達が少ない状態で、けんかなどのトラブルは少ないが、友達が増えるにつれて、良くも悪くもかかわることが多くなり、けんかやトラブルが増えてくるのではないかと考えられる。友達の輪が広がる時に、よいかかわりができるようにしていくことが大切であると感じた。

「5せんせいとおはなしするのがすき」と「6だいすきなじゅぎょうがある」については、年によって差はあるが全体的に向上している。小学校の適応度調査の結果からは、友達や学校に対する気持ちについては適応してきているということが分かるが、一方で友達づくりの過程で、けんかとかトラブルが発生しやすい現状があるので注意深く見守っていく必要性が分かった。

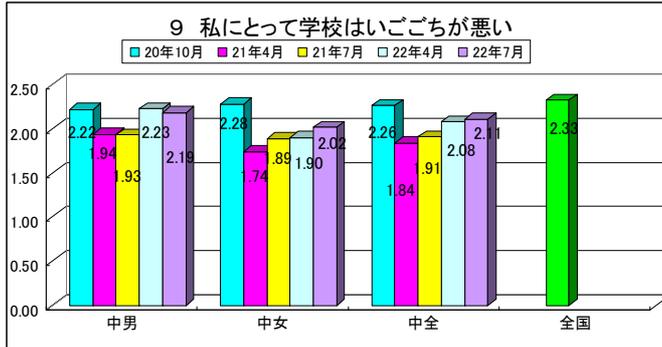
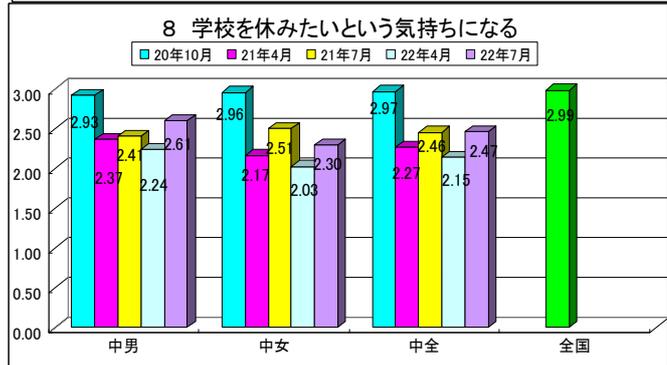
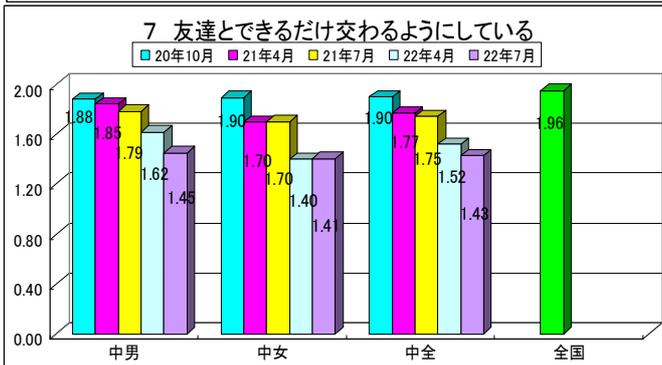
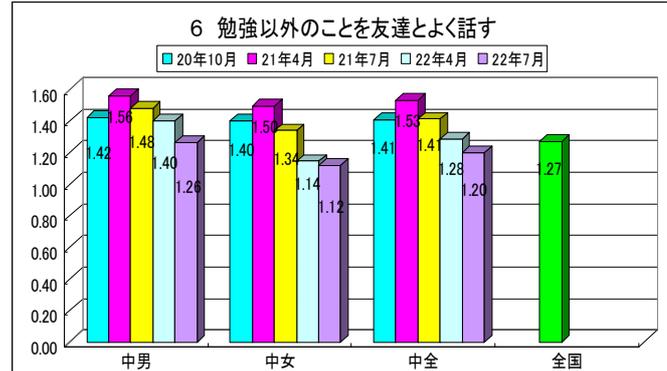
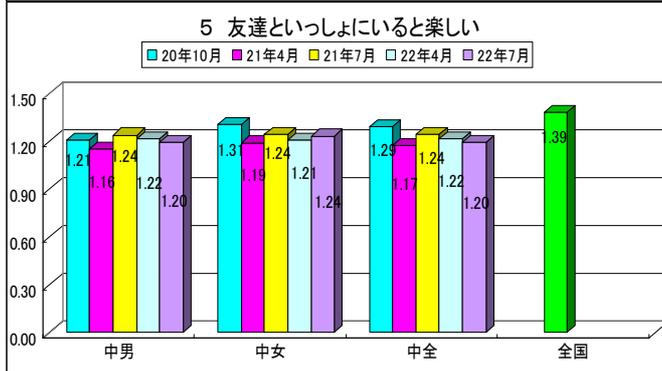
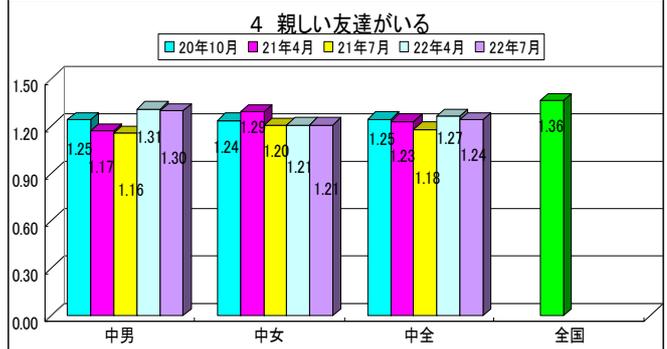
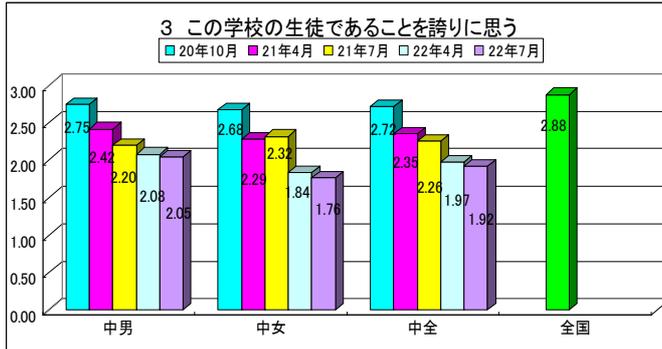
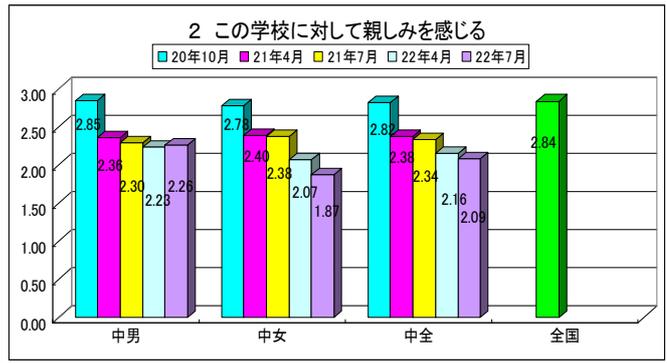
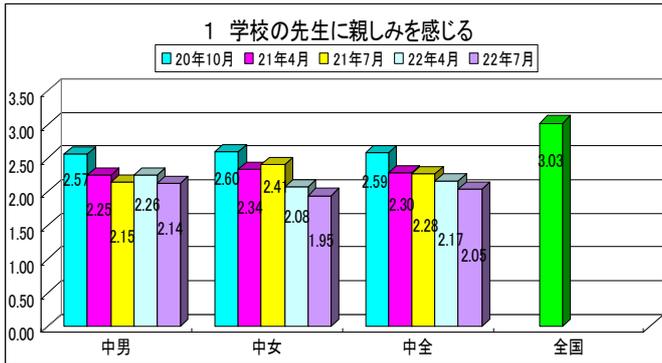
次に、幼稚園や保育園との連携について考えてみたい。全ての小学校が幼稚園や保育園と連携を図りながらの取組であった。園児が小学校の運動会に参加したり、幼稚園、保育園の先生と小学校教諭が情報交換を行ったりという活動は、多くの学校で既に行われていることであるが、もう少し子どもたちがスムーズに学校に慣れるための取組を入れた。具体的には、幼稚園や保育園で行われている遊びやエクササイズを事前に教えてもらい、それを、小学校でのグループ・アプローチの実践に生かしていった。その中でも、児童の実態に合わせて1年生の担任がエクササイズを改良して、子どもたちがより楽しく取り組める方法を模索した。それにより、今回の実践で、担任の意識が変わり、一人一人の子どもを、今まで以上に詳しく観察し、学校により適応できるような意識付けができたことは事実である。また、小学校教諭が保育園での学び方や遊び方を体験し、保育士による子どもへの対応や指導の仕方を学び、小学校での児童への対応や指導の参考にすることができ、幼稚園や保育園と小学校で協力しながら育てていくという体制が整ってきた。

今回の実践では、全ての項目で学校への適応が高まったとは言えなかったが、幼稚園や保育園と小学校との連携が深まったことや、担任が、今までは見過ごしそうな児童の行動に対しても注意深く見守り、学校への適応が図られたことは、大きな成果があったと考える。

【図7 小学校1年生の実態調査 平成22年度】

【質問事項】1年生の1学期(4,5,6,7月)に、次のような児童の姿がありましたか				
①授業中勝手に教室の中を立ち歩いたり、教室の外へ出て行ったりすることが度々あった。				
②担任の指示通りに行動しないことが度々あった				
③児童同士のけんかやトラブルが日常的に起きていた。				
④教育的な配慮や支援を要する児童に教諭が個別対応している間に、他の児童が勝手なことをしていることが度々あった。				
⑤私語が止まず、ザワザワしていることが度々あった。				
	4月	5月	6月	7月
①	32.4%	28.2%	21.6%	17.3%
②	32.4%	29.5%	23.3%	20.4%
③	20.7%	21.6%	17.7%	14.7%
④	20.1%	16.2%	12.0%	9.5%
⑤	7.8%	6.3%	3.9%	3.5%

(2) 中学校について 【図8 中学校（2校）3年間の適応度調査の結果】



8, 9の調査については6ページにも示してあるように、回答選択肢の番号を逆にしてあるので、低数値の方が適応度が高くなっている。

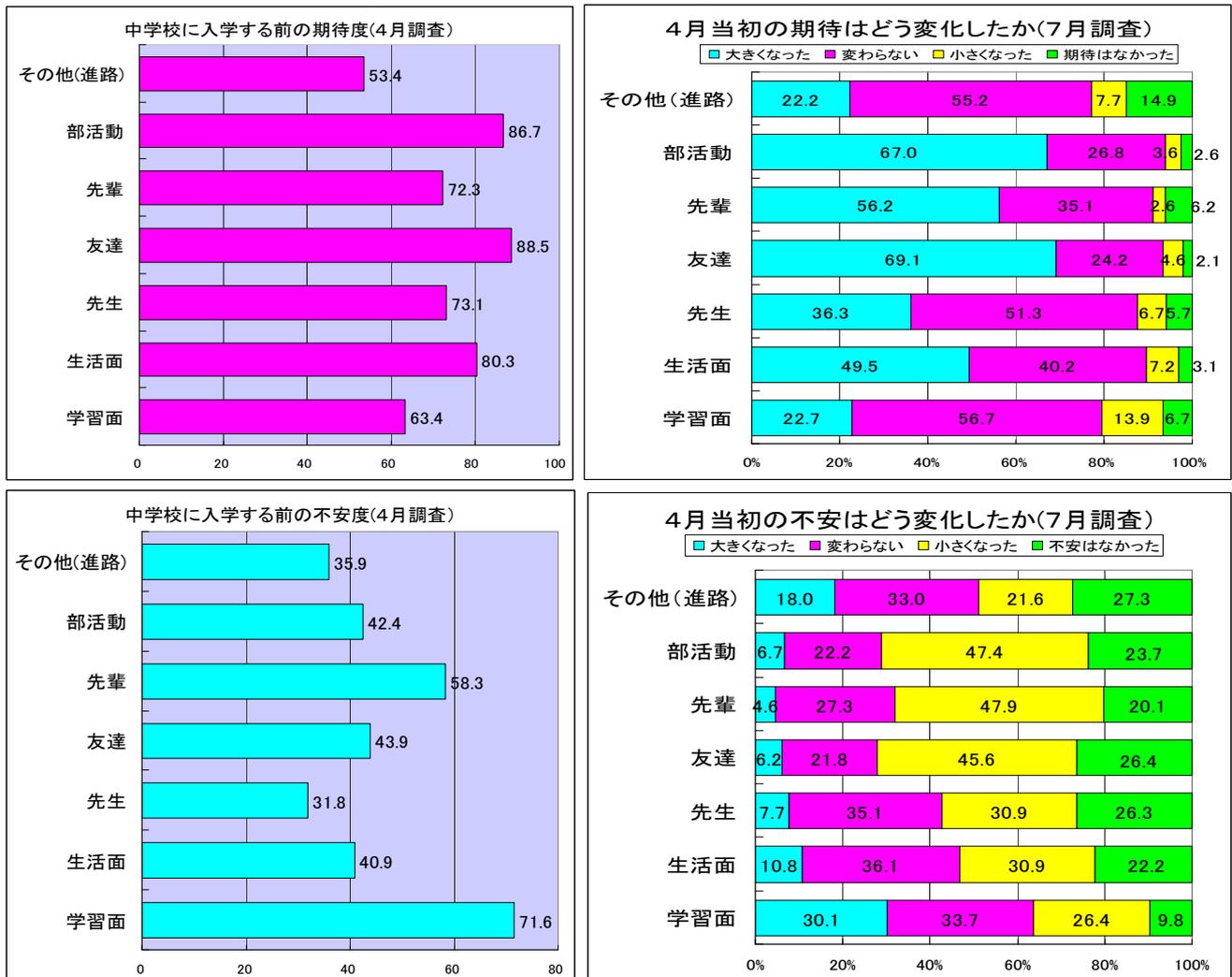
(適応度調査について)

まず、図8の適応度調査について考える。「学校への反発感傾向因子」については「1学校の先生に親しみを感じる」「2この学校に対して親しみを感じる」「3この学校の生徒であることを誇りに思う」の3項目について、どの項目もグループ・アプローチをする当初より値が低くなり適応度が高まっていると考えられる。また、「友人関係における孤立感傾向因子」では「4親しい友達がいる」「5友達と一緒にいると楽しい」「6勉強以外のことを友達とよく話す」「7友達とできるだけ交わるようにしている」の4項目についても、適応度が高まっている。これは、中学校に入学してのから様々な不安が少なくなり、さらに友達も増えていく中で学校に対する適応が高まったのではないかと考えられる。

これらを支える要因として、早くからグループ・アプローチを行い友人関係を深めていくことは大切だと考えられる。

一方「登校嫌悪感傾向因子」では、「8学校を休みたい気持ちになる」「9わたしにとって学校はいごちが悪い」の両項目とも適応度が高まっているとは言いがたい。特に「学校を休みたい気持ちになる」については、昨年度、今年度と休みたいと思っている割合がかなり増えている。これは、友人関係の適応度が高まっても、学校を休みたくなる気持ちにはそれほど影響しないということが考えられる。小学校時代よりも登校時間が早くなったり、学校での拘束時間が増えたりということが影響している可能性もある。

【図9 中学校入学への期待・不安】



(期待度不安度について)

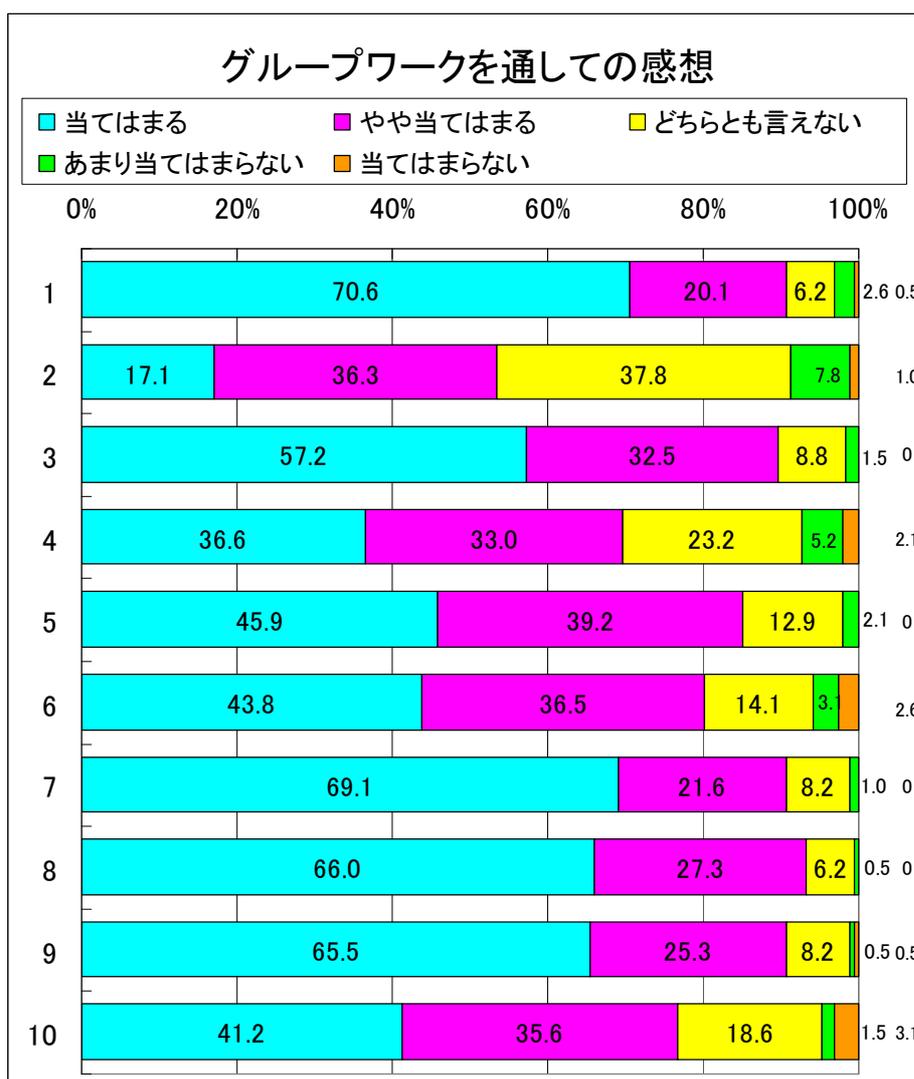
図9は、中学校入学時に入学する前の生徒の期待、不安について調べたものと、その後の変化を7月に調査したものである。中学校に入学する前の期待度が大きかったものは「部活動」「友達」「生活面」であった。それに対して、7月の調査では、期待がさらに大きくなったものは、「友達」「部活動」「先輩」の項目である。これらのことから、中学校に入学したばかりの生徒は、友達づくりと部活動に大きな期待をもって生活していることが分かる。

次に、入学する前の不安度が大きかったものは、「学習面」「先輩」「友達」などであった。それに対して、7月の調査では、不安が小さくなったものは、「先輩」「部活動」「友達」の項目である。部活動や先輩については、入部してから練習を重ねていくうちに、部活動の内容そのものや先輩に対する不安が減っていったものと考えられる。ただ、わずかではあるが、不安が大きくなったと答えている生徒もいるので、それらの生徒を注意深く見守っていく必要があると考えられる。

センター発表における協議の中で、少人数の小学校から入学する生徒が、多人数の小学校から入学する生徒に比べ中学校入学前の不安度が大きかったが、グループ・アプローチを行う中で人間関係をつくり、不安が小さくなったことが分かった。このことから、特に少人数で入学し友達づくりに不安を抱えている生徒にとって、グループ・アプローチによる人間関係づくりが有効であることが言える。

【図10 グループ・アプローチを通しての感想】

1	みんなでやると楽しかった
2	自分のよさや、自分のことについて分かってきた。
3	友達のよさや、友達のことについて分かってきた。
4	自分の気持ちが分かってもらえてうれしかった。
5	友達の気持ちを、思いやるようになってきた。
6	自分の意見が、言えるようになってきた。
7	協力することや、団結することが大切だと分かった。
8	お互いの意見を、ちゃんと聞き合うことが大切だと分かった。
9	みんなと仲良くできるようになったと思う。
10	クラスのふんいきがよくなったと思う。



(グループ・アプローチ後の感想)

グループ・アプローチ後の感想では「みんなと仲良くできるようになったと思う」「お互いの意見を、ちゃんと聞き合うことが大切だと分かった」「協力することや、団結することが大切だと分かった」「友達のよさや、友達のことについて分かってきた」「みんなでやると楽しかった」の5項目については90%以上が肯定的な感想であった(図10)。このことから、グループ・アプローチが人間関係づくりに役立っていることが分かる。しかし、「自分のよさや、自分のことについて分かってきた」という項目では、半分程度の生徒しか肯定的な感想をもっていない。今後グループ・アプローチを重ねていくことで、自己肯定感を高めていく必要性を感じる。

(校種間連携)

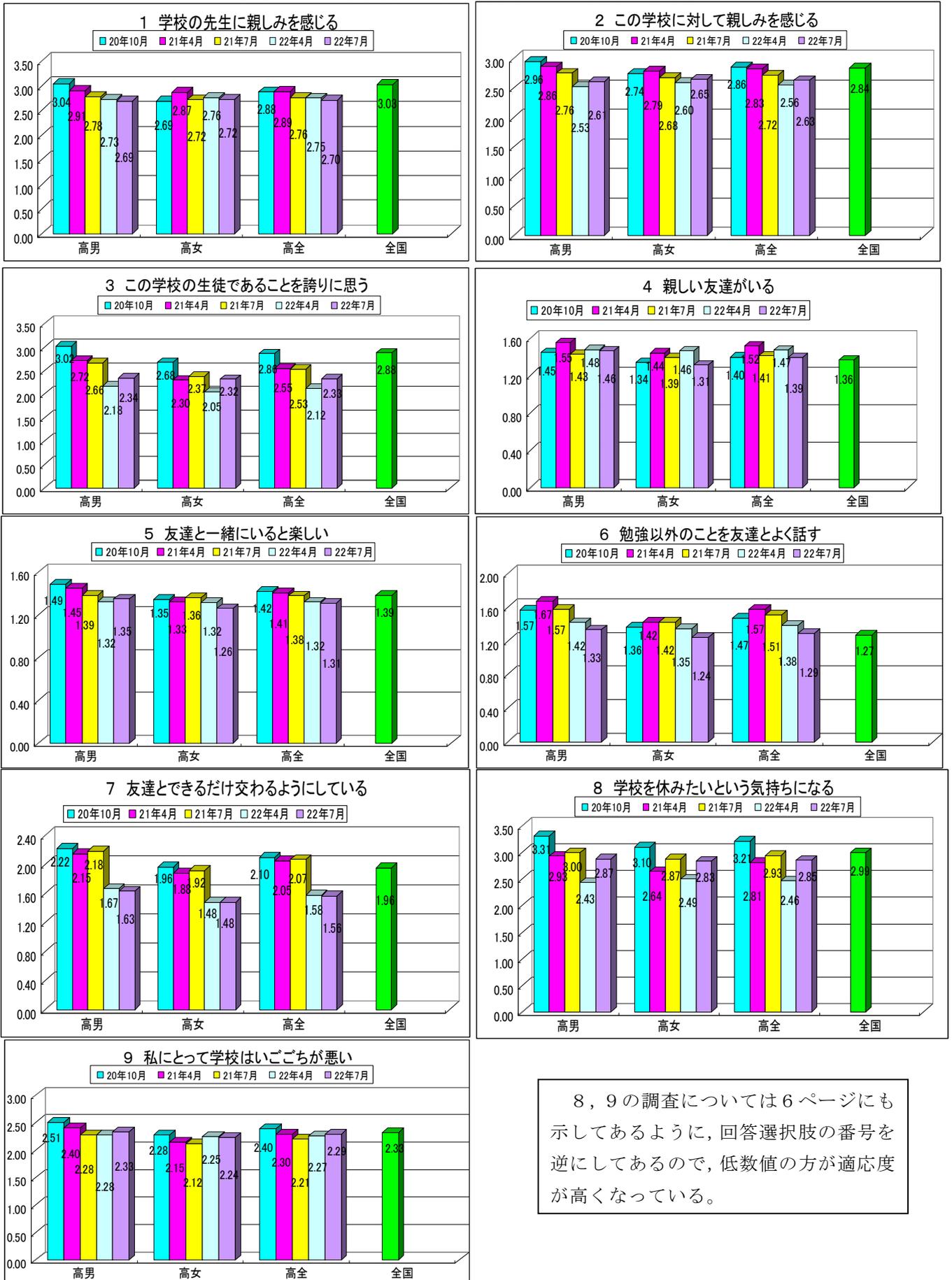
今回中学校に入学する前の小学校6年児童に「中学校生活で不安に思うこと」という内容でアンケートをとり、それを中学校に送ることで、中学校で不安を少なくしようという取組を行った。中学校の発表内容にもあるように、①入学当初の状況、②小学校6年生の時にもっていた不安、③現在の様子、④変化のきっかけの4項目について調べた(実践5-6～5-8参照)。その結果、多くの子が不適應を起こすことなく中学校生活に慣れていったことが分かる。変化のきっかけの要因としては、人前で話すこと、自分のよい発言が、グループ内やクラスの中に認められたことが挙げられ、グループワークトレーニングを通して、みんなと協力し、助け合うことの大切さが分かったと答えている生徒もいる。

このように中学校に入学するときに、不安をもった生徒をあらかじめつかんでおけば、特に注意深くその生徒の様子を観察し把握して、小さな変化にも気付くことができると思う。このような取組により、中学校への不適應が少なくなり、中1ギャップも減少していくものと考えられる。

さらに、学校間連携の一環として、中学校の体育大会に小学生を参加させたり、小学校の段階で部活動を見学させたりして、中学校に対する不安を少しでも取り除くという取組が、様々な中学校で実践されていくことが重要であろう。

(3) 高等学校について

【図 11 高等学校(2校)3年間の適応度調査結果】



8, 9の調査については6ページにも示してあるように、回答選択肢の番号を逆にしてあるので、低数値の方が適応度が高くなっている。

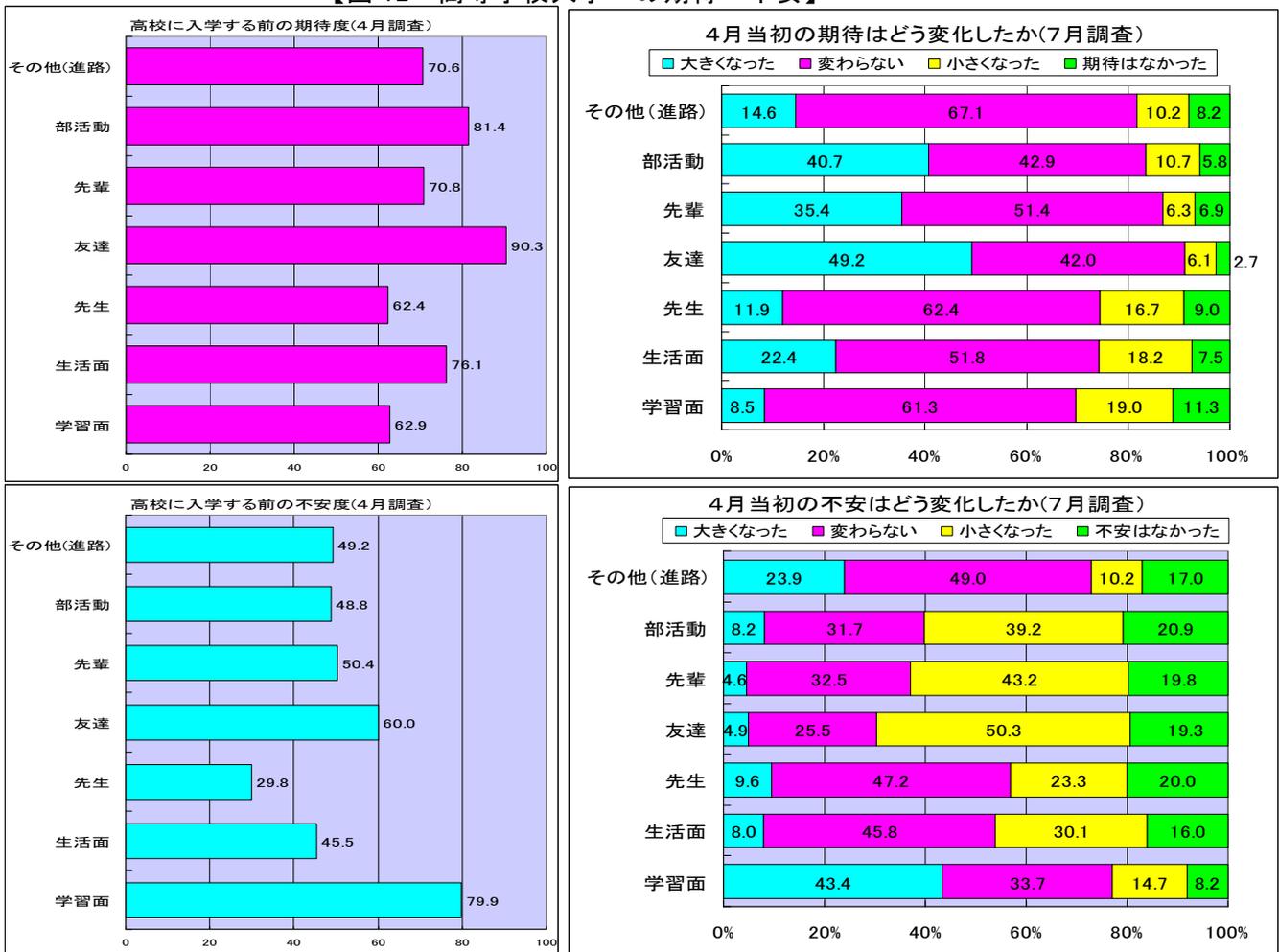
(適応度調査について)

まず、図 11 の適応度調査について考える。「学校への反発感傾向因子」については「1 学校の先生に親しみを感じる」「2 この学校に対して親しみを感じる」「3 この学校の生徒であることを誇りに思う」の3項目については、年度によって数値が高くなったり、低下したりしており、グループ・アプローチと適応の相関関係はなかった。高等学校については、自分で進路を選び入学したので、4月には学校に対する期待がかなり大きいですが、日数を重ねていくうちに、学習や進路に関する不安が増してきているものと考えられる。

「友人関係における孤立感傾向因子」では「4 親しい友達がいる」「5 友達と一緒にいると楽しい」「6 勉強以外のことを友達とよく話す」「7 友達とできるだけ交わるようにしている」の4項目についていずれも、数値が低くなっている。これは、高等学校に入学してから早めにグループ・アプローチを行い友人関係を広げていったことで、特に友人に関する不安が小さくなり、学校に対する適応が高まったものと考えられる。

一方「登校嫌悪感傾向因子」では、「8 学校を休みたい気持ちになる」「9 私にとって学校はいごちが悪い」の両項目については適応度が高まっている状態とは言えない。特に「学校を休みたい気持ちになる」については、中学校と同様に前年度、今年度と休みたいと思っている割合がかなり増えている。学校への登校の気持ちは、友人関係だけでなく様々な要因で変化するものではないかと考えられる。

【図 12 高等学校入学への期待・不安】

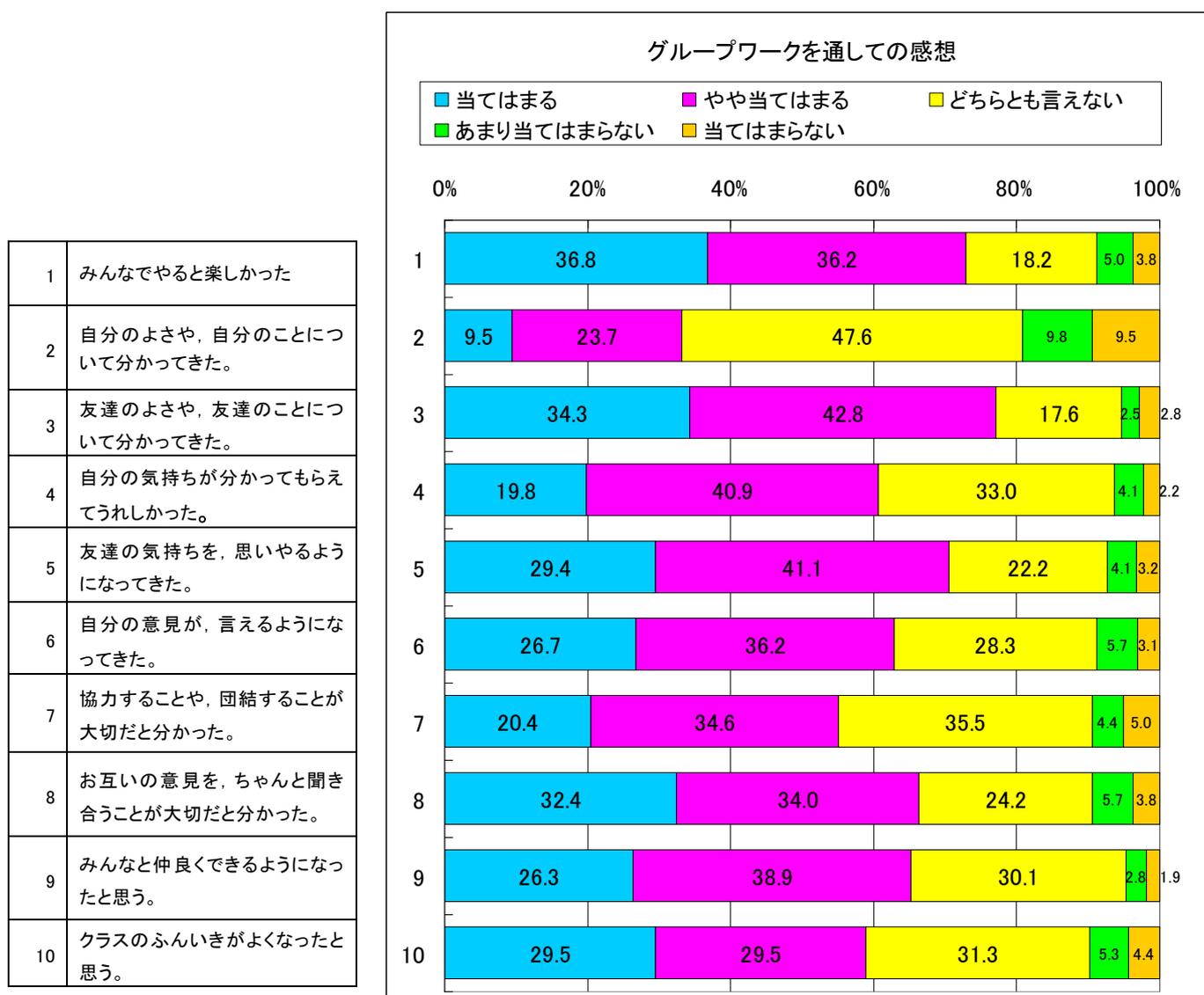


(期待度不安度について)

図 12 は、生徒の入学する前の生徒の期待、不安について調べたものである。高等学校に入学する前の期待度が大きかったものは「友達」「部活動」であった。そして、グループ・アプローチを体験した後に、期待がさらに大きくなったものも、「友達」「部活動」である。これらのことから、高等学校に入学したばかりの生徒は、友達づくりと部活動に大きな期待をもって生活していきながら、さらにその期待が大きくなっていることが分かる。

次に、入学する前の不安度が大きかったものは、「学習面」「友達」などであった。これに対して、7月の調査では、友達については不安が小さくなったと答えるものが多く、友人関係づくりを進めていく中で学校に適応していく様子が見えてくるが、学習面については不安が大きくなったと答える生徒が小さくなったと答える生徒の3倍近くおり、友人関係が構築できても学習に対する不安は大きくなっている状況が分かる。

【図 13 グループ・アプローチを通しての感想】



(グループ・アプローチ後の感想)

図13のグループ・アプローチ後の感想では「友達のよさや、友達のことについて分かってきた」「みんなでやると楽しかった」「友達の気持ちを、思いやるようになってきた」の3項目については70%以上が肯定的な意見であった。また、「自分のよさや、自分のことについて分かってきた」という項目以外では半数以上の生徒が肯定的な意見をもっている。このことから、グループ・アプローチが人間関係づくり、その中でも特に友達とのかかわりをつくっていく上で効果的であることが言える。しかし、「自分のよさや、自分のことについて分かってきた」については、30%程度しか肯定的な意見をもっていない。これは中学校でも同じような傾向だったが、グループ・アプローチを重ねて自己開示等をしていく中で、自己肯定感を高めていく必要性を感じる。

(校種間連携)

中学校から高等学校への校種間連携として、E中学校の卒業生の中でG高校に進学した生徒について21年度と22年度に不安や期待がどうなったのか追跡調査を行った。G高校の発表内容にもあるように、「期待していることや楽しみにしていること」「不安に思っていること」について中学校で調べたものを高等学校に送り、指導の資料とした。

この資料を参考にすることにより、生徒の不適応を早めに知ることができ不適応を防ぐことができるのではないかと考える。生徒の変化を見守っていくためには、観察と記録が重要となる。今回の取組で、今まで学校へ適応するのが難しかった生徒について早期発見、早期対応することで学校に適応できるようになったり、先生方にとっても特に注意深く見なければならぬ生徒がはっきり分かたりするなど効果が大きいと考える。中学校から高等学校へ進学するには、多くの学校に生徒が進学するため、中学校からの連絡が高等学校にどれだけ伝わるのか難しい面もあるが、できる限り情報交換を行っていくことが大切だと考える。

8 おわりに

今回の研究では、小学校1年生・中学校1年生・高等学校1年生の学校環境への適応について調べた。それぞれの入学時にグループ・アプローチを行えば、「友人関係における孤立感傾向因子」が減少し、学校に適応することが分かった。しかし、学校への適応が増せば、学校に行きたい気持ちが増すという結果には結びつかなかった。

各学校の実践の結果から、グループ・アプローチを実践していくこと、そして同時に幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校、中学校と高等学校の学校間での連携を深めていくことの大切さが分かった。小学校に進学する段階では、園児が幼稚園や保育園でどのような遊びをして育ったのか、園児の特性はどうかをきちんと連絡し、幼保小の先生方で一緒に育てていくという気持ちが必要だと考える。また、中学校や高等学校に進学する際には、一人一人の児童生徒がもっている不安を事前につかみ、新入学時に担任が不安を把握しながら指導していくことが、学校に不適応を起こす生徒を減少させることにつながるということが分かった。このように、グループ・アプローチと学校間連携を深めながら、児童生徒の健やかな成長を見守っていきたいと考える。そして、今後の教育活動において、この研究が児童生徒の学校への適応を促す効果的な実践を生み出すために役立つことを願ってやまない。

参考文献

図1～図4(文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より)

『心の健康と生活習慣に関する研究』文部科学省(2003)

(小学校2年生で調査, 平成11年度から3年間)

『心理測定尺度集Ⅳ』(サイエンス社 2007)

(中学生1年～3年で調査, 高等学校でも実施可能, 平成12年度)

『中1ギャップ解消に向けて』新潟県教育委員会(2007)

『Creative School』(プレスタム社 2003)

『協力すれば何かが変わる』〈続・学校グループワーク・トレーニング〉(遊戯社 1994)

『エンカウンターで学級が変わる 小学校編』(図書文化 2003)

『エンカウンターで学級が変わる 中学校編』(図書文化 2003)

『構成的グループエンカウンター事典』(図書文化 2004)

【実践報告1】

—児童の実態に即したエクササイズの改良実践を通して—

1 対象集団の状況

明治40年1月1日に開校されて以来、今年度で104周年を迎える歴史と伝統のある学校である。校名古屋市・豊田市のベッドタウンとして新興住宅やマンションも増え、ここ10年児童数は増加傾向にあったが、現在は落ち着きつつある。平成22年9月1日現在、児童数519名、19学級（うち、特別支援学級2学級）で町内においても平均的な規模の学校といえる。保護者の教育に対する意識は、学習参観や学校行事等への参加率が高いことから、学校教育に高い関心をもっていることがうかがわれる。

児童は、全体的に明るく素直で元気な反面、やや落ち着きがない面もある。学習面については、基礎・基本の定着に課題がみられる。しかしながら、児童質問紙では、「住んでいる地域の行事に参加している」「住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と回答した児童が非常に多い。また、「家でテストで間違えたところを勉強している」「学校で好きな授業がある」の回答率が高く、温かい地域に見守られながら、学習に楽しさを感じつつ学習に前向きに取り組んでいる姿が浮かびあがってくる。平成21年度入学の1年生については、保護者・児童ともに入学初日から落ち着きがみられた。経験年数豊富な学年主任の「これまで、何回も1年生を担当してきているが、こんなに落ち着いた1年生は稀である」という言葉からも、その様子がうかがわれる。

平成22年度入学の1年生は、事前の幼保小連絡会から、指導が大変な面があるとの聞いた。そのため、介助員、学級改善対応員を1年生に完全配置し、全クラスで学校環境への適応がスムーズにいくように配慮した。

2 実践内容

《平成20年度の実践》

(1) 研究概要の説明（教務主任より）

平成20年7月職員会議にて

(2) グループアプローチについての研修

ア 書籍、インターネット等による教務主任や1年生担任が、個々に研修を進めた。

イ 愛知県総合教育センターより講師を招いて現職教育（全職員）を実施した。

〈平成21年11月13日実施〉

(ア)「新入生の学校環境への適応に関する研究」についての、これまでの経緯と研究の内容についての説明

(イ)「グループ・アプローチとは？」エクササイズ実践を通して伝達講習

【職員の感想】

○ 自分たちも楽しめた。手軽にできるエクササイズもあるので、帰りの会等でもすぐに実践していきたい。

○ 促進者（ファシリテーター）の盛り上げ方が大切だなと感じた。

○ 明日からの教育実践に、すぐに役立てることができる有意義な現職教育となりよかった。

○ 本校がどういう研究に取り組んでいるのか、ようやく理解できた。

ウ 全学年によるグループ・アプローチ実践（各学年の計画による）

＜平成20年度 1年生の実践例＞

- | | | |
|-------------|-----------------------|--------|
| 1 実践日, 実践場所 | 平成21年11月17日（月）～19日（水） | 1年生各教室 |
| 2 実践内容 | 「進化じゃんけん」「猛獣が来たぞ」 | |
| 3 ファシリテーター | 学級担任 | |
| 4 実践の様子 | | |

机を下げて、スペースを作った段階から、子どもたちの表情は期待に膨らんでいた。「猛獣が来たぞ」については、保育園での経験者も多く、ファシリテーターが説明する段階から、身振り手振りでまねる児童が多かった。2つのエクササイズを合わせて20分程度の時間であったが、笑い声と笑顔にあふれたひとときとなった。「またやりたい人？」と聞かれ元気よく飛び上がる児童の姿が印象的であった。



【「猛獣が来たぞ」の説明】

5 実践をふり返って

グループ・アプローチの実践をすることで、普段は進んで話をするのが苦手な児童も強制的に人と人との関わりをもつことになり、その関わりの中で結構楽しそうに過ごしている姿が見られる。その姿からは、グループ・アプローチの繰り返しにより、スムーズな環境適応を促すことになるのではと予測できる。ただ、環境適応がいかにスムーズにいくようになったかを、どんな方法ではかるのか？1年生の能力を考えると心配である。

エ 平成21年度年間計画の作成

(ア) 保育園訪問（園で実践しているエクササイズのリサーチ）

A保育園とB保育園合わせて、平成21年度の1年生は40名にのぼる。小学校入学後、より自然な形で、エクササイズに入ることができるように園で実践している内容や方法を教えてもらい、配慮の必要な児童についての情報を得た。

＜A 保育園＞

わらべ歌、じゃんけん列車
たんじょう日♪ ボール運びゲーム

＜B 保育園＞

トランプ、オセロ。鬼遊び（増やし鬼、帽子とり、タカ鬼、こおり鬼）
「あの橋がおちるまえに（全員）」（通りゃんせ）「ゴキブリのおさんぽ（2人組）」
猛獣が来たぞ じゃんけん列車 なまけんぼうのペーター等

【二つの園に共通の留意点】

- 無理に参加はさせない。（「見ていていいよ」）
- ルールがわかってきたら参加させる。
- 見ている間に個別に声かけをする。

(イ) 書籍、総合教育センター資料による検索

(ウ) 平成21年3月校内計画完成

(エ) 平成21年4月第1学年実践計画完成

《平成21年度の実践》

(1) 実践のポイント

1年生の小学校生活への適応がスムーズに行えるかどうかは、1学期の過ごし方が大きな比重を占める。そこで、環境適応を促すグループアプローチ実践では、1学期の実践に力を入れ、一方で固定エクササイズを毎月1回実践し、その変容を追跡していく。

(2) 学年の実践計画

月 日	学 年 合 同 で 実 践		各学級で実践
	エクササイズ内容	促進・斡 事後・備考	
4月16日	①指定した色の物に触れるゲーム ②ぞうさんのさんぽ あいさつじゃんけん第1回	学年主任 体育館	サイコロトーキング 進化じゃんけん (適度に) ドッジビー
4月20日 ～23日	適応度調査第1回	担 任 教 室	介助員補助 センターへ提出
5月8日	進化じゃんけん改良版	担 任 教 室	1年2組のみ実践
6月11日	①かえるジャンプ ②集合ゲームNO, 1 あいさつじゃんけん第2回 【好きな食べ物】	学年主任 体育館	※5月末運動会のため 期間が空いた ふり返り アンケート
6月22日	じゃんけん列車	3組担任 体育館	
6月29日	おにごっこ (ふえ鬼, 手つなぎ鬼)	2組担任 体育館	
6月30日	おみくじトーキング (サイコロトーキング改良版)	担 任 教 室	1年3組のみ実践
7月6日	○×ゲーム あいさつじゃんけん第3回 【好きな勉強】	3組担任 体育館	ふり返り アンケート
7月17日	①1学期のふり返り ②集合ゲームNO, 2 あいさつじゃんけん第4回 【1学期で一番楽しかったこと】	学年主任 2組担任 体育館	ふり返り アンケート
9月7日	進化じゃんけん(全校) あいさつじゃんけん第5回 【夏休み楽しかったこと】	2組担任 体育館	ふり返り アンケート (人数のみ)
9月14日	おにごっこ	学年主任 体育館	★以後学習発表会の練 習時期へ
10月 9日 ～16日	適応度調査第2回		介助員補助 センターへ提出

(3) 実践例《固定エクササイズ（あいさつじゃんけん）》

- 1 実践日 平成21年 4月16日（木）
- 2 ファシリテーター 学年主任
- 3 実践の様子

学年合同体育の終わりに集合。

F「今から少し違ったことをやりますね」

「先生が言った『色のもの』をこの体育館の中で探して触ってね」

※ 白・赤・黄・黒で実施。



【あいさつじゃんけんの説明】

【集合】 F「ぞうさんのさんぽ」を肩たたきの動作等を入れながら歌う。

さんぽで ぶらぶら ぞうさん てんきがいいので ごきげん
おはなも ぶらぶら ぞうさん なかまをみつけて こんにちは

何回目かに突然「あくしゅ！」と言ってとなりの子と握手をさせる。

F：歌いながら「立って近くの人とあくしゅをしよう」

※ 2～4回練習形式で行う。少しだけ時間を長くしていく。

F「次は、5回目だよ。さあ何人とあくしゅできるかな？」5分間！

※こうして、「あいさつじゃんけん」へと入ることができた。

【整列】 → 【ふり回り活動】

各担任が振り返りカードを持って、1人ずつ聞き取りを行っていく。

（何人とあいさつできたか）

※ ニコチャンマークは、教室へ戻ってから色ぬり。（振り返りカード）

【退場】

担任同士で、退場の順番をじゃんけんを決める。子どもたちは担任に声援をおくる。

ア 実践の様子

前ページに示したとおり、最初のあいさつじゃんけんはファシリテーターの巧みな誘導で「ぞうさんのさんぽ」から、自然に結びつけることができた。それ以後の4回についても、エクササイズと組み合わせて単調にならないように工夫して試みた。以下の2点は、雰囲気盛り上げるために意図的に行った内容である。

- 最初の説明は、ファシリテーター以外の担任2人で必ず、見本を見せる。
- 体育館を退場する際、担任団がじゃんけんをして退場する順番を決めるなどして、じゃんけんに対する関心も高めさせる。

イ 考察

(ア) 自己申告による5回に渡る振り返りカードの結果から、「あいさつじゃんけん」で1年1組の児童の中で、あいさつをした人数の一覧表である。1回目の時、4人の児童が進んであいさつできなかったと判断していたが、2回目からは全員が「ニコちゃんマーク」に印をつけていることが分かった。全学級で10名（約1割）の児童が同様の結果であったが、5回目の時は1名もいなかった。中には、あいさつしたのが56名など、明らかに不可思議な数字も出てきているが、多くの人とあいさつしたと伝えなかったのだろうと判断した。また、2・3・4回目については簡単な感想を書かせた。下記の感想1に見られるように、「あいさつじゃんけん」をすることで、友達が増えていく喜びを感じているものもあり、固定エクササイズを繰り返すことで、関わりが広がっていることが判断できる。また感想3のように、自分でも進んであいさつができるようになったと感じている児童もいる。

感想1

「あくしゅで あいさつ」 (7) がつ

なんにんの ひとと あいさつできましたか。	8	にん
すすんで あいさつできましたか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
いつもよりいっぱいおともだちとけんけんができたからまたやりたいなまたやる時はもっとおどろいてやるよ		

感想2

「あくしゅで あいさつ」 (7) がつ

なんにんの ひとと あいさつできましたか。	9	にん
すすんで あいさつできましたか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
またにや、さしあやりました。いっしょにおともだちとけんけんのおどろいてやるよ		

感想3

「あくしゅで あいさつ」 (7) がつ

なんにんの ひとと あいさつできましたか。	19	にん
すすんで あいさつできましたか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
さいしょはけんけんができませんでした。いまはあいさつができていますよ。		



【児童の記入した振り返りカード】

【振り返りカードに記入する児童】

(イ) 児童の様子から

固定エクササイズは、他のエクササイズと抱き合わせて行うことが多かったため、他のエクササイズへの期待と関心が高まれば高まるほど、固定エクササイズを「つまらない」と感じる児童が増えてきたことも事実である。3回目くらいから、「次はあいさつじゃんけん…」とファシリテーターが口にすると「えーっ、嫌だ」という児童が出始めた。5回目の振り返り活動で感想を書かせなかったのも、飽きつつあることに目が向いてしまわないようにとの配慮からである。対象が1年生であるから、「えーっ」と言うわりには、いざゲームに入ってしまうと、5分間という制限の中で全員が思い切り走り回り、楽しんでいる。

ただ、新しいエクササイズに目を輝かせている児童の姿を見ると、固定エクササイズの実施方法は一考すべきであると感じた。

《平成22年度の実践》

(1) 実践を進めるにあたっての確認内容及び変更点

ア 実践は1学期を中心に進める。

イ 固定エクササイズは、昨年度の反省を生かし、実施は3回とする。

ウ 担任だけでなく、教務主任がファシリテーターを務める機会を多くし、担任は児童の活動補

助にあたりたり、抽出児の追跡にあたりたりする。

エ 21年度の実践で有効だったグループアプローチに改良を加え、より児童の興味・関心に沿ったものとする。

(2) 検証方法について

ア 固定エクササイズごとの「ふり返りアンケート」をもとにグループアプローチの有効性を検証する。

イ 各クラス1名の抽出児を挙げ、エクササイズを通して学級への適応の状況を追跡していく。抽出児決定の条件については下記のとおり。

- (ア) 発達障害の診断を受けていない児童
- (イ) 幼保小連絡会で、小学校への適応が心配であると指摘のあった児童
- (ウ) 学級担任の目からみて、適応が心配される児童（1か月経過した時点で）

(3) 22年度の実施計画

平成22年度計画（21年度の実践を踏襲）

月 日	学 年 合 同 で 実 践			各学級で実践 (定期的に)
	エクササイズ内容	促進・斡 学年主任 体育館	事後・備考	
4月14日	あいさつじゃんけん第1回	学年主任 体育館	ふり返り アンケート	サイコロトーキング 進化じゃんけん 猛獣狩り 等
4月20日 ～23日	適応度調査第1回	担 任 教 室	介助員補助 センターへ提出	
4月23日	①校歌練習 ②むすんでひらいて ③おもちゃのちゃちゃちゃ ④アブラハムの7人の子 ⑤ジャンケン列車 ⑥集合ゲームNO, 1	1年2組担任 音楽室		
5月29日(土) 運動会を予定：5月上旬以降実施しばらくできず。				
6月3日	①集合ゲーム ②誕生日チェーン あいさつじゃんけん第2回 【好きな食べ物】	教務主任 体育館	ふり返り アンケート	
6月11日(金) 担任団で協力して、おみくじセット7つ作成。				
6月14日 ～18日	おみくじトーキング (サイコロトーキング改良版)	各担任 教 室	各クラスで実践	
6月24日	①ジャンケン列車 ②猛獣狩りにいこう ③〇×ゲーム	1年3組担任 体育館		
6月28日 ～7月3日	①あいこじゃんけん ②進化ジャンケン ③あなたはだあれ ④せんせいとビンゴ ⑤フルーツバスケット	教務主任 教 室	各クラスで実践	↓
7月13日	①1学期のふり返り あいさつじゃんけん第3回 【1学期で一番楽しかったこと】	学年主任 体育館	ふり返り アンケート	
7月15日 16日	適応度調査第2回		介助員補助 センターへ提出	

(4) 実践例

<実践例1・・・おみくじトーキング>

1 平成22年度のおみくじトーキングについて（新しく改良したもの）

平成22年度で、新入生の環境適応に関する研究の協力校となって3年目、まとめの年となる。昨年度実践したグループアプローチの中で、サイコロトーキングを児童の興味・関心に即して改良した「おみくじトーキング」（昨年度は3クラス中、1クラスのみで実施）が児童に好評であったので、このグループアプローチを本校の目玉と考えた。本年度は3クラスで実施し、より児童が楽しく取り組める方法を模索していった。

2 改良点について

(1) おみくじ内容の検討

入学後2か月半経過して、児童の興味・関心の実態をもとに担任団におみくじの本数及び内容を再検討してもらった。

【おみくじの概要】

- 外側の袋は、画用紙でつくる。おみくじの棒は割り箸をやすりで削ったもの。
- 1番をひいたら・・・ぼく（わたし）の好きな**あそび**を答えることになる。
- はずれを1本入れ、はずれをひいたら「1・2・3」と数える間、班の仲間からくすぐられる。



【おみくじを作成する担任団】

【21年度版】

- ①本数5本（はずれ1本）
- ②内容（4つ）
くだもの・あそび・べんきょう
おりょうり

【22年度版】

- ①本数6本（はずれ1本）
- ②内容（5つ）
あそび・きゅうしよく・どうぶつ
いろ・てれび

(2) 隊形及び実施の仕方の検討

21年度は全員の机をあわせて実施した。整然とできるが、児童間の距離がありスキップをはかりにくいなどの課題もあった。そこで今年度は、座り方の工夫を考へるとともに、より抵抗の少ないくすぐり方も検討材料の1つとすることとした。



【21年度の実践の様子】



【22年度 1組の実践の様子】



【22年度 1クラス目の実践の様子】



【22年度 2クラス目の実践の様子】

(3) 改良の経緯

ア 身近な距離でおみくじを楽しめるよう、机をどけて椅子だけとした。(1組実践)

→ スキンシップが一番図りやすい。しかし、元気な児童がおみくじをすぐにひっぱったりしてしまう。くすぐられるとき、全員が一度に近づきすぎて、抵抗を感じる児童もいた。

イ 少しの距離感を保ちながら、おみくじをひきやすいようにと2クラス目の実践の際は机を真ん中におくこととした。(3組実践)

→ 前回の実践に比べて、整然と順番を守りながらひきやすい。しかし、はずれをひいた児童をくすぐる際、向かい側に座った児童は、立って反対側に回り込まねばならず、机があることでくすぐりにくくなった。また、くすぐられる方は人が回り込んで立って近づいてくることもあって、多少の威圧感を感じる。

ウ くすぐり方の検討。前に1つ机があるので、はずれをひいた児童は、両手を前に出して、手や腕のみを3回くすぐられるようにした。これにより抵抗なくくすぐられるようになり、児童がもっとも楽しみやすい隊形が成立した。(2クラス目の実践)

→ 昨年度も含めて今回の形が一番よいと感じた。

F 「これは何か分かるかな」・・・「おみくじ」

F 「おみくじわかる。やったことのある人」

・・・「ある」「ない」の両方の声があがる。

「2番がでたら」「たとえば、自分の好きな【給食】を答えるんだよ」

「赤が出たら」「はずれ」だね。

「その時は、1・2・3と数えるあいだだけくすぐっていいですよ」

F 「1度先生がやってみます」と言ってくじをひき見本を見せる。

黒板で内容を確認する。はずれのときのくすぐり方の見本をみせる。

F 「それではやってみましょう」・・・と内容に入っていく。

○ 実施日 1組：6月14日(月)⑤ 3組：6月17日(木)②

2組：6月21日(月)⑤

○ おみくじの実践時間

1組：10分 2組：12分 3組：7分

3 振り返りの活動

3クラスとも、担任によって振り返り活動を実施した。

「楽しかったか」「またやりたいか」等いつも通りに聞いた後、個々に感想を発表してもらった。「おみくじをひくときにわくわくした」「はずれをひくかなって思ってどきどきだった」「おみくじをひくのが久しぶりだったから嬉しかった」等、サイコロでなくおみくじという形で実施したことによる良さを実証する感想がみられた。

4 抽出児童の様子

A

最初は、静かに先生の説明を聞いている。テーブル椅子の向きを変えたときには、にこにこしてお友達をからかっている。くじ引きについては、順番を待つことができた。最初にひいたとき「私の好きな色は『オレンジ』です。理由は・・・」無言。でも、とても楽しそう。振り返り活動の場面でも手を挙げる。指名されて「楽しかった」と発言した。時々爪噛みはあったが、他の子の発表をだまって聞いた。

B

「着席してないよ」と担任の先生が一言伝えると、すぐに正しい姿勢になれる。おみくじの説明はしっかり聞く。1回目「ぼくの好きな動物はトラです」2回目「ぼくの好きな給食はラーメンです。とくにしょうゆ（笑い）」「ぼくの好きな遊びは、スーパーマリオギャラクシー、ぼく持っているもん」途中で椅子から転げ落ちたが友達の話も静かに聞いている。ただ、いつも顔のどこかをさわっている。振り返りの活動の時は友達の話はあまり聞いていないようであった。「はずれが1回も出なかった人！」のところで、手を挙げた。

C

姿勢は悪いが、担任の先生の話はきちんと聞いている。机をかえたとき、班の友達2人とすぐに会話を交わした。皆がおみくじをひいている間は、楽しそうにみんなと話したり笑ったりしている。友達にもいろいろと教えてあげている。自分におみくじが回ってきたら、少し照れながらもみんなに話せた。担任の先生に指名されて、楽しかったか聞かれると、「楽しかった」と言った。その後は、自分で手を挙げ「ドキドキした」「ハズレが出なくて楽しかった」などと言うことができた。それ以外は同じ班の仲の良い子と遊んでいた。

<実践例2・・・ジャンケン列車，猛獣狩り，○×ゲーム>

1 実施日時及び実施場所 平成22年6月24日（木） 体育館

2 参加者 1年児童全員，1年生担任団，介助員1名，教務主任
※ファシリテーター：1年担任

3 展開

※最初の集合は、各クラス男子2列，女子2列。

ア 整列及び今日の内容についての説明

「今日もゲームをやりますね」・・・喜ぶ。「わーい」

※児童の整列の様子についても触れた。

イ ジャンケン列車

「今日は曲をかけますので、曲が止まったら相手をみつけてジャンケンをします。勝った人は前に居て、負けた人は後ろにつきます」

※ 実際に一人前を出して、Fが具体的に全員の前で見本をやり方を示す。

「それでは、やります」と声をあげて出発。

※ 最初のみ曲が止まったとき、ジャンケンをするタイミングで迷う子も多かったが、2回目からはスムーズに行われた。ある程度の列の長さが生まれるまで継続し、終わる。「一番前に居る人だけ、立ってください」みんな拍手。

ウ 猛獣狩りにいこう

「次のゲームにいきます！みんな『猛獣狩り』ってゲーム知っている。やったことある」
・・・「知っている」「知らない」両方の声。

「猛獣狩りに行こうよ♪・・・やりだってもってるし♪」と歌い始め、槍や鉄砲のポーズをとる。「ここで先生が、『ライオン！』と言ったら4文字だから4人組をつくります。そして4人組ができた人から座ってください」それではいきます。

Fが歌いながら歩き始める「猛獣狩りに行こうよ」で、周りの子は先生についていく、すでにいい雰囲気。

「ゾウ」「ライオン」「マントヒヒ」「〇〇せんせい」（8文字）2人組はすぐにできるが、他の4文字・5文字については、できない児童もいた。8文字が終わり次のゲームに移った。

※ ここで、次のゲームに移るから、最初のクラス整列になるようにしてくださいとの指示を出した。

エ ○×ゲーム

「それでは、最後のゲームです。○×ゲームです。今から、8問問題を出します。その答えが、○だと思ったら□□先生の方に、×だと思ったら△△先生の方に寄ります。時間が来たらロープをひきますので、それからは移動ができません」

第1問「1組の先生は〇〇先生である」……と続いていく。

※ ルールについては、皆よく守っている。（ロープにさわる以外は）

オ 振り返り活動

○ 今日楽しかった人・・・・・・・・・・多数

○ またやりたい人・・・・・・・・・・多数

4 抽出児童の様子

A

ジャンケン列車・・・最初に、同じクラスの子とジャンケンをして、後は、ともにつながっていく。

猛獣狩り・・・・・・・・ずっと上記と同じ子と手をつないで回っていて、〇〇さんが中心に人数作りをしたところに入っていった。

B

表情・・・・・・・・・・保育園から仲の良い友達と一緒にいる。分団の近い子やクラスの子と一緒に離れない。

ゲーム・・・・・・・・・・楽しくゲームに参加できた。猛獣狩りもすべて8人まで作ることができた。

C

ジャンケン列車・・・前から4番目、楽しそうにつながっている。

猛獣狩り・・・・・・・・説明をしっかりと聞き、「2人組を作る」と言われたので目で合図し

て、〇〇さんとすぐに組んでいる。〇〇ちゃんと手をつないで移動クラス整列のときは、素早く移動。

<実践例3・・・1学期の振り返り、まとめ。>

- 1 実施日時及び実施場所 平成22年7月13日(火) 体育館
- 2 参加 1年児童全員, 1年生担任団, 介助員1名, 教務主任
ファシリテーター: 学年主任
- 3 展開

※最初の集合は、各クラス男子2列、女子2列。

ア 本日の活動内容の説明

T「今週木曜日には楽しいことがありますね」「かき氷」

T「そうだね、それは各クラスごとに行うけど、今日はこうやって全員揃って、1学期のことを振り返ったりします」

「元気よくあいさつをします」「お願いします」とても元気がよい。

「まず、1学期のことを振り返って、それからゲームもやります」

T「あと何日で1学期はおわりますか」「5日」「すごいね、5日ってすぐに出たね」

T「4月6日入学式にみんなが入学しているいろいろなことがありました」

「4月から振り返って心に残ったことは何かな」・・・・・・勢いよく手が挙がる。

★ 抽出児童3名中で、2名が手を挙げた。

1 体育・・・・この答えは、その後も何人かが発表した。

2 図工 3 友達ができたこと 4 遠足 5 運動会

・・・・掃除、踊りなど、行事名や行事の一番面を表した言葉で意見が続いていく。

T「それでは、覚えていることは何かな」

○勉強、平仮名、ひき算、計算カード、平仮名カード等、学習の内容の回答が続いていく。

★ ここであらかじめ用意したカードの回答に導いていくため、意図的に学年主任が「先生が一番思い出深いのはさっきも話したかも知れないけど……」と付け加え、「にゅうがくしき」と示し、ポイントとなる出来事に目を向けさせていく。これは、みんなが一番好きな時間だよね、と言って「きゅうしょく」を示しながら進めていく。最終的にこれだけの言葉を、児童が座る前の、舞台壁面に貼ってつけた。

にゅうがくしき えんそく うんどうかい きゅうしょく
すなあそび あさがお ぷーる

T「いろいろなことがあったよね。〇〇先生に来てもらったりしながら、ゲームもたくさんやったよね。どんなゲームをやったか覚えている人」

「ジャンケン列車」

「猛獣狩りにいこうよ」

「お誕生日でつながるやつ」

→「バースデーチェーンね」



【ファシリテーターが1学期の出来事を示している場面】

「○×ゲーム」「あいさつジャンケン」

T「それでは、今からその中の『集合ゲーム』をやります。みんなが、振り返った行事の言葉の数であつまりますね」

T「最初は『プール』です」

※ 担任がピアノで校歌を伴奏し、伴奏が続いている間は歩いている。
ホイッスルが鳴ったら、文字の数のグループを作って座る。

「えんそく」（4人グループ） 「すなあそび」（5人グループ）

「きゅうしょく」（6人グループ）と進めた。

★ 抽出児 A, B, Cの3人ともとてもよい表情で、ゲームに参加している。Cのみ、若干特定の男の子といる機会が多かったようだ。

T「今度は『あいさつじゃんけん』をやります」

「今日は、勝った人から『私が1学期に楽しかったことは、○○です』とさきほどみんなに思い出してもらったことなどを答えてくださいね」

「次に負けた人が、『私が1学期に楽しかったことは・・・』と答えてください」

「それから、後で教室に帰ってから、みんなに聞くけど、『何人の人とジャンケンをしたのか』、覚えておいてくださいね。時間は5分間です」

「はじめます『よーい・ピーッ』」

★ 抽出児 A, B, Cの3人とも先ほどと同様にととてもよい表情で移動している。硬さは全く感じられない。すっかりとこの学年集団に 安心感を抱いていることがわかる。



【集合ゲーム】



【あいさつジャンケン（3回目）】

T「最初のように並びます」

4 振り返り活動

(1) 体育館にて

T「最後のあいさつジャンケンは5分でした。少し聞いてみたいと思います」

「あいさつしたのは、『1人だったよ』という人・・・①」

「 〃 『2人だったよ』という人・・・ゼロ」

「あいさつしたのは、『3人だったよ』という人・・・②」

「 〃 『4人だったよ』という人・・・④」

「 〃 『10人以上だった』という人・たくさん手が挙がる」

※ この時、40人とか言う児童がいたので、「たくさんだったね」と言ってFが活動

をきって、終了とした。

(2) 教室にて

個人カードを記入 ①あいさつした人数

②すすんであいさつできたか

③感想記入 ★ 教室の反省は、別紙にて結果をまとめる。

3 その他の実践について

(1) 「1・2年生 なかよくしようかい」の実践について

ア 日時 平成22年4月27日(火) 1・2時間目

イ 目的

- 2年生が1年生の世話をしながら、校内を探検することにより、1年生のスムーズな学校適応を促す。
- 1・2年生のかかわりを深める。

ウ 活動の流れ

体育館集合(8:50)

開会式(8:55~)

探検出発(9:00)~探検終了(9:45)

閉会式(9:50~)

★ 閉会式でアサガオの種を2年生から1年生にプレゼントした。

エ 1年生の児童の様子

体の大きさもそんなに変わらない2年生に案内してもらえるとということで、安心して出発していく姿がみ

られた。全校に散らばった子どもたちには、1・2年生の担任団が補助に入り、とまどう児童はほとんどなかった。また、「がっこうたんけんチェックカード」を使い訪問した先で、サインをもらう活動を取り入れることで、一層の意欲を喚起した。

(2) 幼保小との連携

ア 保育園児の校内見学の会

本校に入学児童が多い、A保育園・B保育園の児童は全員が、スムーズな進学を促すために校内施設や1年生の活動の様子を見学に来ている。特に担任団の計らいで、1年生がお店屋さんを開いて、手作りの折り紙細工を渡す催しを行ったり、リコーダで楽曲演奏を披露したりする。また希望者があれば、その都度体験入学を実施してきた。特に平成22年度入学児童を持つ保護者の見学が多かった。



【体育館より出発】

1・2ねん がっこうたんけん チェックカード				
に し か ん				
たもくでき 1	6の1	6の2	6の3	
しりょうしつ	4の1	4の2	4の3	
*				
2の1	いきいき	2の2	2の3	

【チェックカード】



【保育園児の校内見学の会】



【園児と1年生児童との対面】

イ 入学前の幼保小連絡会の実施（2月末）

毎年、2月末に入学前の園児の情報交換を行っている。22年度入学に向けて、6つの園に来校してもらった。1、2人程度の入学園については、教務主任が直接園を訪問するなどして情報を得ている。

ウ 入学後の幼保小連絡会の実施（6月末）

小学校に入学後、2か月経過した時点で、児童の生活ぶりや学校に慣れたどうか等の情報交換を行う。懇談会での保護者との面談を児童の学校への適応に生かしている。

4 結果と考察

(1) 様々なエクササイズの実践を通して

ア 幼稚園・保育園とのかかわりを考えたエクササイズを教育活動の中に積極的に取り入れ、一方で固定エクササイズを毎月1回位置づけるなど、計画的なグループ・アプローチを実践していくことで、新入生の学校への環境適応をスムーズに促すことができた。

イ 校内において、グループ・アプローチ実践を積極的に実践することにより、一人一人のファシリテーターとしての技能が向上し、より質の高いグループ・アプローチ実践を展開することが可能となった。

ウ 現職教育でグループ・アプローチについて研修を深めたり、公開授業でエクササイズを取り入れたりすることにより、グループ・アプローチについての理解が深まった。



(2) 抽出児童の変容を通して

ア グループ・アプローチの実践を経るごとに、入学当初から適応が心配された抽出児童の3人ともが楽しそうに過ごす姿や笑顔が増えてきた。グループ・アプローチは、環境適応を促す上で効果的であった。

イ 抽出児童に担任や指導者が上手に手を差し延べれば、それをきっかけに個人やグループと自然にかかわりを持つことができるようになる。

ウ あいさつじゃんけんは回数を重ねたからといって、大きな変化はみられなかった。1つはもって生まれた性格的なことが大きく影響していると思われる。また、常に学年全体で実施したので、人数が多すぎたことも影響しているかも知れない。

(3) 適応度調査の結果から

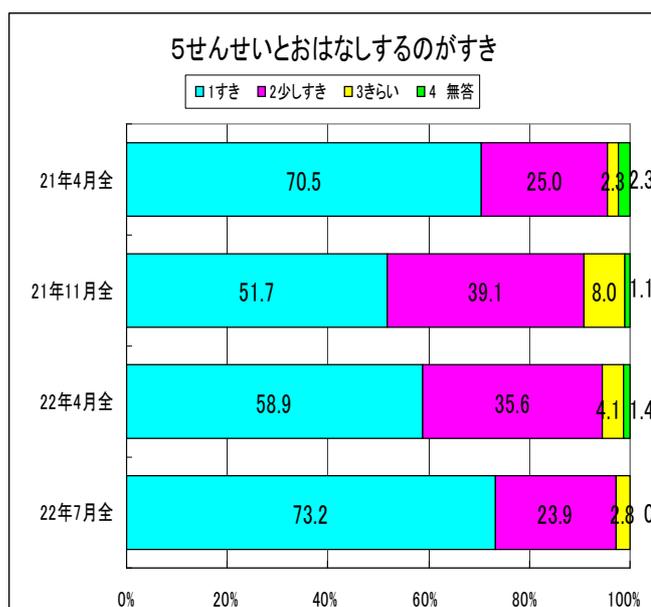
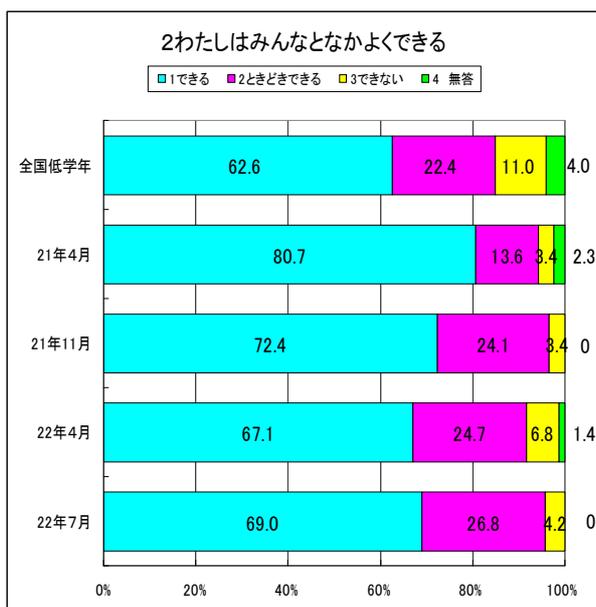
図1のとおり、「わたしはみんなとなかよくできる」という設問に対して、「できる」と回答した児童は、平成22年4月が調査をした4回の中では最も少なく、一方で「できない」と回答した児童は6.8%と最も多かった。園の情報どおり、これまでで一番心配と言われた1年生の実態を表しているのではと心配されたが、グループ・アプローチを繰り返し実践したことにより時々できると回答した児童は増え、「できない」と答えた児童は減った。この結果から児童相互間のかかわりが深まりつつあることを証明できた。

また、先生とのかかわりについても、図2のとおり、22年4月では「せんせいとおはなしするのがすき」の設問で「すき」と回答した児童は58.9%しかいなかったが、7月の調査では73.2%となり、約15%の増加がみられた。これは担任との関係が急に深まったことの証明となった。配慮が必要な児童が多いといわれた学年だけに、担任のかかわりが特に重要だったと考えられる。

【適応度調査結果】

【図1：わたしはみんなとなかよくできる】

【図2：せんせいとおはなしするのがすき】



5 今後の課題

- グループ・アプローチ実践を繰り返す中で、児童はエクササイズの繰り返しよりも、新しいエクササイズに強い関心を示すことが分かった。特に、本実践では固定エクササイズとして「あいさつじゃんけん」を位置付けたが、3回目より飽きを感じる児童が出始めていた。ルールを徹底するには複数回実践も考えられるが、児童の様子に合わせてエクササイズを変更していく柔軟性が必要である。ふり返りカードでは、3回目の実践で、泣き顔にマークを塗ったのは2人に過ぎず、エクササイズとしては効果があるものの、開始時には、「えーっ、やりたくない」などの声も聞かれた。
- グループ・アプローチ実践を参観するたびに、ファシリテーターの存在の大きさを痛感してきた。新入生の環境適応をよりスムーズに行っていくには、我々教師集団がファシリテーターとしての力量を向上させることが大切である。今後も現職教育等で取り上げ、一層研修を積み上げていかなければならない。

【実践報告 2】

— 幼保小連携による児童の実態を生かした実践を通して—

1 対象集団の状況

本校は、明治 43 年に設立され、本年度創立 100 周年を迎える。通学区域には、まだ多くの自然や田畑が残るのどかな環境ということもあって、子どもたちは素朴で温厚である。家庭のおよそ 3 割は三世帯同居の世帯で、学校の活動にも協力的である。

児童数は、平成 21 年度は 359 人、1 年生は 2 クラス、男子 27 人、女子 26 人である。平成 22 年度は 363 人、1 年生は 2 クラス、男子 29 人、女子 35 人である。1 年生の多くの子どもたちが 2 つの幼稚園と 3 つの保育園から集まってきている。幼・保・小連絡会での聞き取りでは、環境になじむのに時間がかかる、こだわりが強い、初めてのことが苦手であるなど、配慮を必要とする子の情報が寄せられた。

そこで、幼保小の密接な連携やグループ・アプローチの実践を通して、子どもたちの相互理解を図り、人とかかわることの楽しさ、安心感を体験させていきたいと考えた。

2 実践内容

(1) 幼保小の連携

不適応行動の様態は、授業中の立ち歩きや飛び出し、指示に従わない、けんかをするなど様々であるが、幼稚園や保育園でも「自己中心的な園児」「コミュニケーションがとれない園児」「規範意識の薄い園児」「自制心のない園児」が増えているという認識が高まっている。

不適応行動への望ましい対応としては、補助指導員の配置、学級規模の縮小などがあげられるが、すぐには実現できないと考えられる。そこで、本校では子どもの発達や学びの連続性を確保し、幼児教育から小学校教育へと円滑な接続を図るため、幼保小の連携を密にするとともに積極的に交流を行っている。

ア 就学児との児童交流活動

・ 運動会園児種目への参加

本校への就学を意識付けるため、次年度の就学予定児童を対象に参加しやすい簡単な「かけっこ」を運動会のプログラムに取り入れる。また、参加賞の手作りペンダントを用意して、5・6 年生が渡す。

・ 3 年生と園児との交流会

3 年生の総合的な学習として設定した単元「出身園の子たちとなかよくなろう」で、3 年生が出身幼稚園や保育園を訪問して、学校案内をしたり自分たちが考えたゲームと一緒に遊んだりして交流する。

・ 1 年生と園児との交流会

1 年生の生活科学習として設定した単元「もうすぐ 2 年生」で、近隣の二つの保育園の年長児が本校を訪問して学校案内を聞いたり、1 年生が 1 年間でできるようになったことの発表会に参加したりして交流する。



【3年生と園児との交流会】



【1年生と園児との交流会】

【3年生と園児との交流会感想】

【3年生児童の感想A】

朝からすごくドキドキしました。分だんの集合場所に行っても、学校に着いてもドキドキしていました。ほいく園には妹がいるのでよけいにきんちょうしました。わたしたちは、「おはじきふくびき」という遊びをしようかしました。「がんばれ」とか「いけー」とか、かけ声をかけました。勝ったチームは、とてもよろこんでくれました。

【3年生児童の感想B】

ほいく園には、知っている子がいるので楽しみだったけど、きんちょうもしました。わたしたちは、1年生の行事をしようかしました。ほいく園の先生が「1年生の行事だって、おぼえておかないとね」と言ってくれました。わたしたちの発表をちゃんと聞いてくれたのでよかったです。ほいく園の子が、楽しんでくれてうれしかったです。

イ 校種間教職員の連絡・交流

・ 幼保小連絡会

小学校1年生の出身園である5園の園長・教諭・保育士が小学校を訪問し、卒園児の授業を参観した後、学級担任と情報を交換し、懇談する。

・ 保育実習体験

近隣の保育園にて、夏季休業中に本校教諭が保育実習体験をする。幼児教育の実態を理解するとともに、保育園での学び方や遊び方、保育士による対応や指導の仕方を把握し、小学校での対応や指導の参考にす。また、就学児の様子を観察し、次年度のスタートカリキュラムの参考にす。

・ 園別幼保小連絡会

教務主任・特別支援担任・養護教諭が幼稚園と保育園を訪問し、学級編制のための情報を交換する。

ウ 平成22年度就学児を迎える取組

月	就学児との児童交流活動	校種間教職員の連携・交流	保護者対象の見学・相談
5	平成21年度 運動会園児種目への参加		運動会案内の配布 (各園を通して)
6		幼保小連絡会 6/29	特別支援教育を求める 親子教育相談 6/11

7			
8		現職教育夏季研修会 8/10 本校教諭の 保育実習体験 8/21	特別支援担任幼稚園保育園訪問
9			
10		保育園運動会見学	特別支援教育を求める 親子教育相談 10/14 就学時検診と説明会 10/27
11			
12		園別幼保小連絡会 12/7～11	
1		3年生担任と園との打合せ	
2	3年生と園児の交流会 2/16・23・26	1年生担任と園との打合せ	お話し会への招待 入学説明会 2/19 特別支援教育を求める 親子教育相談 2/25 特別支援教育を求める 親子教育相談 3/10・23
3	1年生と園児の交流会 3/2		
4	平成 22 年度 通学団上級生による 朝のお迎え活動	授業参観への招待	入学式前事前ガイダンス 4/5 入学式当日の説明会 4/6 PTA総会日学級懇談会 4/22 家庭訪問 4/26～30
5	なかよし遊びの開始 5/7 なかよし清掃の開始 5/25		季節の掲示物づくりの開始
6			学校一日公開（授業参観）6/7

エ 生活科を中心にした「スタートカリキュラム」の作成

幼児教育から小学校教育へと円滑に接続を図るため、入学当初の期間に行う児童が幼児期にしてきた遊び的要素とこれからの小学校生活の中心をなす教科学習の要素を組み合わせ合わせた合科的・関連的学習プログラムが「スタートカリキュラム」である。

本校では、平成 23 年度より実施し、入学直後から 2 学期の始まりまでの期間を特に接続期ととらえ、この時期を中心に幼児教育で経験してきた学び方や遊び方を取り入れ、生活に即した学習場面を設定することを考えている。

- ・ 目標は、「学校が大好きになり、明日も学校に来たいと思える子どもを育てる」である。

- ・ 題材は生活科で、表現は他教科で行う。
- ・ 単元名は、「なかよし いっぱい だいさくせん」とする。
- ・ 学習内容と合科的・関連的教科は、学校探検・アサガオ栽培（生活科・国語科・図工科）、自己紹介（国語科・体育科・図工科）友達何人できたかな（算数科）などである。

(2) 平成 21 年度年間計画

月	学年・学級での活動	関連行事・活動	幼保小連携
入学前			<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年生と園児の交流会 ・ 3 年生幼保 3 園訪問
4 月	第 1 回適応度調査 「あくしゅ大作戦」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠足 ・ 1 年生歓迎の会 	・ 児童館連絡協議会
5 月	「集合ゲーム」 「あくしゅであいさつ」	・ ペア学年清掃開始	・ 運動会園児種目参加
6 月	「集合ゲーム」 「ジャンケン列車」 「あくしゅであいさつ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談 ・ なかよし班活動開始 	・ 幼保小連絡会
7 月	「お誕生日会」 「進化ジャンケン」 「あくしゅであいさつ」	・ なかよし遊び	・ 保育実習体験（8 月）
9 月	「集合ゲーム」 「ジャンボジャンケン」 「あくしゅであいさつ」	・ なかよし遊び	
10 月	「集合ゲーム」 「三色鬼ごっこ」 「あくしゅであいさつ」 第 2 回適応度調査	・ なかよし遊び	
11 月	「集合ゲーム」 「こおり鬼」 「あくしゅであいさつ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかよし遊び ・ 教育相談 	
12 月	「お誕生日会」 「三色鬼ごっこ」	・ なかよし遊び	・ 園別幼幼保小連絡会
1 月	「ケイドロ」		
2 月	「さいころトーキング」	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかよし清掃 ・ なかよし遊び 	・ 3 年生幼保 3 園訪問 交流会
3 月	「お誕生日会」 「お楽しみ会」	・ 6 年生を送る会	・ 1 年生と園児の交流会

(3) 平成 22 年度年間計画

月	学年・学級での活動	関連行事・活動	幼保小連携
入学前			<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年生と園児の交流会 ・ 3 年生幼保 3 園訪問
4 月	「あくしゅであいさつ」 「握手大作戦」 第 1 回適応度調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年生歓迎の会 ・ 通学団上級生による朝のお迎え活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童館連絡協議会
5 月	「集合ゲーム」 「あくしゅであいさつ」 「学校クイズ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠足 ・ なかよし班活動（遊び・清掃）開始 ・ 2 年生と探検しよう 	
6 月	「集合ゲーム」 「ジャンケン列車」 「進化ジャンケン」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談 ・ なかよし遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小連絡会
7 月	「お誕生日会」 第 2 回適応度調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかよし遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習体験（8 月） ・ 幼保小連絡会
9 月	「ケイドロ」 「ジャンボジャンケン」		
10 月	「三色鬼ごっこ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会 1・6 年生ペア競技 ・ なかよし遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会園児種目参加 ・ 保育園運動会見学
11 月	「こおり鬼」	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかよし遊び ・ 教育相談 	
12 月	「お誕生日会」	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかよし遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園別幼保小連絡会
1 月	「さいころトーキング」		
2 月	「いろいろ鬼ごっこ」 「猛獣狩り」	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかよし遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 年生幼保 3 園訪問
3 月	「お誕生日会」 「お楽しみ会」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 年生を送る会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年生と園児の交流会



【1 年生歓迎の会】



【なかよし遊び】



【なかよし清掃】

(4) グループ・アプローチの実践例

ア 集合ゲーム（2クラス合同・ファシリテーター S 教諭）

(ア) ねらい

入学して間もないので、ゲーム自体の面白さよりもゲームを通して、子どもたちの相互理解を図り、人とかかわることの楽しさ、安心感を体験させる。

(イ) 活動の内容

- ・ 体育館に集合し、初顔合わせのあいさつを交わす。
- ・ ファシリテーターが「集合ゲーム」の方法を説明する。
- ・ 体育館全体に広がって、自由に歩き回る。
- ・ ファシリテーターに指示された人数（3人・4人・5人・・・）で集まり、指示された人数が集まったら座る。
- ・ 同様に、タンバリンをたたいた数で集まる。
- ・ 男女混合で、指示された人数で集まる。
- ・ 1組・2組混合で、指示された人数で集まる。
- ・ コアラ・ライオン・ナマケモノ・アフリカゾウ・シロナガスクジラのように、動物の名前の字数で集まる。
- ・ 集合して感想を聞く。
- ・ 終わりのあいさつをする。



【ゲームの説明】

(ウ) 参加者の様子

初めて2クラス合同で行うゲームなので、最初は戸惑う子もいたが、予想以上に男女やクラスの別なく楽しんでゲームに参加する子が多かった。また、積極的に自分から友達とかかわるなど、普段教室の中では見られない行動をとる子もいた。実践後の感想でも、「楽しかったので、また、みんなで遊びたい」という声が多かった。

(エ) 課題

ゲームに参加するよりも、少人数で固まって体育館内を走り回っている男子が何組かいたが、担任の働き掛けによりグループに入ることができた。ゲームの中で担任がどのようにファシリテーターを補助し、子どもたちとかかわるかを考えていかなければならない。実践後に、1年生から「次は、どんなゲームをするの」とか「今度は、いつゲームをするの」と声を掛けられるようになった。ファシリテーターは、普段1年生とかかわることが少ないため、これをきっかけに子どもたちとの関係を少しでも深め、実践がスムーズに行えるようにしていかなければならない。

イ 集合ゲーム・ジャンケン列車（2クラス合同・ファシリテーター S 教諭）

(ア) ねらい

集合ゲームについては、5月と同じ内容で行い、子どもたちのゲームへの参加の仕方を比較する。ジャンケン列車については、学年全体のリレーションづくりを行う。

(イ) 活動の内容

- ・ 体育館に集合し、あいさつをする。
- ・ ファシリテーターが「集合ゲーム」の確認をする。
- ・ 体育館全体に広がって、自由に歩き回る。
- ・ ファシリテーターがたたいたタンバリンの数（5人・6人・7人・・・）で集まり、指示通りの人数が集まったら座る。

- ・ ファシリテーターに指示された動物の名前の字数で集まる。
- ・ 担任の先生に指示された動物の名前の字数で集まる。
- ・ 友達に指示された動物の名前の字数で集まる。
- ・ ファシリテーターが「ジャンケン列車」の説明をする。
- ・ 体育館内を自由に歩きまわり、出会った人とジャンケンをする。負けた人は、相手の肩に両手を置いて、後ろにつながる。つながった後は、別の先頭の人同士でジャンケンをする。負けたらその列の全員が相手の後ろにつながる。同様に行い、最後は一つの輪になる。
- ・ 「ジャンケン列車」のゲーム方法を少し変えることを説明する。
- ・ 体育館内を自由に歩き回り、出会った人とジャンケンをする。負けた人は、相手の肩に両手を置いて、後ろにつながる。つながった後は、別の先頭の人同士でジャンケンをするが、ジャンケンで負けた先頭の人だけが、相手の列の後ろにつながる。
- ・ 集合して感想を聞く。
- ・ 終わりのあいさつをする。

(ウ) 参加者の様子

「集合ゲーム」は、5月に行ったことにより、遊び方を理解し積極的に参加する子が増えた。学級担任があまりかかわらなくても、他の子をリードして人数を調整する子が出てきた。また、タンバリンの音に合わせて、自然にみんなで大きな声で数を数えることができた。動物の名前をファシリテーターだけでなく、学級担任や子どもたち自身に言ってもらったことにより、雰囲気が大変盛り上がった。

「ジャンケン列車」では、ジャンケンに負けると列の後ろについているだけになってしまうため、やる気をなくしてふざける子も目立った。そのため、少し方法を変え、ジャンケンに負けた先頭の人だけが相手の列の後ろにつくことにした。それにより、一つの輪にはならなかったが、ジャンケンをする機会が増え、雰囲気は盛り上がった。

(エ) 課題

時間が長くなると、集中力が続かなくて何人かで集まってふざけてしまう、ゲームの内容が少し変わると指示された内容の理解度に大きな差が出るなど、1年生としては課題も見られた。また、「次は、鬼ごっこがしたい」とか「ドッジボールがしたい」というように、子どもたちから期待する声が多く出されるようになった。しかし、グループ・アプローチがただのゲームになってしまったり、楽しいから早く次のゲームがしたいというだけで終わったりしないようにするにはどうしたらよいかを考えなければならない。

ウ お誕生日会・進化ジャンケン（2クラス合同・ファシリテーター S 教諭）

(ア) ねらい

1学期の誕生日会を開き、4月・5月・6月・7月生まれの子を、学年みんなでお祝いをする。誕生日会のプログラムの中にゲームを入れ、「進化ジャンケン」を行う。ゲームのねらいは、自分が成長・変化していくことに気付く。また、友達も成長する仲間であることに気付く。

(イ) 活動の内容

- ・ 体育館に集合し、子どもたちの代表の司会で開会する。
- ・ 4月から7月生まれの子は、みんなの前へ出る。
- ・ 「ハッピー・バースデー」をみんなで歌う。
- ・ ファシリテーターが「進化ジャンケン」の説明をする。
- ・ 「ゴキブリ」から始め、「カエル→サル→人間」と進化する。同じ生き物の仲間同士でジャン

ケンをして勝つと進化する。負けると、一つ前の生き物に戻る。人間同士でジャンケンをして勝つと「神様」となり終了。

- ・ 4月から7月生まれの子に、プレゼントを贈る。
- ・ 閉会する。

(ウ) 参加者の様子

「お誕生日会」は、学級担任の助けを借りながらも司会・進行を子どもたち自身で行うことができた。お祝いをしてもらう子どもたちもうれしそうであった。

「進化ジャンケン」は、「ゴキブリ・カエル・サル」の動作をしながらジャンケンをするということで恥ずかしがるかと思ったが、男女とも大はしゃぎでそれぞれの生き物になってジャンケンをしていた。普段は、あまり自分を出さない子ども、雰囲気につられて楽しく参加することができた。1・2年生には、楽しめるゲームであった。

(エ) 課題

1学期末ということで、子どもたちにある程度の人間関係が育ってきており、ファシリテーターとしては、1年生の子どもたちの実態や集団の状況を把握してグループ・アプローチのねらいや方法を考えなければならないが、不十分であった。学級担任との情報交換や連携を深めなければ、より効果的なグループ・アプローチはできないと反省した。



【お誕生日会】



【進化ジャンケン】

エ 集合ゲーム・ジャンボジャンケン（2クラス合同・ファシリテーター S 教諭）

(ア) ねらい

3回目の「集合ゲーム」であるが、今回はゲーム自体の面白さよりも、「ジャンボジャンケン」のチームづくりをするための導入として行う。「ジャンボジャンケン」は、3人組で友達との触れ合いを楽しむ。

(イ) 活動の内容

- ・ 体育館に集合し、あいさつをする。
- ・ ファシリテーターが「集合ゲーム」の確認をする。
- ・ 体育館全体に広がって、自由に歩き回る。
- ・ ファシリテーターに指示された人数で集まり、指示通りの人数が集まったら座る。

- ・ 最後に指示された人数の3人組で座る。3人になれなかったら、4人組で座る。
- ・ ファシリテーターが「ジャンボジャンケン」の説明をする。
- ・ 3人でチームを作り、「グー」は全員がしゃがむ。「チョキ」は真ん中の1人がしゃがみ、両端の2人が手をあげて立つ。「パー」は全員が手をあげて立つ。
- ・ 対戦相手を決め、何を出すか相談した後、ジャンケンをする。
- ・ 各チーム5枚のゲーム券を持ち、勝ったチームは負けたチームからゲーム券を1枚もらう。
- ・ たくさんのゲーム券を集めたチームが優勝。
- ・ 集合して感想を聞く。
- ・ 終わりのあいさつをする。

(ウ) 参加者の様子

ジャンケンをするときに「グー」「チョキ」「パー」の何を出すか3人で相談しなければならないが、子どもたちなりにゆずり合ったり、一人がリーダーになって意見を調整したりと、コミュニケーションを図りながら遊ぶことができた。ジャンケンをするときにも、最初のうちは3人の息が合わなかったが、遊びを進める中でタイミングが合わせられるようになった。

(エ) 課題

多くのグループは、コミュニケーションをとりながら遊ぶことができたが、一人が主導権を握ってしまい、他の2人はジャンケンの動作をするだけというチームも見られた。ファシリテーターや学級担任がそのチームにかかわりながら、アドバイスをした。最後の感想で、鬼ごっこをしたいという希望が子どもたちから大変多く出されたので、次回は子どもたちの希望に沿って「鬼ごっこ」をする約束をした。

オ 三色鬼ごっこ（2クラス合同・ファシリテーター S教諭）

(ア) ねらい

1年生を3つのチームに分けて鬼ごっこをするということで、1チームの人数が多くなる。小グループでの遊びではなく、大勢の友達と触れ合い、協力して遊びを楽しませる。また、新しい人間関係を発展させるきっかけにする。

(イ) 活動の内容

- ・ 体育館に集合し、あいさつをする。
- ・ 集合ゲームをしながら、最後に3人組をつくる。
- ・ 3人組で集合し、赤チーム、青チーム、黄緑チームに分ける。
- ・ 赤・青・黄緑のビブスを配る。
- ・ ファシリテーターが「三色鬼ごっこ」の説明をする。
- ・ 赤・青・黄緑チームの陣地を指定する。
- ・ 1回戦は、赤→青、青→黄緑、黄緑→赤を捕まえる。捕まったら、相手の陣地に連れて行かれる。味方がタッチすれば、逃げるができる。逃げ切った子の多いチームが勝ち。
- ・ 1回戦終了。成績発表をして、互いに拍手をする。
- ・ 2回戦の前に、チームで作戦会議をする。
- ・ 2回戦は、黄緑→青、青→赤、赤→黄緑を捕まえる。
- ・ 2回戦終了。成績を発表して、互いに拍手をする。



【三色鬼ごっこ】

- ・ 集合して、感想を聞く。
- ・ 終わりのあいさつをする。

(ウ) 参加者の様子

体育館の中を所狭しと走り回る子どもたち。ねらいを定めて敵を追いかける子の後ろに迫る敵の姿。追いかけながら、その一方では逃げなくてはならないところが、三色鬼ごっこの面白さであるが、1回戦目は理解できていないようで、むやみに走り回るだけで面白さも半減してしまった。そこで、2回戦の前に、追いかけながらも敵を見ること、陣地を守ること、捕まった子を協力して助けることなどをアドバイスして、作戦会議を開かせた。2回戦は、運動量だけでなく、助けたり助けてもらったり、協力して敵を捕まえたりと、三色鬼ごっこの楽しさを味わえたようで、子どもたちも満足した様子であった。

(エ) 課題

1年生には、ルールが分かりにくく理解度に大きな差があった。そのため、1回戦はただ走り回るだけの遊びになってしまった。2回戦の前にルールを再確認し、チームで作戦会議を開いたことが、2回戦の盛り上がりにつながった。1チームの人数が多いので、作戦会議とは名ばかりであったかもしれないが、チームの団結や友達同士のコミュニケーションをとるということでは、効果があった。

カ あくしゅであいさつ（各クラス・ファシリテーター 担任）

グループ・アプローチ終了後、教室で「あくしゅであいさつ」を行った。「あいさつをしてあくしゅ」「好きな食べ物を言ってあくしゅ」「好きな遊びを言ってあくしゅ」「ジャンケンをしてあくしゅ」など、子どもたちが飽きないように進めた。

終わった後は、カードに名前、あいさつした人数を書かせ、進んであいさつができれば「ニコちゃんマーク」に色を塗り、進んであいさつができなかったら「残念マーク」に色を塗らせた。毎回、ほとんどの子どもたちが進んであいさつができ、「ニコちゃんマーク」に色を塗ることができた。このことから、グループ・アプローチの遊びや「あくしゅであいさつ」の時間が楽しく過ごせたことが分かった。

2学期から、カードの振り返り欄に感想が書ける子は書かせたところ、「みんなと遊べて楽しかった」「また、みんなと遊びたい」「ゲームがすごく楽しかった」「次のゲームを楽しみにしているよ」「先生と遊べて楽しかった」など、多くの子どもたちから期待通りの反応が返ってきた。あいさつをした人数については、1年生ということもあり人数を把握できていなかったり、ふざけてありえない数を書いたりするため、4月から10月までの特徴や変化を捉えることができなかった。

そのため、平成22年度については、あいさつをした人数については、書かなくてよいことにし、進んであいさつができたかどうかの確認のため「ニコちゃんマーク」あるいは「残念マーク」に色を塗らせた。また、7月からは振り返り欄に感想が書ける子は書かせた。5月・7月とも進んであいさつができなかったという子が1名いたが、ほとんどが積極的に友達とあいさつを交わすことができた。感想も半数近くが書くことができた。「楽しかったので、また遊びたい」「また、今度も楽しくゲームをしたい」「すごく楽しかったから、次は鬼ごっこをしたい」「今度は、宝探しをしたい」「ゴキブリからカエルになったけど、またカエルにもどったよ」など、1年生なりにゲームを振り返ることができた。振り返り欄に簡単に感想を書かせることは、子どもたちの行動や気持ちを把握する上で効果的であった。

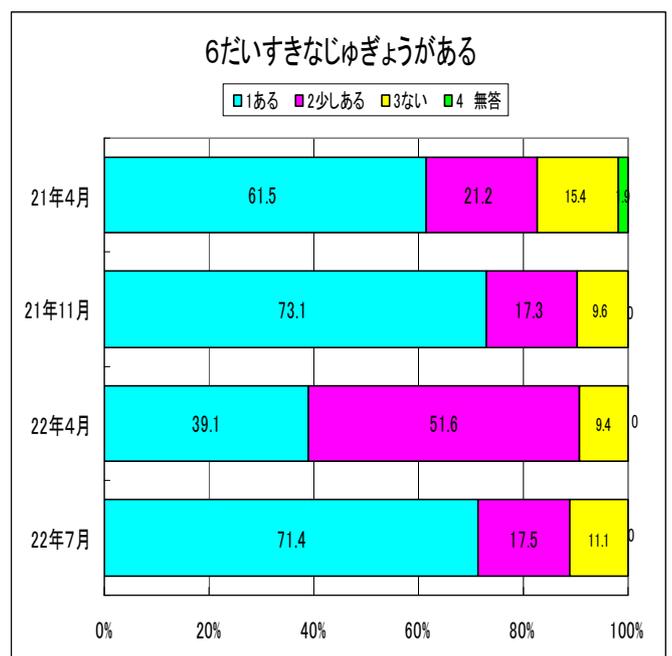
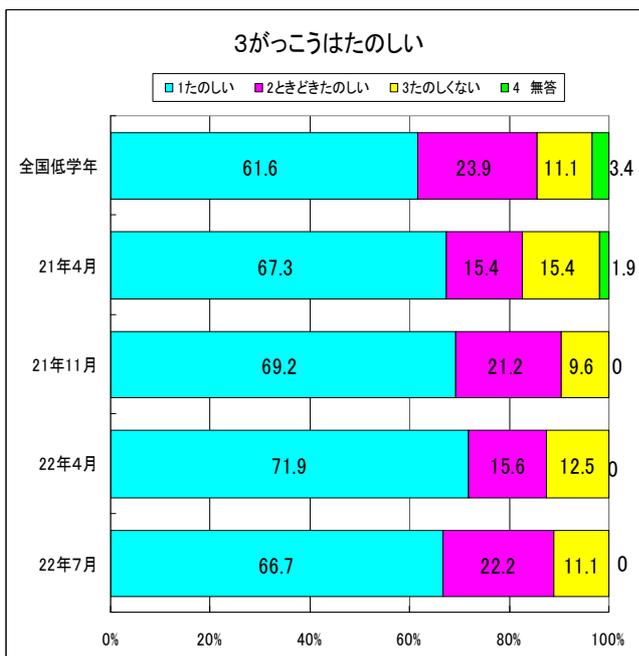
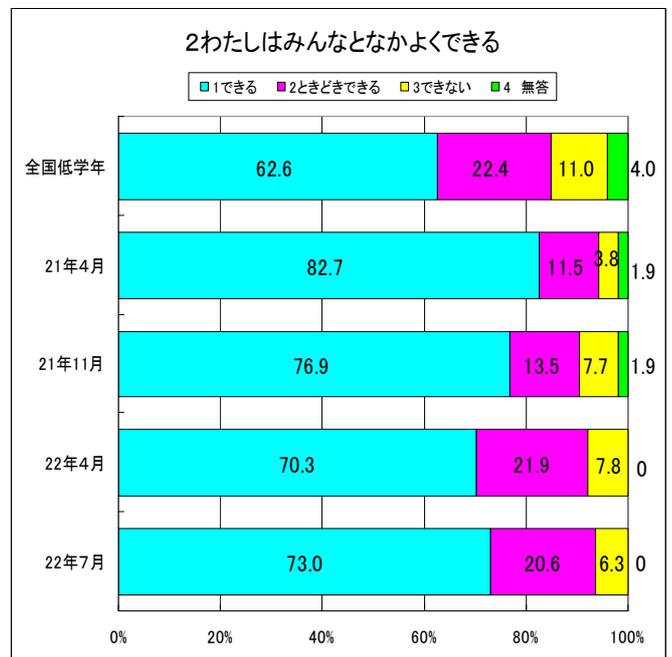
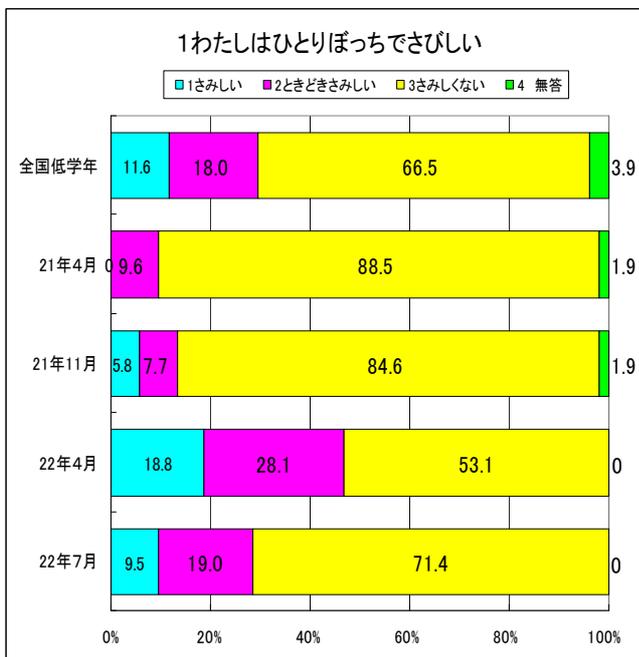


【あくしゅであいさつの感想】

3 結果と考察

(1) 適応度調査より

【適応度調査結果】



平成 22 年度に実施した「適応度調査」のアンケート結果を 4 月と 7 月で比較したところ、子どもたちに次のような変容が見られた。

「1 わたしはひとりぼっちでさびしい」について、4 月は「さびしい」と「ときどきさびしい」を合わせて半数近くおり、特に今年度はその割合が高かった。しかし、7 月には 3 分の 1 以下に減少した。また、「2 わたしは、みんなとなかよくできる」についても、4 月と比較し 7 月は「なかよくできる」がわずかではあるが、割合が高くなった。入学当初の小学校生活は、子どもたちの心に大きな不安やストレスを与えている。また、子どもたちは 2 つの幼稚園と 3 つの保育園から集まってきており、親しい友達も少ないことが、孤独感にもつながっていると考えられる。そこで、入学して早い時期に受容・共感し合える人間関係、仲間づくりを行うための働き掛けが必要である。子どもたちの中には、友達に声をかけることさえ苦手な子もいる。グループ・アプローチにより、人とかかわる楽しさを味わい、安心感や連帯感が得られるようになるのではないか。1 年生にとって、遊びの中で体を動かし、友達と触れ合うことは、学校生活に適応する上で有効な手段といえる。

「3 がっこうはたのしい」について、4 月と 7 月を比較すると、全体としては「たのしくない」の割合がわずかではあるが低くなり良かったが、「たのしい」の割合がやや低くなるという結果にもなった。学校生活に慣れるに従って、自己主張が強すぎて友達とトラブルになったり、小グループで人間関係が固定化したりするなど、集団の中での人間関係等に問題が生じていると考えられる。しかし、グループ・アプローチをきっかけに、不満はあっても友達の意見に合わせたり、少人数で遊んでいる子が誘い合って遊んだりできるようになった。また、孤立している子に声をかけて仲間に入れるなど、友達関係のハードルが低くなった。

「6 だいすきなじゅぎょうがある」について、「ある」と答えた割合が、7 月は 4 月の約 2 倍になるという良い結果が得られた。これは、幼保小の連携を大切にし、遊びを通して学ぶ幼児期の教育活動から、教科学習が中心の小学校教育への移行が円滑に行われている結果と考えられる。

(2) 抽出児の変容より

21 年度抽出児の A について、母親から「友達とあまり交わって遊べない」「嫌なことをされても、嫌と言えない」「話の内容を理解できず、途方にくれる」というような心配が寄せられていた。4 月の「あくしゅであいさつ」では、あいさつができた人数が 3 人ということでクラスで一番少なく、残念マークに色が塗られていた。当初は、グループ・アプローチにも進んで参加できず、みんなが楽しく遊んでいるのを見て、自分も遊んだという気持ちになっているようであった。しかし、グループ・アプローチを重ねることにより、深まりのあるコミュニケーションとまではいかないけれど、友達に自分から話しかけて遊んだり、友達に声をかけてもらおうと笑顔を見せたりするようになった。クラスでも、友達ができて運動場で遊ぶようになり、友達に笑顔で接する姿が見られるようになった。また、友達に嫌なことをされると「嫌だ、やめてよ」と言えるようになった。学級担任にもよく話しかけるようになり、一層コミュニケーションが図れるようになった。

しかし、2 年生になりクラスの友達が変わったため、周囲とのコミュニケーションが円滑にとれているとは言い難い状況である。また、嫌なことをされても拒絶するような行動がとれない、単独で行動していることが多いなど、心配していた面が再び表れている。担任が、個別の支援計画を立てて実行しているが、1 学期当初はどの学年でもグループ・アプローチを取り入れ、多くの友達とかかわることが有効であると考えられる。

4 今後の課題

幼保小の連携を密接にし、情報を共有することで、子どもたちの実態や適性を考慮しながら、グループ・アプローチを実践することができた。そして、実践を通して子どもたちは人とかかわることの楽しさ、安心感を体験することができた。

今回、グループ・アプローチを特別な時間を設けて実践したが、今後、1年生だけでなく他学年にも広げていけたらと思う。そのためには、学級活動や道徳等の年間指導計画に組み込むことやファシリテーターとしての学級担任の育成についても考えていかなければならない。また、子どもたちの実態に合ったグループ・アプローチの方法や内容を選択したり、内容によって時間設定を考えたり、グループのメンバー構成やグループサイズを工夫したりすることも課題であると考えている。

本校では、23年度から1年生に対して、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図るための「本校スタートカリキュラム」を設定し、実践する予定である。このねらいとしては、子どもの発達段階を踏まえ、体験活動や学習活動を意図的に設定すること。幼児教育との連携を図りながら、学校生活に対して子どもが安心感を抱くようにすること。新しい集団の中で人間関係を築いたり、新しい集団の中でのルールを受け入れたりしながら、その環境の中で自己を発揮できるようにすることである。本校の「スタートカリキュラム」が、さらに小1プロブレムの問題解決につながればと考えている。

【実践報告3】

－異学年交流や幼保小連携を生かした実践を通して－

1 対象集団の状況

21年4月に入学した1年生は60名、22年4月に入学した1年生は61名で、通常学級2学級及び特別支援学級に入級している児童が若干名いるという内訳である。

出身幼稚園・保育園は、およそ半数がA保育園で、次いでB幼稚園・C幼稚園・D幼稚園が主なところである。

昨年度より、1年生を含め本校には不登校児童はいない。男女分け隔てなく遊ぶことができる児童が多く、人間関係のトラブルも少ない。

しかし、粗暴な性格で、少し気に入くないことがあると手が出たり足が出たりする児童や、教師の指示に従わず席を離れたり勝手なことをしたりする児童がおり、保護者との面談も重ねてきた。

2 実践内容

(1) 実践の方法

ア 学級・学年での活動

グループ・アプローチの実践を中心に、学級単位で、あるいは活動内容に応じて学年で活動する。その際、特別支援学級の児童ともできるだけ交流する。

また、各教科や道德などの内容で、学校適応にかかわるものについては年間計画にも組み入れ、グループ・アプローチと関連付けて指導していく。

イ 1年生と6年生のペア活動

本校では、児童会活動の一環としてペア活動を行っている。1年と6年、2年と4年、3年と5年がペア学級を組み、一緒に掃除をしたり遊んだりする。

また、来年度からの新学習指導要領の完全実施に向け、本校の「総合的な学習の時間」を見直し、「人」「環境」「興味・関心」を学習対象とした全体計画を立てた。特に6年生は、1年生とのペア活動の計画・実施・

反省を総合的な学習とリンクし、時間をかけて取り組んでいくことにした。1年生が入学して間もな

【本校の「総合的な学習の時間」全体計画表】

平成22年度 総合的な学習の時間の全体計画				
学校教育目標：健康でやる気に満ち、実践力のある子の育成				
【めざす児童像】 すくすく さらさら 語っ子 やさしい子 かしこい子 たくましい子	本年度の重点行事 すくすくお祭り、さらさらお祭り、語っ子発表会、やさしいお祭り、かしこいお祭り、たくましいお祭り			
各教科・道徳・特別活動との関連 ① 生活等の学習内容との関連 ② 言語活動を始めた場 ③ 学習方法を活用する場	家庭や地域との連携 ① 学習発表会等家族へ発表 ② ゲストティーチャーの活用 ③ 公共施設・福祉施設の活用 ④ 校区への調査活動			
本校の総合的な学習の時間				
【学習対象】 ① 様々な「人」とのかかわりを通して、自己の生き方を考え、よりよく生きようとする心情や態度を育てる。 ② 私たちを取り巻く「環境」についての探究的な学習を通して、そこにある問題を主体的に見出し、仲間と協力して問題を解決する力とともに、よりよい生活を創り出そうとする心情や態度を育てる。 ③ 自らの「興味・関心」に基づく問題について、多面的に追究し解決する方法を身に付けさせる。				
	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
学びの場	学校	地域	日本・世界	
培いたい学び方	見通しをもって計画を立て、仲間と協力して学習する。		広い視野に立って考え、自他のよりよい関係を築こうとする。	
各学習対象における目標・内容	人	学校や地域の様々な人々とのふれ合いを通して、まわりの人に愛着をもたせ、学校や地域を大切にしようとする心情を育てる。 3年・地域の老人との交流 4年・地域の職人との交流	様々な人の生き方に触れることを通して、自分の生き方を考え、家族や地域の人々、日本や世界の人々のために役立つようとする実践的態度を培う。 5年・社会貢献している地域の方を取材 6年・オリジナルの卒業アルバム制作	
	環境	調査や話し合いを通して、学校や地域の環境を大切に、住みよい環境を自らの手でつくるようとする心情を育てる。 3年・学校の花を育てる 4年・地域の宝物調べ	探究活動や社会体験を通して、地域に住む人や世界中の人が安全に生活できる環境になるよう、自分ができることをしようとする実践的態度を培う。 5年・バリアフリーについて調べる 6年・ボランティアについて調べる	
	興味・関心	自分たちで選んだり発見したりした問題について、グループで協力しながら解決する力を育てる。 3年・総合的な学習入門 4年・グループ研究	自ら発見した問題について、今まで培った学び方を駆使して、個人で解決する力を育てる。 5年・食について調べる 6年・卒業研究	
	心	年度の企画や準備、運営をどう行うかという課題解決を通して、集団への所属感や連帯感を深めるとともに、主体的、創造的、協同的に活動する態度を育てる。 4～6年・わんぱく祭り		
評価の観点	① 学習方法に関すること ○課題設定能力：テーマに興味や関心をもち、課題を発見し設定することができる。 ○情報収集活用能力：課題に対してさまざまな方法で調べ学習を進めることができる。 ○表現や発信の能力：相手や目的に応じて分かりやすくまとめたり、発表したりすることができる。 ② 自分自身に関すること ○主体的な態度：課題解決のために進んで活動することができる。 ○自己の生き方の自覚：自己の将来を考え、夢や希望をもつことができる。 ③ 他者や社会とのかかわり ○協同的な態度：他の人々と関わり、協力して学習することができる。			
評価の方法	① 評価の観点や評価規準に基づき、児童の学習状況をみる。 ② 児童のワークシートや作文等をファイリングし、ポートフォリオ評価を活用する。			

い頃に、学校を案内してあげたり、遊具の使い方を教えてあげたりと、人とのかかわりを重視した実践を行っていく。

ウ 幼稚園・保育園・児童館との連携

入学前に、各幼稚園・保育園から就学児童の実態把握をすることは従来から行ってきたが、入学して1ヶ月ほど経過後、1年担任と園との懇談会を行い、児童の指導方法について助言をもらうことにした。

また、多くの1年生が通っている児童館の職員との懇談会を開催し、情報交換することを昨年度より始めた。

園児に学校に慣れてもらう機会として、運動会のプログラムに園児の競遊を組み入れたり、3月に1年生と交流する会を計画したりすることにした。

(2) 年間計画

月	週	学級・学年での活動	1年生と6年生のペア活動	幼稚園・保育園・児童館との連携
3	第1週		通学班班長が新入生の家を訪問する。	保育園児の小学校訪問
4	入学式	担任との顔合わせ	入学式での世話	
	第2週	グループ・アプローチ① 「1・2・3」	1年生のためにできることを6年生が話し合い実践する。	
	第3週	体育「体育館探検①」 グループ・アプローチ② 「出会いのあいさつ」 「じゃんけんお巡りさん」		
	第4週	グループ・アプローチ③「あくしゅであいさつ」	遠足予備日に弁当を一緒に食べる。	
5	第1週	体育「体育館探検②」 グループ・アプローチ④ 「猛獣狩り」		1年担任と前年度園の担任との情報交換
	第2週	生活「じぶんでたんけん」 グループ・アプローチ⑤ 「じゃんけんゲーム」		
	第3週	道徳「愛校心 おたのしみかい」 グループ・アプローチ⑥ 「先生とビンゴ」		
	第4週	グループ・アプローチ⑦ 「じゃんけんぽん／けんけんぱ」 (じゃんけんお巡りさん) グループ・アプローチ⑧「あくしゅであいさつ」		
6	第1週			
	第2週	道徳「規則の尊重、公德心 ぶら	2週間一緒に清掃を行	近接の児童館との

		んこ」 グループ・アプローチ⑨ 「さいころトークン」	う。 ↓	情報交換会を開催
	第3週	体育「表現リズム遊び」 グループ・アプローチ⑩ 「じゃんけん汽車」	↓	幼保小連絡会を開催
	第4週	道徳「礼儀 おはよう」 グループ・アプローチ⑪ 「あくしゅであいさつ」		
7	第1週		プールで一緒に遊ぶ ↓	
	第2週	誕生日給食 グループ・アプローチ⑫ 「集合ゲーム」	↓	
	第3週	道徳「生命の尊重 ふしぎだな」 グループ・アプローチ⑬ 「あくしゅであいさつ」	↓	
8	夏休み			本校職員が児童館訪問
9	第1週	道徳「勇気 おんがくかい」 グループ・アプローチ⑭ 「集合ゲーム」		
	第2週	誕生日給食 グループ・アプローチ⑮ 「フルーツバスケット」 グループ・アプローチ⑯ 「いすとりゲーム」		
	第3週	道徳「感謝 ありがとう」 グループ・アプローチ⑰ 「ふわふわ言葉とチクチク言葉」 グループ・アプローチ⑱ 「あくしゅであいさつ」		運動会で、本校へ入学予定の園児による競遊種目を開催
10	第1週	道徳「正義、誠実・明朗 うそつき きつね」 グループ・アプローチ⑲ 「カードめくり」	運動会予備日に弁当を一緒に食べる。	
11	第4週		わんぱく祭りで店の運営や店巡りを一緒に行く。	

(3) 実践

ア 1年2クラス・特別支援学級合同「猛獣狩り」

(ア) ねらい

- ・ ゲームをしながら、人間関係づくりをしていく。
- ・ 年度当初に行うため、隣のクラスの児童や同じ階に教室がある特別支援学級の児童（1～5年児童5名）とも顔なじみになるようにする。

(イ) 内容

- ・ リーダー（教師）が歌った後、全員で同じことを唱える。

リーダー「猛獣狩りに行こうよ」	全員「猛獣狩りに行こうよ」
リーダー「猛獣なんかこわくない」	全員「猛獣なんかこわくない」
リーダー「鉄砲だって持ってるぞ」	全員「鉄砲だって持ってるぞ」
リーダー「ヤリだって持ってるぞ」	全員「ヤリだって持ってるぞ」

- ・ 「あっ」「あっ」指を指して元気よく言う。
- ・ リーダー 動物の名前を言う。例えば「ゴリラ」なら3文字なので、3人組をつくり、できたグループから座る。
- ・ 児童に指示したこと
なるべく同じ子と何度もグループにならないように、1回の集合が終わったら歌を歌いながらバラバラになるようにした。

(ウ) 児童の様子

60名以上の多くの児童で行ったが、いろいろな子とグループを組むことができ、児童はとても楽しそうだった。特別支援学級の児童はルールが理解できない子もいたが、教師の付き添いのもと、グループづくりに参加することができ、楽しく活動ができた。振り返りでも「楽しかった」と、一言ではあるが、感想を述べることができた。

一方、グループを組まないで体育館を走りまわることを楽しむ児童が数名いた。ルールを理解できなかったわけではなく、他とのかかわりより、自分の楽しみ方を優先する児童である。集合ゲームは友人関係や児童の性格・行動が表面化しやすく、とらえやすい。

(エ) 課題

なるべく同じ子ばかりとグループにならないようにし向けたが、「猛獣狩り」のようなエンカウンターでは、

【猛獣狩りの様子（上下とも）】

1年児童は顔なじみの子どうしでペアやグループになろうとするので、何か工夫が必要である。

今回は総勢65名ほどいたので体育館で行ったが、場所が広すぎた。コミュニケーションがとりやすい適当な広さを考えないと、ねらいがぼけてしまう。

イ 1年1組 「フルーツバスケット」「いす取りゲーム」



(ア) ねらい

- ・ 席を繰り返し移動することで、いろいろな子と隣り合って座ったりコミュニケーションをとったりする機会とする。
- ・ ルールを守って楽しくゲームをすることで学級の和を高める。

(イ) 内容

- ・ ゲームの約束を学級で話し合う。
- ・ フルーツバスケットでは、果物が描いてあるカードを児童一人一人に配布する。例えば、「ブドウ」とコールがあれば、「ブドウ」のカードを持った児童が席を離れ、違う席を探す。「フルーツバスケット」のコールは全員が席を離れる。
- ・ いす取りゲームでは、運動会の表現運動に使用した音楽を流し、音楽が止まったらいすに座るようにする。

(ウ) 児童の様子

フルーツバスケットの振り返りでは、「みんなが動くところが楽しかった」「友達といすにすわる競争が楽しかった」という意見が出された。

また、いす取りゲームの振り返りでは、「いすを争うところが楽しかった」「いすを取られてくやしかったけど楽しかった」という意見が出された。

いす取りゲームでチャンピオンになったのは、クラスで1番粗暴な男子児童であった。最後に女子児童と2人が残ったが、その男子児童への応援の声が多く、意外な感じがした。

(エ) 課題

教室では狭く、隣の席との間隔も十分とれなかったので安全面からすると、もう少し広い場所でやる方がよい。

また、ゲームに集中しすぎて、隣同士で座る児童とのコミュニケーションというねらいがぼやけてしまった。

ウ 6年総合「レッツゴー！ボランティア」

(ア) ねらい

自分の生き方について考え、地域や世界の人々のためにできることをしようとする実践的態度を培う。

(イ) 主な学習活動

- ・ 6年生として、1年生に何かしてあげることはないか話し合う。

(例) ・ 遊具の使い方を説明し、一緒に遊ぶ。

・ 学校の案内をする。

- ・ ボランティアについて知る。
- ・ 地域のボランティア団体の方から話を聞き、自分たちができそうなことを立案する。
- ・ 自分ができそうなボランティア活動についてくわしく調べる。
- ・ 調べたことを発表する。



【フルーツバスケットの様子】



【いす取りゲームの様子】

- ・ 活動の振り返りをする。
- ・ 特別養護老人ホームを訪問する計画を立て、お年寄りと交流する。

(ウ) 児童の様子

- ・ 6年生は、5年生までのペア活動の経験があるので、1年生との交流について自分たちで計画したり準備することができた。
- ・ 6年生としての始めの総合的な学習となるので、「1年生にしてあげられること」という取り組みやすい課題を設定したことはよかった。
- ・ その後、地域の老人ホームへ出かけたり、ボランティア団体の調査活動をした6年生にとっては、活動の導入としては適したものとなった。
- ・ 6年生の活動後の感想には、1年生や老人といった、いろいろな世代の人との交流では、応対の仕方を考えることで一緒に楽しめることが分かったというものが多かった。
- ・ 1年生は通学団で一緒に6年生ぐらしか面識がないので、交流が始まったときは照れくさそうにしていたが、徐々に雰囲気慣れ、仲良く遊ぶ姿が多く見られた。
- ・ 1年生の振り返りでは、「また遊ぶ約束をした」「たくさん名前を覚えた」「また一緒に何かやりたい」という意見が多かった。

(エ) 課題

- ・ 活動がグループ別になってしまうので、児童の行動範囲が広がってしまい、教師が児童の把握をやりきれなかった。特に、遊具等を使うグループもあるので安全面の配慮がより必要である。

エ 6年総合「わんぱく祭り」

(ア) ねらい

店の企画や準備、運営を通して、集団への所属感や連帯感を深めるとともに、主体的、創造的、協同的に活動する態度を育てる。

(イ) 主な学習活動

- ・ 祭りの意義を考える。
- ・ 学級のテーマを話し合う。
- ・ 個人やグループのめあてを話し合う。
- ・ 出し物について話し合う。
- ・ 必要な道具や役割分担、1年生とのかわり方など話し合い、計画書を作成する。
- ・ 計画に則って準備をしたり、リハーサルを行う。
- ・ 祭りを終えた反省を書き、発表し合う。

(ウ) 児童の様子

- ・ 6年生は店の準備や運営に加えて、1年生の世話もしなければならず忙しいが、上学年の自覚をもって活動することができた。
- ・ 1年生も6年生が運営する店の簡単な手伝いをさせてもらえるため、いろいろとやりたがる1年生にとっては楽しい活動となった。
- ・ 1年生の振り返りでは、「6年生がやさしくいろいろ教えてくれた」「自分たちでも、ゲームなど楽しいことを考えてみんなと遊びたい」といった意見がほとんどだった。

(エ) 課題

- ・ 1年生を景品作りや店の準備等にもっと参加させることができれば、より祭りを楽しんだり、

1年生なりの成就感をもたせることができるはずである。

- ・ 単なる遊びに終始せず、総合的な学習の時間のねらいに相応するよう、計画や準備の時間の使い方を考えていきたい。

オ 児童会活動としてのペア活動

本校では、上記のような総合的な学習の時間を使った、1年生と6年生の交流のほかに、年間を通して定期的に交流（本校では「わんぱく活動」と呼んでいる）を行っている。2年生は4年生と、3年生は5年生とペアを組んでいる。

遠足や運動会の予備日は弁当持参のため、運動場や広場にシートを敷いて、一緒に弁当を食べる「ペア会食」や、下学年のプール指導に上学年が入り、一緒に水遊びをする「ペア水遊び」などを行っている。また、2週間ほどの期間の清掃を一緒に行う「ペア清掃」も学期に1度ずつ行っている。

特に1年生は、6年生との「わんぱく活動」をととても楽しみにしており、顔見知りも増え、普段の放課でも1年生と6年生が一緒に遊ぶ場面をよく見かける。

カ 幼稚園・保育園や児童館との連携

- ・ 入学式のおよそ1ヶ月前に保育園園児と1年生との交流会を行っている。21年度は、教室で1年生が「小学校の1年間の思い出」を園児に向けて発表した。その後、体育館でグループに分かれ、自己紹介をしたりハンカチ落としをしたりして楽しんだ。最後に全員でエクササイズ「じゃんけん列車」を行った。また、保育園園児は、10月の運動会にも招待し、簡単な競遊演技に参加してもらっている。

- ・ 1年生は5月の連休明けぐらいには学校生活に慣れる反面、緊張感が薄らぎ問題行動が出てくる。集団行動から外れてしまったり学習の理解が遅れがちな児童の出身保育園に担任と教務主任が出向き、昨年度の担任と指導方法についてアドバイスをもらいに行っている。

- ・ 6月に、学校と隣接している児童館との懇談会を行っている。特に1年生の児童が児童館を利用することが多いことから、21年度より始め、特に1年生の状況について情報交換をすることにした。また、夏休みに本校職員が児童館を定期的に訪問し、遊ぶ様子などを見せていただくようにしている。

- ・ 6月には幼保小連絡会も開催している。四つの幼稚園・保育園の先生が来校し、1年生の授業参観を行った後、児童について情報交換を行っている。小学校からは3学期に教務主任が各園を訪問し授業見学したり、先生方との懇談を行ったりしている。



【ペア会食（上） ペア水遊び（下）】



【1年生と園児の交流会】



【園児とじゃんけん列車】

3 考察と課題

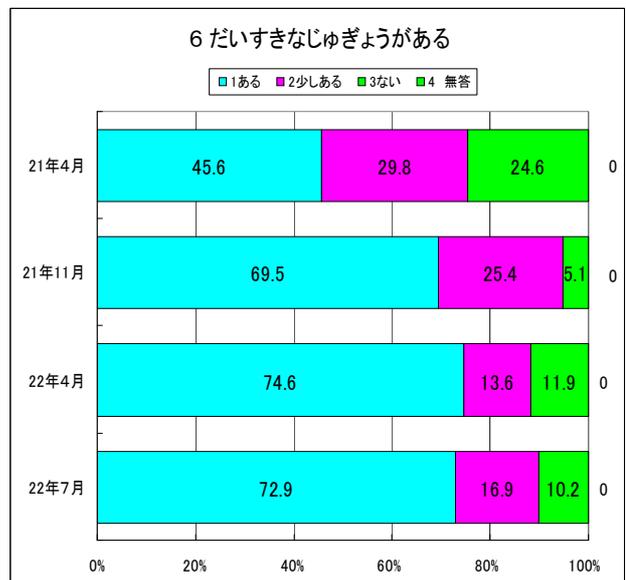
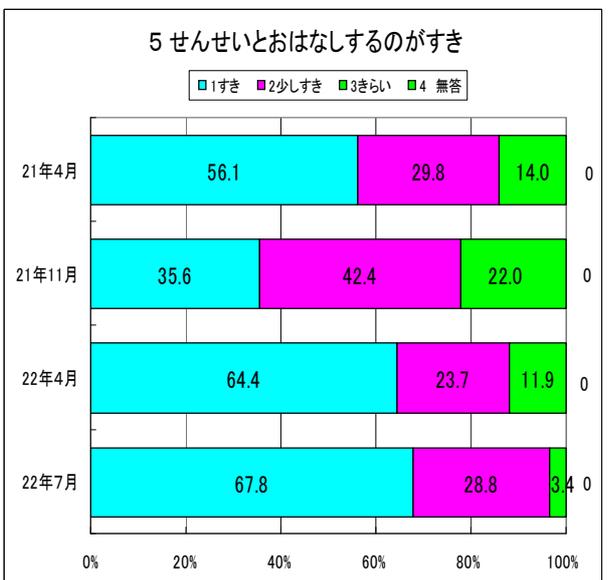
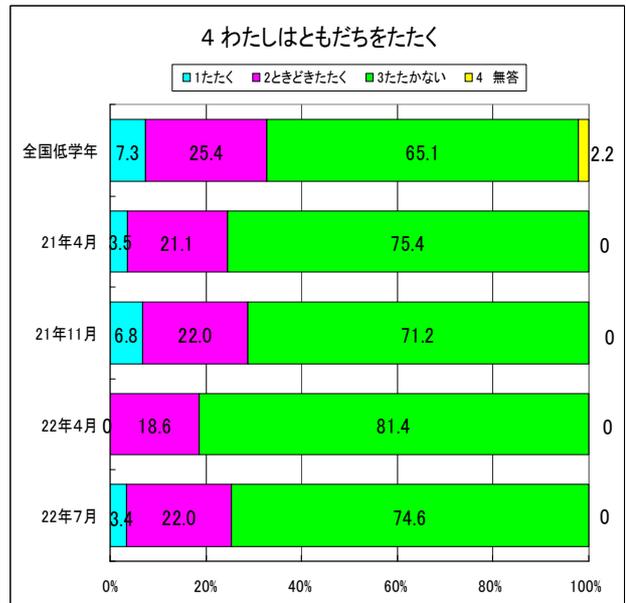
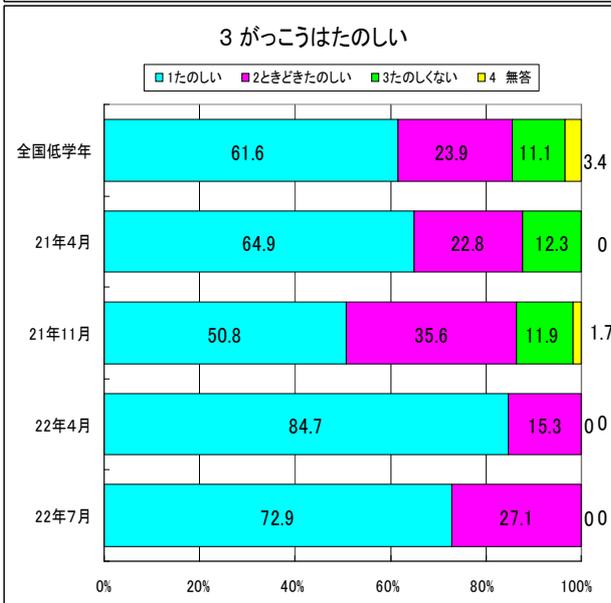
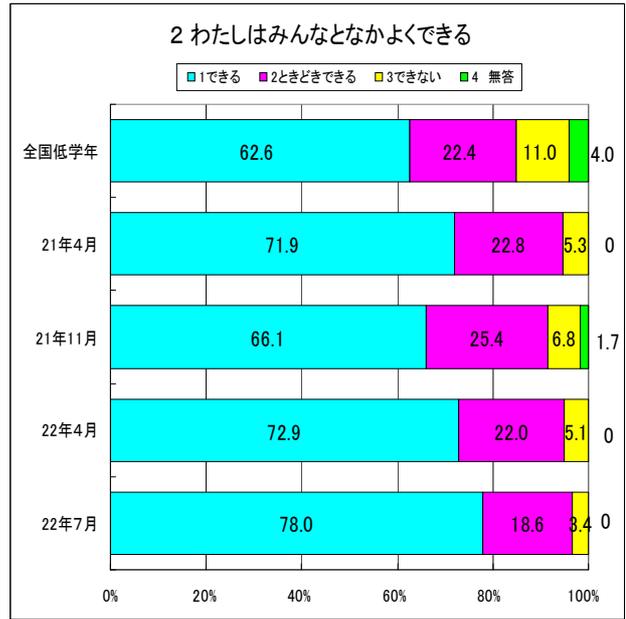
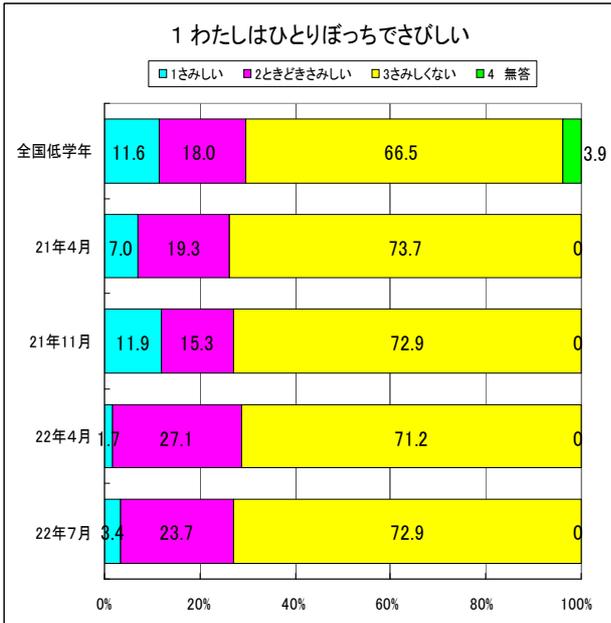
(1) 考察

- ・ 22年度の適応度調査の結果をみると、設問1～4の全国平均に比べ、概ね良い結果が得ることができた。特に、設問2「わたしはみんなとなかよくできる」では、96.6%の児童が「できる」「ときどきできる」と答え、全国平均の85%よりもよい結果となった。設問5～6においても、21年度よりも22年度の方が良い結果となっている。
- ・ 入学当初は出身幼稚園・保育園同士の児童で行動することが多いので、少数の出身の児童は孤立する傾向がある。入学当初からグループ・アプローチの実践をしていくことが大切である。また、その折には特別支援学級の児童も、なるべく参加させたい。ルールを理解は難しいところがあるが、教師の付き添いのもと、多くの子とかかわりをもたせたい。
- ・ 学年全体でのグループ・アプローチは、場所が広くなるため收拾がつかなくなるのが分かった。年度当初は、教室でできるクラスごとのエクササイズが望ましい。
- ・ なるべく簡単なルールにするための準備も必要である。フルーツバスケットで果物カードを作っておいたのは有効だった。
- ・ 1年生と6年生のペア活動は、1年生の学校適応に有効である。ただ単に遊ぶだけでなく、清掃や祭りの運営を一緒に行うことは、6年生にとっても上学年としての自覚が向上することにもつながっている。
- ・ 幼稚園・保育園・児童館との連携は今後も積極的に行っていく予定である。職員間のつながりをもつことや、それぞれの教育方針や体制を互いに理解することにつながっていくからである。

(2) 課題

- ・ ファシリテーターは担任にやってもらったが、教務主任や校務主任も含め、教師がファシリテーターの育成の研修に参加し、手慣れた手順でできれば、その方がより効果が上がる。
- ・ 道徳の時間にグループ・アプローチばかり実践するのは、道徳のねらいと離れていくことになりかねない。道徳や学級活動、総合的な学習の時間のねらいとグループ・アプローチのかかわりを整理していきたい。

【適応度調査結果】



【実践報告4】

－ グループ・アプローチと異学年交流活動を生かした取組 －

1 対象集団の状況

本校は平成19年度に開校し4年目を迎える。「夢をえがき、未来をひらく」を校訓に、整った環境の下、「子どもの笑顔があふれる学校」を目指し教育活動を推進している。学区は、名古屋市、豊明市と隣接し、新興住宅地が広がる地域に位置しており、人口増加が著しい。児童は、東郷町内をはじめ、名古屋市、豊明市、日進市、みよし市にある10ほどの保育園、幼稚園を卒園して入学してくる。平成22年度の児童数は726名。学級数は、特別支援学級3学級を含めて、25学級の中規模校である。保護者の教育に対する意識は高く、授業参観や運動会、学習発表会など学校行事への参加率も高い。

入学を前に、10月の就学時健康診断や2月の入学説明会を行い、新たに始まる小学校生活のスタートがスムーズに切れるように配慮をしている。最近は、「小1プロブレム」の問題が指摘されるように、環境の変化に対応しきれず、登校を渋ったり、人間関係づくりに戸惑ったりと、学校生活にすぐになじめない児童も少なくはない。そこで、3月と5月に幼稚園・保育園との連絡会を開催し、児童や家庭の情報を共有し、校種間の連携を深めている。入学後に実施したアンケートの結果からも、学校生活への不安を抱えている児童が少なからず存在することが明らかとなっている。平成22年度の新1年生は128名で、ここ数年と比較すると、今年度は、支援を必要とする児童の数が増えている。

開校以来、児童会活動に力を入れている。「開拓者精神（フロンティア・スピリット）」をスローガンに、児童自らの手で望ましい校風や行事を創ろうとする意識を育てている。年間を通して、ペア学年（1・6年、2・4年、3・5年）を活用し、「なかよし班活動」による異学年交流活動を行っている。個性や違いを尊重する意識と、思いやりの心を育てることがねらいである。毎年、2月に本校フェスティバルを実施している。これは、「なかよし班」が一つのチームとなり、高学年の子どもたちが考えたゲームやアトラクションに挑戦し、得点を競う活動である。

2 実践の内容

(1) 実践のねらい

今回の実践では、小学校という新しい環境に入った新1年生がスムーズに生活に適應できるように、グループ・アプローチと異学年交流活動（6年生との活動）を生かして教育活動を行う。グループ・アプローチでは、幼稚園・保育園との情報交換・交流を生かして、新しい環境に慣れるための工夫をする。実践前と実践後に、児童に対して、学校適應に関する意識調査（効果測定）を実施し、実践の有効性を検証する。さらに、PDCAサイクルを生かして、児童の実態に合わせたグループ・アプローチの方法を考えた実践としていく。

(2) 実践構想図

本実践の全体構想図を次ページに示す。

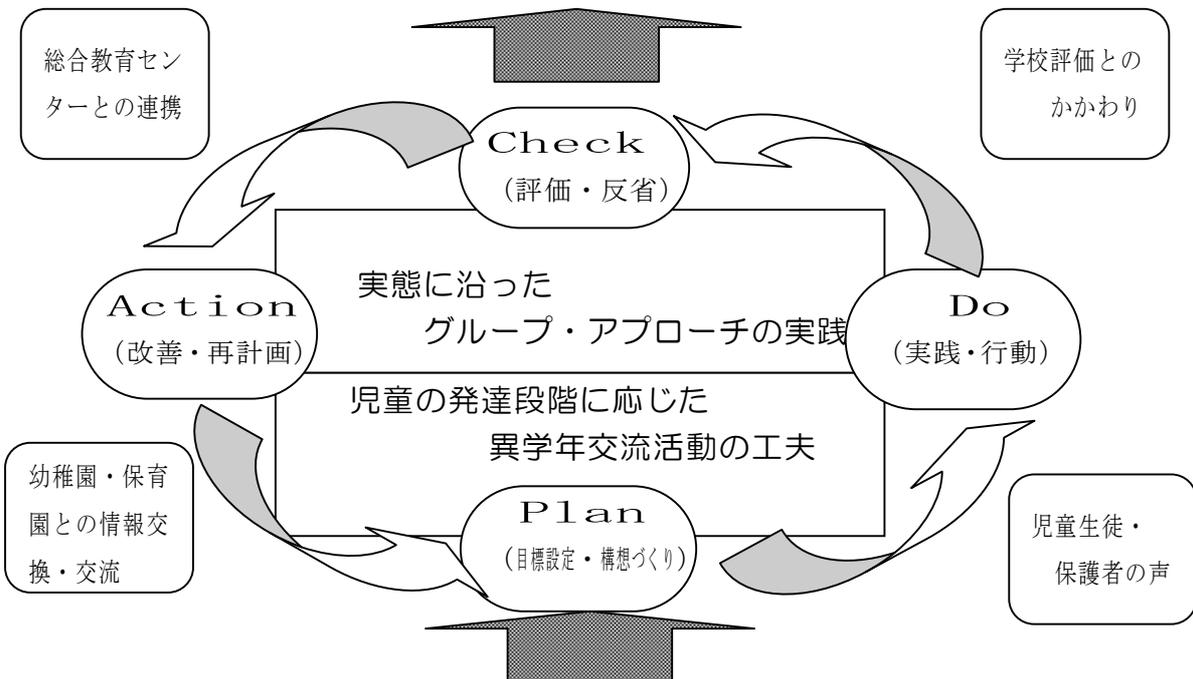
【実践全体構想図】

【実践テーマ】

－ グループ・アプローチと異学年交流活動を生かした取組を通して －

【めざす児童像】

- 他とうまくかかわりをもち、よりよい人間関係を築く姿
- 新しい環境にはやく適応し、他とともに仲良く学校生活をおくる姿



【実践のねらい】

- 児童の実態に合わせて、グループ・アプローチを実践することにより、1年生がスムーズに小学校生活を送れるようにする。
- 児童の発達段階に応じて、異学年交流活動を工夫して行うことにより、思いやりの心を育てる。

- ◎ 明るく、活発な児童
- ◎ さかんな児童会活動
- ◎ 保護者・地域の学校教育への高い関心

- ▲ 不登校，登校渋りなど，環境への不適応児童
- ▲ 人間関係をめぐるトラブル
- ▲ 保護者のニーズの多様性

(3) 実践計画（1年の流れ ※ 平成21年度）

月	学校適応にかかわる取組	実態調査等	その他
入学前	保育園・幼稚園への聞き取り調査		入学説明会
4月		前期異学年交流活動 (ペア活動)	児童の実態把握
5月	グループ・アプローチ	↓	
6月			なかよし遊び
7月			効果測定
8月	1学期の振り返り		
9月	グループ・アプローチ		
10月		後期異学年交流活動 (ペア活動)	就学時健康診断
11月			効果測定 幼稚園・保育園訪問 (教務主任・養護教諭)
12月	2学期の振り返り		
1月		本校フェスティバル	
2月			振り返り
3月	学級編制 新分団編制	なかよし遊び	入学説明会 幼保小連絡会 お迎え当番決定

【保育園・幼稚園でやっている遊びやエクササイズの調査】 ※ 平成20年度の調査より
ドッジボール，猛獣がり，じゃんけん列車，氷鬼，どろけい，リレー遊び，玉入れ，
しっぽとりゲーム，ハンカチ落とし，いすとりゲーム，リトミック運動
だるまさんがころんだ，はないちもんめ，ぼこぺん，ひょうたんおに，からすかずのこ，なん
でもばすけっと，なべなべだんす，なわとび，ゆうびんごっこ，お店やさんごっこ など

(4) 実践の様子

【実践1：縦割り活動（1，6年ペア活動）】

ア 活動の内容

本校では，年間を通して，上学年と下学年とがペアを組んで，清掃や遊びを中心に一緒に行う活動である。1年と6年，2年と4年，3年と5年が80ほどのペアを組んでいる。この活動を通して，上学年の児童は，下学年の児童をいたわる気持ちを，下学年の児童は，上学年の児童に感謝する心をはぐくむことをねらいとしている。

(ア) なかよし清掃

1年生4クラス、6年生3クラスを6～10人ほどのグループに分け、清掃をする活動である。6年生は清掃道具の使い方を1年生に丁寧に教えたり、逆に1年生が6年生に清掃の仕方を聞いたりして、交流が見られる。

前期（4月～9月）・後期（10月～3月）の二期制をとっている。

(イ) なかよし遊び

前期、後期に1回ずつペア清掃班（なかよし班）でレクリエーションをする日を設定し、昼放課に交流を深めている。前期は上学年児童がレクリエーションの内容を考え、後期は下学年児童が内容を考え実施している。具体的には、「こおり鬼」「鬼ごっこ」「だるまさんがころんだ」など、下学年でも取り組める内容が多い。

(ウ) 本校フェスティバル

本校フェスティバルを1月22日（金）に行った。この行事はなかよし班が一つのチームとなり、高学年の子どもたちが考えたゲームやアトラクションに挑戦し、得点を競う取り組みある。企画、準備、当日の運営と児童会役員が中心となり、すべてを児童の手で創り上げている。今年度もゲームやアトラクションの内容は、ペットボトルをピンに見立てたボーリング、段ボールを利用した的あて、教室のレイアウトを工夫したお化け屋敷など多岐にわたった。1年生から6年生の児童が、一つの目標に向けて一致団結する行事である。

イ 考察

開校3年目を迎え、「なかよし班」を中心とした異学年交流活動は定着している。低学年の児童からは「大きいお兄さん、お姉さんがいると安心できる」「わからないことを優しく教えてくれる」など、高学年の児童に感謝する声が聞かれた。また、高学年の児童からは「小さな子はとてもかわいい」「自分が1年生のときのことを思い出して、親切に教えてあげた」などの声が聞かれ、ねらいは達成できた。はじめは、学校生活に不安を抱いているようだった1年生は、この活動を通して、学校生活に慣れ、2学期には自信に満ちた表情で過ごすようになっていく。1年生は、なかよし班で一緒になった6年生児童に手紙を贈ったり、自分たちの学級が企画した「あきまつり」に招待したりと、交流の幅が広がった。

【実践2：グループ・アプローチ（6月の実践）】

ア 実践の様子

① あかいくつゲーム

- ・ 「赤い靴」の歌に合わせて、手でアクションをする。気持ちを和らげるためのエクササイズ。



【なかよし清掃の様子】



【アトラクションの様子】



【ファシリテーターの説明を聞く】

- ② じゃんけんれっしゃ
 - ・ じゃんけんをし、負けた人は勝った人の後ろにつく。
- ③ なかまあつめ
 - ・ ファシリテーターの笛の数だけ、なかまを集め、集まったら座る。徐々に数を増やし、最後は5人グループをつくった。
- ④ イエス・ノーゲーム
 - ・ ③の最後に5人グループをつくっておき、一人がファシリテーターからキーワードを聞き、それをグループに持ち帰り、グループでキーワードを考える。キーワードを知らない他の人は、知っている人に質問をし、それに対して、「イエス」か「ノー」で答え、キーワードを探っていくエクササイズ。5回繰り返した。

イ 考察

- 児童にとって、ファシリテーターとの授業は初めてだったので、初めは緊張していた。①、②のエクササイズを実施したあと、リラックスした様子を感じ取れた。③のエクササイズまでは児童はスムーズに取り組むことができた。④については、1年生にとっては、やや高度だったのか、内容を理解するのに時間がかかった。
- ふりかえりの結果から、9割を超える児童が、「楽しかった」「またやってみたい」と答えていた。
- 個の「楽しさ」と集団の中での「適応度」をどのようにかかわらせていったらよいか課題として残った。

【実践3：グループ・アプローチ（10月の実践）】

ア 実践の様子

- ① 握手ではいろう（10：35～）
 - ・ ファシリテーターと握手して部屋に入る。（自己紹介をし合って）
- ② 整列
- ③ おはなし
- ④ 本日のねらいの説明
 - ・ ルールの確認～長い笛になったら、もとの隊形に集まること確認しておく。
- ⑤ あくしゅじゃんけん
 - ・ じゃんけんをして、勝った人は負けた人に質問できる。
 (例)・好きな食べ物は何ですか？
 ・好きなテレビ番組は何ですか？
 ・好きな勉強は何ですか？
 ・昨日は何時に寝ましたか？ など
- ⑥ 好きな4つのコーナーに集まろうゲーム
 - ・ 好きな季節に集まり、どうしてそう思うのか話しをする。
 - ・ 好きなくだものにあつまり、どうしてそう思うのか話しをする。
 (りんご、みかん、バナナ、メロン)
 - ・ 好きな動物にあつまり、どうしてそう思うのか話しをする。
 (いぬ、ねこ、こあら、イルカ)

- ⑦ じゃんけんれっしゃ
 - ・ 「おそいれっしゃバージョン」「はやいれっしゃバージョン」の2通り実践した。
- ⑧ 笛の合図でなかまをつくろう
 - ・ ファシリテーターが吹く笛の数だけなかまをつくって集まる。2人→3人→8人→6人と集まらせ、最終的に五つのグループをつくった。
- ⑨ ひらがなからどうぶつをつくろう
 - ・ ⑧でつくったグループにひらがなのカードを70枚くばり、みんなで協力して動物の名前をできるだけたくさんつくる。
- ⑩ 握手でバイバイ
 - ・ ファシリテーターと握手して別れる。(お礼を言い合って)



【ひらがなでどうぶつをつくろう】

イ 考察

- 前回の実践時に比べ、児童の多くは学校生活に慣れ、リラックスした様子で参加していた。振り返りの結果、ほとんどの児童が「楽しかった」「またやってみたい」と答えていた。前回と同様の結果であった。
- 前回、一つ一つのゲームのつながりの場面でやや騒がしくなってしまったので、今回は、④で、「長い笛が鳴ったら集まる」というルールを決めた。その結果、1時間混乱することなく実践を進めることができた。
- 集団に入れない児童が2名いた。担任の先生のサポートで途中からは参加できたが、自分の思う通りにならないと、教室を飛び出してしまうこともあり、どのように対処したらよいか考えさせられた。

【実践4：グループ・アプローチ（12月の実践） ※ 2クラス合同 61名】

ア 実践の様子

前回の実践では、1時間で行ったエクササイズの数が多すぎたと感じた。大きな流れは変えずに今回は一つのエクササイズに時間をかけて実践することにした。

- ① 握手ではいろう（10：35～）
 - ・ ファシリテーターと握手して部屋に入る。(自己紹介をし合って)
- ② 整列
- ③ おはなし
- ④ 本日のねらいの説明
 - ・ ルールの確認～長い笛がなったら、もとの隊形に集まること確認しておく。
- ⑤ あかいくつゲーム
 - ・ 「赤い靴」の歌に合わせて、手でアクションをする。気持ちを和らげるためのエクササイズ。
- ⑦ じゃんけんれっしゃ
 - ・ 今回は、人数が多かったので「おそいれっしゃバージョン」で行った。5回行って、チャンピオンになった子には拍手を送るようにうながした。
- ⑧ 笛の合図でなかまをつくろう
 - ・ ファシリテーターが吹く笛の数だけなかまをつくって集まる。2人→3人→8人→6人と集まらせ、最終的に五つのグループをつくった。

⑨ 握手でバイバイ

- ・ ファシリテーターと握手して別れる。(お礼を言い合って)

【その他】

12月21日(月)の5時間目に1年生がクリスマス集会を行った。担任団の要請があり、教務主任が、サンタクロースのふん装をして登場することにした。思わぬ参加者に子どもたちは大喜びだった。簡単なクイズをし、最後まで残った子どもには賞品を渡し、参加者全員にクリスマスプレゼントを贈り、会場を後にした。子どもたちの中には、だれがサンタクロースにふんしているかうすうす分かっている子もいた。継続的にファシリテーターを務めてきたこともあり、とても和やかな雰囲気をつくり出すことができた。

【児童の変容】

児童Aの変容を追ってみた。児童Aは入学当初、昇降口までは登校できるのだが、1時間目または2時間目が終わるまでは教室に入ることができなかった。5月半ばまでは、同じような状態が続き、担任をはじめ多くの教師がスムーズに教室に行くことができるよう支援をした。しかし、1学期の終わりごろになると、朝の会までには教室に行くことができるまでになった。グループ・アプローチをはじめ、異学年交流活動など、様々な取り組みの成果もかかわっていると思う。

(5) 考察と課題(21年度)

一つのグループ・アプローチを時間をかけて行ったり、ファシリテーターがサンタの衣装を着たりするなど、グループ・アプローチを工夫して実践すれば、1年生にとって集団で活動することの楽しさを味わい、それが学校生活の適応につながると感じた。今回は、ファシリテーターを教務主任が務め、児童からみると新鮮さが加わったことも効果を深めたのではないかと考えた。児童と廊下ですれ違ったときに、「またゲームやろうよ」「次はいつなの」などと声をかける子が増えたことから一定の効果が得られたのではないかと思う。

異学年交流活動の一環として実施している「ペア活動」は、人とのかかわりを深める上で成果が得られている。2学期の行事として、1年生は「あきまつり」、6年生は「秋祭り」を行っている。それらの行事に互いに招待し合うなど、新たな交流場面も見られるようになった。1月に行った「本校フェスティバル」でこの交流活動がさらに深まった。

次年度に向けて、次の3点が課題として残った。

- 児童の変容とグループ・アプローチとのかかわりをどのように分析し、とらえていくか。
- グループ・アプローチを学校運営計画の中にどう位置付けていくか。
- 入学前の児童の様子を把握するため、幼稚園、保育園等との関係をどのように深めていくか。

(6) 実践の様子(平成22年度)

【平成21年度の課題を受けて】

- ◆ 担任教師とも連携して、学校生活全般にわたり抽出児童の変容をとらえる。
- ◆ グループ・アプローチは学級活動の時間を中心に行う。
- ◆ 幼稚園・保育園の先生との情報交換を通して、児童の発達段階に応じて、どのようなグループ・アプローチが効果的かを考え、実践する。

○ 実践計画（1年の流れ ※ 平成22年度）

月	グループ・アプローチなど	実態調査等	その他
入学前	職員会議での提案・現職教育での共通理解		入学説明会 幼保小連絡会
4月		前期異学年交流活動 (ペア活動)	児童の実態把握
5月	グループ・アプローチ (学級活動)		幼保小連絡会 (新入学児童の情報交換等)
6月			
7月			効果測定
8月	1学期の振り返り		
9月	グループ・アプローチ (学級活動)		
10月		後期異学年交流活動 (ペア活動)	
11月			効果測定 就学時健康診断
12月	2学期の振り返り		
1月		本校フェスティバル	
2月			振り返り 入学説明会 幼稚園・保育園訪問 (教務主任・養護教諭)
3月	学級編制 新分団編制		幼保小連絡会 お迎え当番決定

【実践1：グループ・アプローチ（学級活動の「適応（望ましい人間関係づくり）」の時間）】

※ 5/24（月）3時間目 1年2組，4組合同 61名 場所（多目的室）

※ 5/25（火）3時間目 1年1組，3組合同 62名 場所（多目的室）

ア 実践の様子

① あいさつ，自己紹介（文字バラ）

- ・ ファシリテーターの自己紹介をする。
- ・ ホワイトボードにはってある，ひらがなのカードを並べ，ファシリテーターの名前をあてる。

② ルールづくり

- ・ 手の合図で，「立つ」「座る」「静かにする」，笛を3回鳴らしたら，「元の場所に集まる」というルールを覚える。

③ 後出しじゃんけん（ポンポンじゃんけん）

- ・ ファシリテーターとじゃんけんをする。児童はテンポをずらして出し，ファシリテーターに，「引き分ける」「勝つ」「負ける」ようにじゃんけんをする。

※ ①，②，③により1時間の雰囲気づくりをする。

④ じゃんけんれっしゃ（おそいれっしゃバージョン）

- ・ 多目的室（教室2つ分の広さ）を考慮して、けがをさせないように、ゆっくり移動するよう指示を出す。
- ・ 3回実施し、最後まで先頭だった児童を皆の前で褒める。

⑤ 猛獣がり

- ・ ファシリテーターに続き、「猛獣がり」の歌を歌い、最後の猛獣の文字数の仲間をつくり座る。
- ・ 最後に、仲間ができなかった児童をファシリテーターのもとに集め、「仲間ができなかったから罰ゲームだよ」と伝えた。児童たちは、「えーっ」とちょっと怒ったような表情を見せた。ファシリテーターが、「罰ゲームは、先生と一緒に部屋の電気を消し、戸締まりをすることだよ」と伝えると、多くの児童が「それならばくもやりたい」と言った。

⑥ ふりかえり

- ・ 児童を元の場所に集め、ファシリテーターが児童に感想を尋ね、ふりかえりをする。
- ・ 教室にもどり、自分の気持ちを「ふりかえりかあど」に記入する。

イ 考察

- ・ 「ふりかえりかあど」には、ほぼ全員が「とても楽しかった」「またやりたい」と書いていた。全体的には、ファシリテーターと児童、児童相互に打ち解けた時間となった。ただ、一人だけ「楽しくなかった」と書いていた児童がいた。担任が理由を尋ねると、じゃんけんれっしゃで負けたことが悔しくて、ずっと泣いていたとのことだった。この児童に対しては今後、グループ・アプローチを行うときに気を付けてみていくことを担任と確認した。

【実践2：グループ・アプローチ（学級活動の「適応（望ましい人間関係づくり）」の時間）】

※ 7月12日（月）3時間目 1年2組，4組合同 61名 場所（多目的室）

※ 7月13日（火）5時間目 1年1組，3組合同 62名 場所（多目的室）

ア 実践の様子

児童が前回のグループ・アプローチをもう一度やってほしいという要望が強いとの話担任から聞いたので、前回とほぼ同じ流れにした。

① あいさつ，自己紹介（文字バラ）

- ・ ホワイトボードにはってあるひらがなのカードを並べ、ファシリテーターの名前を思い出す。

② ルールづくり

- ・ 手の合図で、「立つ」「座る」「静かにする」、笛を3回鳴らしたら、「元の場所に集まる」というルールを覚える。

③ 後出しじゃんけん（ポンポンじゃんけん）

- ・ ファシリテーターとじゃんけんをする。児童はテンポをずらして出し、ファシリテーターに、「引き分ける」「勝つ」「負ける」ようにじゃんけんをする。



【ファシリテーターの名前をあてる】

※ ①, ②, ③により1時間の雰囲気づくりをする。

④ じゃんけんれっしゃ (おそいれっしゃバージョン)

- ・ 多目的室 (教室2つ分の広さ) を考慮して, けがをさせないように, ゆっくり移動するよう指示を出す。
- ・ 3回実施し, 最後まで先頭だった児童を皆の前で褒める。

⑤ 猛獣がり

- ・ ファシリテータに続き, 「猛獣がり」の歌を歌い, 最後の猛獣の文字数の仲間をつくり座る。
- ・ 2文字の動物 (クマ) から始めて, 最後の8文字の動物 (マウンテンゴリラ) まで, 合計6回行った。

⑥ 振り返り

- ・ 児童を元の場所に集め, ファシリテーターが児童に感想を尋ね, ふりかえりをする。
- ・ 教室にもどり, 自分の気持ちを「ふりかえりかあど」に記入する。

イ 考察

- ・ 「ふりかえりかあど」には, ほぼ全員が「とても楽しかった」「またやりたい」と書いていた。この結果については, ほぼ前回と同じであった。もう一度やりたいか尋ねたところ, 全員が元気よく手を挙げた。1回目のグループ・アプローチで, 「楽しくなかった」と書いた児童Aも「とても楽しかった」と答えていた。2学期にも実施することを全員と約束して終わりとした。

3 結果と考察

(1) グループ・アプローチの実践について

保育園・幼稚園とも情報交換や交流をして, グループ・アプローチとしていろいろなエクササイズを実践した。ファシリテーターの立場から, エクササイズの成功のポイントの一つは, 時間のはじまりの雰囲気づくりにあると感じた。じゃんけんを活用した簡単なゲームを取り入れると, ほぼ全員を集中させることができた。また, エクササイズにおいては, 「テンポ」「間の取り方」に注意して進めることが大切である。児童の振り返りから, 「猛獣がり」がいちばん人気があることが分かった。

(2) 異学年交流活動の実践について

ペア学年を組んでいる6年生とのかかわりが多かった。入学して間もないころ, 清掃や休み時間の遊びで6年生と一緒に過ごしたことで, 1年生は, 小学校生活に早く慣れることができた。また, 6年生も, 1年生をいたわる心を養うとともに, 最高学年としての自覚や責任が高まってきた。今後も, 様々な活動で異学年交流活動を取り入れた取組を進めていく必要性を再認識した。

(3) 抽出児童の変容

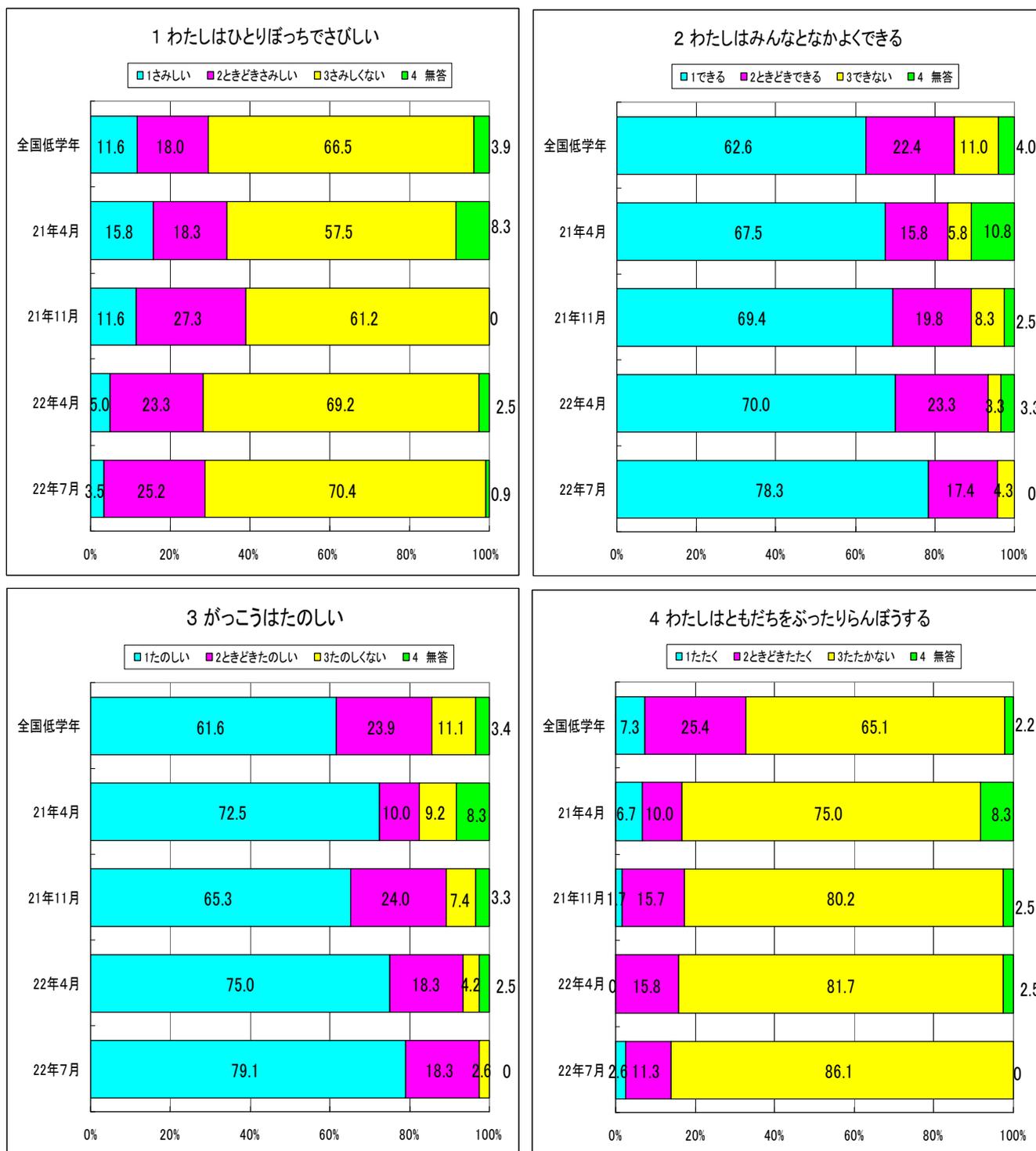
入学前の保育園・幼稚園との連絡会で, 友だちとのかかわりをもつことが苦手であると聞いていた児童Aの変容を追った。入学式後, 担任からは, 休み時間に友だちと遊んでいると, 自分の意見を主張しすぎて, トラブルを起こすことが多いとの報告をしばしば受けた。1回目のグループ・アプローチでも, じゃんけんれっしゃのエクササイズで, 負けたことが悔しくて終了後, 泣いていた。6年生とのペア清掃でも, なかなか指示が聞けず, 手をわずらわせていたとの報告を受けた。しか

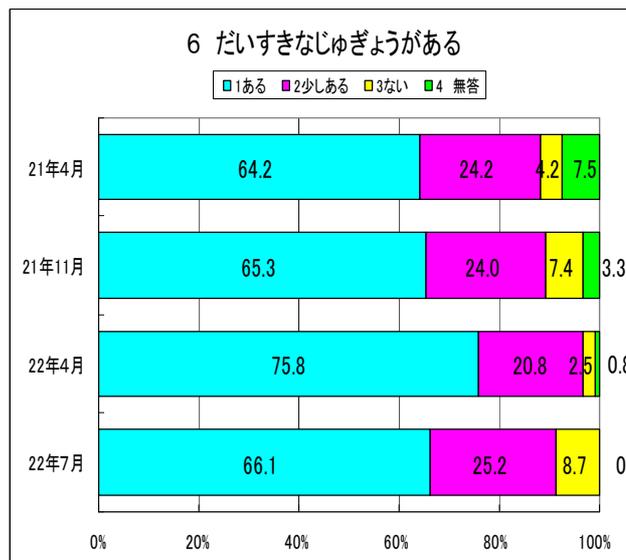
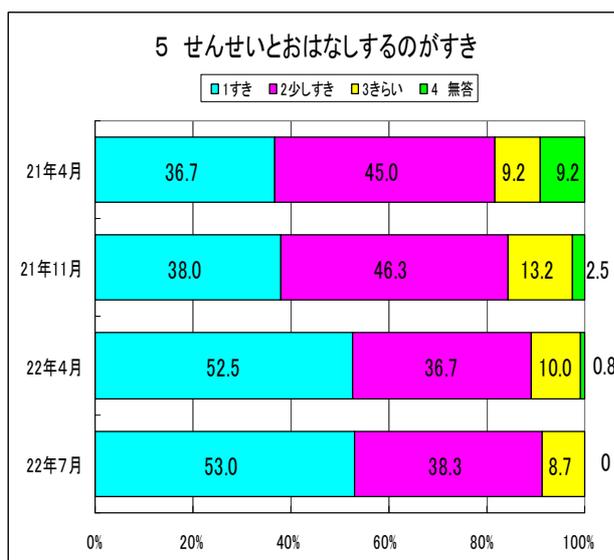
し、6月ごろからトラブルの回数が減り、表情も穏やかになった。2回目のグループ・アプローチでは、目を輝かせて取り組む姿がみられた。6年生との交流活動とグループ・アプローチの実践により児童Aがスムーズに小学校生活に適應することができたのではないかと考えている。

(4) 児童全体の変容

2年間の効果測定の結果を以下に示す。

【適應度調査結果】





「2わたしはみんなとなかよくできる」という設問においては、「できる」「ときどきできる」と答えている児童が、平成21年4月と11月を比較すると、83.3%から89.2%に増えている。また、平成22年4月と7月の比較でも、93.3%から95.7%に増えている。さらに、「3がっこうはたのしい」という設問において、「たのしい」「ときどきたのしい」と答えている児童が、平成21年4月と11月を比較すると、82.5%から89.3%に増えている。さらに、平成22年4月と7月の比較でも、93.3%から97.4%に増えている。グループ・アプローチや異学年交流活動を生かした取り組みを繰り返し実施した結果、よりよい人間関係を築き、仲間となかよく生活できる児童が増えていることが実証された。

「5せんせいとおはなしするのがすき」という設問には、「好き」「少し好き」と答えている児童が、平成21年4月と11月を比較すると、81.7%から84.3%に増えている。さらに、平成22年4月と7月の比較でも、89.2%から91.3%に増えている。教師に対する信頼感の高まりも表われている。

一方で、「1わたしはひとりぼっちでさみしい」という設問には、「さみしい」「ときどきさみしい」と答えている児童が、平成21年4月と11月を比較すると、34.1%から38.9%に増えている。平成22年4月と7月の比較でも、28.3%から28.7%とわずかであるが増えている。「4わたしはともだちをぶったりらんぼうしたりする」という設問には、「たたく」「ときどきたたく」と答えている児童が、平成21年4月と11月の比較で、16.7%から17.4%に増えている。小学校入学後、新たな人間関係を築いていく過程で、不安や悩みを抱えている児童がいることが分かった。日常生活の中でこのような児童を丁寧に見つめていくことを学校全体で共通理解し、指導を進めることを確認した。

4 今後の課題

今後の課題として以下の3点が残った。

- (1) 保育園・幼稚園との情報交換や交流をさらに密にして、児童一人一人の特性をしっかりと把握すること。
- (2) 児童の発達段階に応じて、グループ・アプローチを年間の指導計画にきちんと位置付け、系統的に指導していくこと。
- (3) 現職教育や授業研究を通して、教職員一人一人がファシリテーターとしての能力を身に付け、高めること。

これらの課題を解決することに努め、児童の実態に合わせたグループ・アプローチ在り方を研究していきたい。

【実践報告5】

—小中連携による生徒の実態を生かした実践を通して—

1 対象集団の状況

本校は、豊明市の南西部に位置し、閑静な住宅街が多い。人口の社会増も落ち着き、学校規模は、ここ数年を500名半ばの生徒数で推移する予想となっている。生徒のより良い力の結集に力を上げた学年合唱・全校合唱は本校教育活動の中核となっている。生徒も大切にすべき伝統と意識しており、その取り組みはとても積極的である。また、各種行事では、生徒の活躍の場を確保し自己肯定感を高められるよう、全職員が研さんと創意工夫を重ねている。



【文化祭の中で行われる合唱会】

本校には三つの小学校から入学してくる。二つの小学校からは全員が入学をしてくるが、もう一つの小学校からは約80%が本校に入学し、残りの20%は隣接する中学校へ入学をしている。昨年度の1年生は、おとなしくて素直な生徒が多く、生徒指導上大きな問題は表面化していない。しかし、入学後1週間程通学ただけで不登校になってしまった生徒もいた。中学校という新しい環境になかなかじめない生徒がいることも事実である。

また、今年度の1年生もおとなしくて素直な生徒が多い。生徒指導上も大きな問題はないが、小学校から不登校もしくは不登校傾向にあった生徒は、学校に登校できずにいる。

2 実践内容

(1) 教師の現職教育

愛知県総合教育センターの先生を講師として招き、グループ・アプローチを授業に活用できるように、その指導法を学習した。

すべての教師が興味をもって取り組めたので、大変盛り上がり、中身の濃い現職教育となった。各グループの中には、情報を集約してグループをまとめた教師、みんなが迷ったときに指針を示した教師、意見を上手に聞く教師などそれぞれの個性(?)を發揮し、グループ内で自然に役割分担ができていた。仕事で見せる表情とは違う一面を出していた教師が、たくさんいたようである。



【授業参観でのグループ・アプローチ】

多くの教師が翌週の授業参観時に、グループ・アプローチを実践していた。

(2) グループワークトレーニング

ア 匠の里(4月実施)

(ア) ねらい

- ・ 楽しいグループづくりをする。
- ・ お互いに協力する体験をする。

- ・ 仲間づくりをすすめる。
- ・ グループで活動しているときの自分の動きに目を向けてみる。

(イ) 活動の内容

五軒の匠の家（和紙づくり、木工、機織り、竹細工、染めもの）が集まる「匠の里」について、「タヌキの彫刻のある家では、ヤマメを養殖しています」「和紙の家の北東の方角には、染めもの家があります」といった情報から、「イワナを養殖している家は」といったような課題を解決していく。

① 導入（5分）

グループ（5～6名）ごとに机を囲んで着席する。

- ・ ねらいと進め方の説明

② 指示書を読む（5分）

「グループへの指示書」を配って、説明する。

「情報カード」を各グループに配る。

③ グループで問題を解決する

各自の情報を口頭で伝えながら、与えられた課題の答えをグループで出す。

④ グループの結果及び正解の発表（5分）

グループが出した答えを順に発表し、次いで正解を発表する。

⑤ 振り返り（13分）

まず個人で振り返り用紙を記入してから、グループでわかちあう。

⑥ 全員でわかちあい、コメント（7分）

振り返りで話し合ったことをクラス全員でわかちあう。

生徒たちにインタビューしながら、教師から簡単なコメントをする。

(ウ) 参加者の様子

① 教師の感想

- ・ ゲーム的要素を含んだ教材なので、生徒が興味を抱き積極的に参加していた。また、失敗があってもあきらめずに試行錯誤を繰り返して進めることができた。
- ・ 相手の話を聞かないとゲーム（匠の里）について行けないので、話をしっかりと聞くようになった。目立った変化は見られなかったが、これまで話したことのない友人と楽しそうに話す姿が見られた。また、リーダーが分かってよかった。
- ・ 友達のことをあまり知らない時期だったので、これをきっかけに打ち解けたと思う。

② 生徒の感想

- ・ 協力して1つの問題を解決することがおもしろかった。
- ・ 難しかったけど、楽しかった。
- ・ 楽しかったので、またやりたい。
- ・ 時間内にできなかったので、役割分担をすればよかった。

(エ) 課題

内容を説明するのに時間がかかってしまい、グループで問題を解決する時間も振り返る時間も十分にとることができなかった。クラスの実態を考慮して、問題解決のための時間を決める必要がある。

イ 謎のマラソンランナー（6月実施）

(ア) ねらい

- ・ 自分もっている情報の中で今、何が大切かを判断し、グループの話し合いの進行状況

に応じて、必要な情報をタイムリーに提供できる力を身に付ける。

- ・ グループの中での自分の役割を見付け、積極的に課題達成へ向けて貢献できる力を付ける。

(イ) 活動の内容

情報カードには、マラソンをしている人の絵が描いてあり、それぞれゼッケンをつけている。課題は、先頭から数えて4番目に走っている人のゼッケンの番号を答えること。

① 準備・説明（5分）

グループ（5～6名）ごとに机を囲んで着席。

- ・ ねらいと進め方の説明

② 実施（25分）

「情報カード」を各グループに配る。

各自の情報を口頭やメモで伝えながら、与えられた課題の答えをグループで出す。

各グループの様子で気付いたことは、メモしておく。

早く終わったグループには、確認をさせ、「ふりかえりシート」に記入させる。

③ 結果発表・振り返り（10分）

各グループの答えを発表させる。

正解を発表する。（カードをつなげてみれば一目瞭然）

「ふりかえりシート」をもとに、グループごとに振り返りをさせる。

時間があれば、学んだことを発表しあう。

④ まとめ（5分）

今の体験から、協力して仕事をするとき「心がけること」をまとめさせる。

教師からコメントをつける。

(ウ) 参加者の様子

① 教師の感想

- ・ コミュニケーション能力の大切さを再認識できた。また、自分の心を開くこと、人の気持ちをよく理解することの大切さを理解できたようである。
- ・ グループ・アプローチ後は、グループの中で少しずつ自分を出し、小学校単位の集団からクラス内集団へと広がりを見せた。
- ・ 表立っての変化はそれほど感じないが、給食の時の様子等から男女の仲がよくなったようである。

② 生徒の感想

- ・ 話をすることよりも、他の人の話を聞くことが大切だと思った。
- ・ 話をしたことのない友達の良さを発見することができた。
- ・ 1回目に比べて、みんなの考えを出し合って進めることができた。
- ・ 今回は先回より難しかったが、意見を出して解決の糸口が見つかった。
- ・ 今回は、前回よりもしゃべりやすかった。

(エ) 課題

まだまだ、集団の組織（構成）によって、自分の本来の力を出せずにいる生徒がいる。



【謎のマラソンランナーの授業風景】

決められたカリキュラムの中でグループワークトレーニングを行う時間が作れず、こちらからの働きかけがあまりない状態で、継続して生徒たちの様子を確認していくことが難しい。

【22年度の実践】

(1) 教師の現職教育

今年度は、校内の先生が講師を務め、グループワークトレーニングの現職教育を行った。この先生は、グループワークトレーニングを学級経営に生かした内容の論文を書き、市の表彰を受けている。

はじめに、論文の内容について説明をしてもらった。グループワークトレーニング自体を知っていても、定義については知らない先生がほとんどで、みんな真剣に聞いていた。また、グループワークトレーニングが、主に三つの実習に分かれることも学んだ。

実際の実習では、最初に全職員が「会話なし」で、誕生日の順番に並んだ。身振り、手振りで自分の意志を相手に伝えることの難しさを学んだが、全員がとても楽しそうに参加していた。



【校内現職教育の全体説明の様子】



【会話をせず誕生日順に並ぶ】



【バラバラ紙芝居に挑戦】

二つ目の実習は、講師の先生が創作した情報カード実習であった。バラバラ紙芝居の絵を相手に見せずに、「言葉のみ」で情報交換を行い、順番に並べるというものであった。誕生日ごとのグループで行ったが、年齢の差は一切関係なく、どのグループも和気あいあいと行き、暖かな雰囲気にもまれていた。早く完成したグループは、振り返りもできた。自分を振り返るだけでなく、グループとしての振り返りもでき、頑張った先生には暖かな拍手が送られていた。

ていた。

昨年度と同様、翌日の授業参観で多くの先生が実践し

(2) グループワークトレーニング

ア バラバラ紙芝居を完成させよう（4月実施）

(ア) ねらい

- ・ 楽しいグループづくりをする。
- ・ お互いに協力する体験をする。
- ・ 仲間づくりを進める。
- ・ 自分もっている情報のなかで今、何が大切かを判断し、グループの話し合いの進行状況に応じて、必要な情報をタイムリーに提供できる力を身に付ける。
- ・ グループの中での自分の役割を見付け、積極的に課題達成へ向けて貢献できる力をつける。

(イ) 活動の内容

情報カードには、ネコが魚釣りをしている様子が描かれている。課題は、しっかりしたストーリーになるように順番通りに絵を並べること。ただし、3枚余分なカードが入っている。

① 準備・説明（5分）

グループ（5～6名）ごとに机を囲んで着席。

ねらいと進め方の説明

② 実施（25分）

「情報カード」を各グループに配る。

各自の情報を口頭やメモで伝えながら、与えられた課題の答えをグループで出す。

各グループの様子で気付いたことは、メモしておく。

早く終わったグループには、確認をさせ、「ふりかえりシート」に記入させる。

③ 結果発表・振り返り（10分）

各グループの答えを発表させる。

正解を発表する。

「ふりかえりシート」をもとに、グループごとに振り返りをさせる。

時間があれば、学んだことを発表し合う。

④ まとめ（5分）

今の体験から、協力して仕事をするとき「心がけること」をまとめさせる。

相手の話を聞くときに気を付けなければならないこと、相手に話をするときに気を付けなければならないことを考えさせ、教師からコメントをする。

(ウ) 参加者の様子

① 教師の感想

- ・ ネコの絵もかわいく、どの生徒も意欲をもって参加できていたが、開始直後は、リーダーの資質がない生徒ばかりが集まったグループは、ぼそぼそと話すような雰囲気であった。
- ・ 生徒たちは、コミュニケーションが意志や情報を伝える上でなくてはならないものだとすることを、確認できたようである。
- ・ 昨年度と同様に、グループ・アプローチ後は、グループの中で少しずつ自分を出し、小学校単位の集団からクラス内集団へと広がりを見せた。

② 生徒の感想

- ・ 話の順番を考えることが楽しかった。
- ・ 猫の絵がかわいかったので、楽しくできた。
- ・ グループの中の違う学校の友達と仲良く慣れた気がする。

上記の「バラバラ紙芝居」以外に、「匠の里」や「謎のマラソンランナー」も、実践している。



【授業参観でのバラバラ紙芝居】

3 生徒の変容

(1) 小学校との連携

児童・生徒交流	小中連携
<ul style="list-style-type: none">・部活見学（7月）・授業参観（2月）・先輩（生徒会役員）からの説明会（2月）・特別支援関係の児童の授業参観（随時）	<ul style="list-style-type: none">・生徒指導主事，教務，校務主任が小学校にて情報交換（定期テスト時）・中学校図書委員会が小学生向けに本の紹介カードを送る。（2学期）

1学期末に小学6年生を対象に，部活動を公開している（小学校の先生が児童を引率）。夏の大会前の一番熱のこもった練習を見学してもらい，中学校の部活動への興味を高めてもらうことをねらいとしている。

2月に小学6年生を対象に，学校説明会を行っている（保護者向けとは別日で）。その際，小学生に授業参観を廊下からしてもらい，中学校の授業の様子を肌で感じてもらっている。また，生徒会役員からの学校説明会の後は，部活見学を再度行っているが，夏の見学を生かし，興味のある部活を意識して見学してもらえるようにしている。

また，生徒会役員による学校説明会は，生徒が作ったパワーポイントと学校行事のビデオを視聴させ，小学生が中学校生活の1年間をイメージできるように工夫されている。

中学校の定期テスト時に，生徒指導主事が各小学校を訪問して，情報交換を行っている。

不登校等の生徒が出た場合は，小学校と連携をとりながら対処している。

(2) 個々の生徒の変化

中学校へ入学する前に，各小学校で「中学校での生活で不安なこと」をアンケートしてもらっている。このアンケートに新1年生の担任が目を通し，新入生が抱えている不安を少しでも取り除けるように，配慮している。方法としては，学級開きのときに中学校生活の現状を伝えたり，特に不安が大きい生徒に対しては個別に声をかけたりしている。

小学校でのアンケート結果の内容や入学当初の様子から，特に配慮が必要と思われる生徒を抽出した。

【21年度の様子】

ア 生徒A

① 入学当初

クラスになじめず，一人でぼつんとしていることが多かった。理科のグループ学習では，班員に自分から声を掛けることができず，協力する姿は見られなかった。

② 小学校6年生時に持っていた不安

友達ができるか心配。勉強ができるか心配。

③ 1学期末の様子

男女を問わず声を掛けられるようになった。明るく受け答えができるようになった。授業中も積極的な姿が見られるようになり，理科の実験などでは，班員と協力して片付けを行っていた。

④ 変化のきっかけ

保健委員として、毎朝クラスの前に出て健康観察を行うことで、自信が付き、学級にも慣れてきたと考えられる。

イ 生徒B

① 入学当初

孤立気味で、自分から級友に話しかけることも少なかった。発言は後ろ向きであった。特に自分がかかわる事柄などで、自分が無駄と判断したことに対し、「こんなことをしても仕方ない」と力強く主張していた。理科のグループ学習では、自分勝手に実験を進めてしまい、グループの仲間と協力する姿勢は見られなかった。

② 小学校6年生時に持っていた不安

友達がたくさんできるか、授業について行けるか不安。いじめられるかもしれないから心配。

③ 1学期末の様子

後ろ向きな発言はほとんどなくなってきた。いかに自分がクラスに貢献できるかを考えて行動し、前向きなボランティア精神が育ってきたように感じられる。やさしく思いやりのある発言や行動は、クラスの仲間に受け入れられ、しっかりと自分自身の存在を確保でき、自信につながっている様子である。理科の実験でも、自分勝手な行動は影を潜め、グループの仲間が終わるまで待っているなど、協調性が見られるようになった。

④ 変化のきっかけ

自分自身の良い発言が、グループ内やクラスの中で認められたことにより、「気づき」があったと考えられる。

ウ 生徒C

① 入学当初

授業中に独り言を言ったり、場の空気を読めない発言をすることが多く、他の生徒からもあまり受け入れられていなかった。グループ学習などでは、他の班員からいわれるままに動き、主体的な活動は見られなかった。

② 小学校6年生時に持っていた不安

なし。

③ 1学期末の様子

自然と不必要な発言も減った。また、クラス内に自分の居場所を見つけたように感じられる。授業にも集中できるようになってきて、理科の実験では、グループの仲間と相談をしながら活動する場面が見られるようになってきた。

④ 変化のきっかけ

自分自身を理解してくれる友人が見つかったことにより、本人の気持ちが落ち着いたからだと考えられる。

【22年度の様子】

ア 生徒D

① 入学当初

与えられたことや指示されたことは黙々とこなすが、積極的に働き掛けることはなかった。常に、周りの様子をうかがっている様子で、自分の意志表示はあまりなかった。

② 小学校6年生時に持っていた不安

どんな友達ができるのか。先輩に知り合いがないので不安。今までに、先輩と後輩という関係がなかったので不安。

③ 1学期末の様子

係の仕事や部活動に熱心に取り組み、積極的に活動ができるようになってきた。困っている子に救いの手をさしのべるなど、優しい面も見られるようになってきた。グループ活動では、話し合いに進んで参加する姿が見られる。

④ 変化のきっかけ

中学校に不安はあったものの、期待していた部分も多くあった。中学校がその期待どりの場所だったという安ど感から、学校や学級に慣れてきたと考えられる。

イ 生徒E

① 入学当初

話を聞いている最中はよそ事を考えているような態度で、真剣に物事に取り組む姿勢はあまり感じられなかった。また、仲間と協力するというよりは、一人でボーッとしていることが多く、指示は一度で聞けなかった。

② 小学校6年生時にもっていた不安

授業について行けるか不安。新しい友達が作れるか不安。先輩たちと仲良くできるか不安。

③ 1学期末の様子

一人でボーッとしていることはほとんどなくなり、指示も一度で聞けるようになった。授業中は集中して取り組めており、課題などは素早く仕上げている。友達関係も良好で、放課は気の合った仲間と楽しそうに過ごしている。

④ 変化のきっかけ

1学期の中間テストでよい結果だったことが、自信につながったようである。また部活動が、想像以上に楽しく、先輩達とうまく人間関係をつくることができたことも、本人にとって大きかったようである。

ウ 生徒F

① 入学当初

いつもにこにこしていたが、自分から積極的に級友に話し掛けることはなかった。どんなことでもいやな顔をせずに頑張っていた。

② 小学校6年生時に持っていた不安

他のクラスのこと仲良くできるか不安。友達ができるか不安。勉強が苦手だからついて行けるか不安。部活で先輩達に迷惑を掛けないか不安。いじめられないか不安。

③ 1学期末の様子

明るく元気に生活をしている。授業に真剣に取り組み、先生の話をしっかり聞いている。理科の実験では、準備や片付けを進んで行き、意欲が感じられる。部活動も先輩と仲良くなり、楽しみながら参加している。

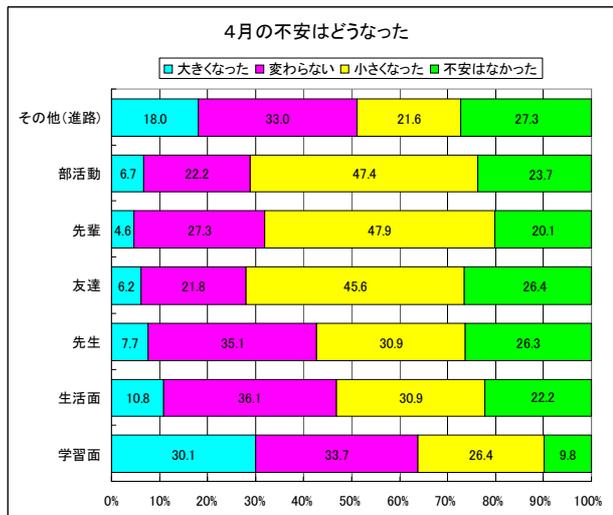
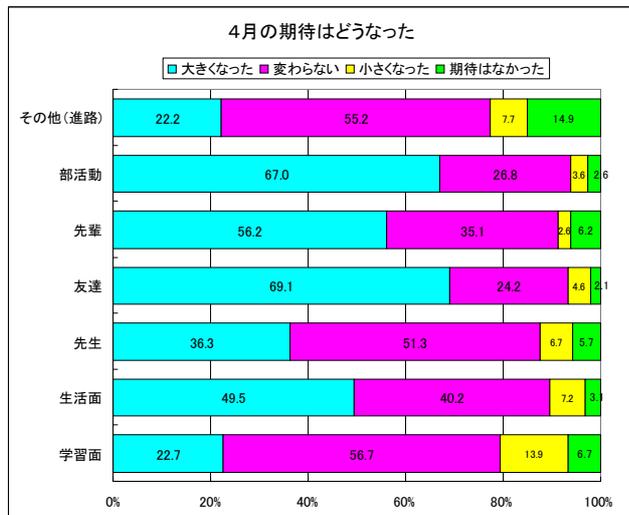
④ 変化のきっかけ

グループワークトレーニングを通して、みんなと協力し、助け合うことの大切さが分かったからだと答えている。

以上のように、不安が大きかったり、教師が心配していたりした生徒も新しい環境に慣れて、楽しく学校生活を送ることができている。

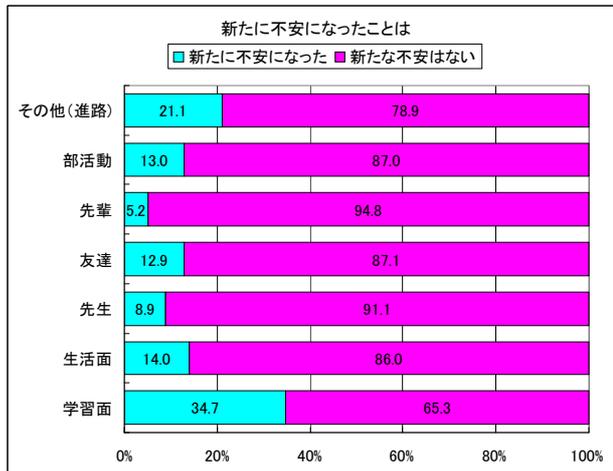
4 考察と課題

【適応度調査結果1】



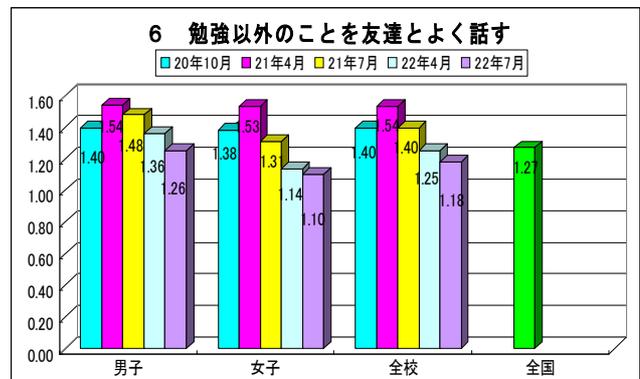
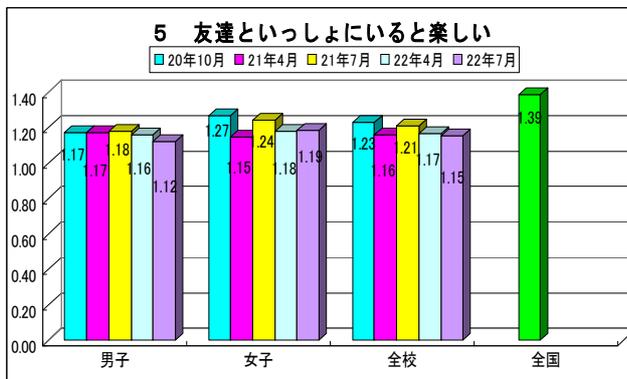
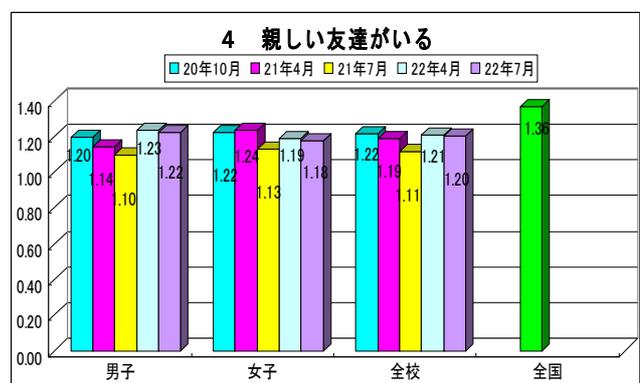
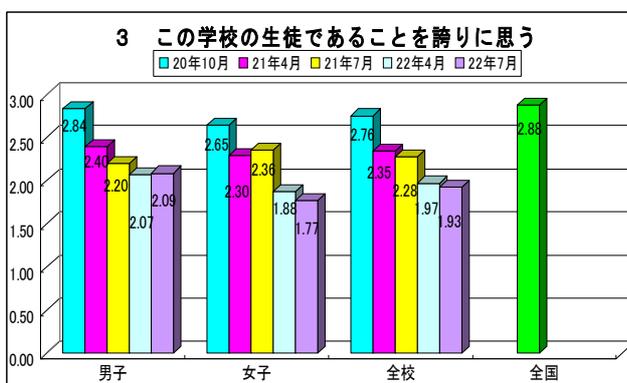
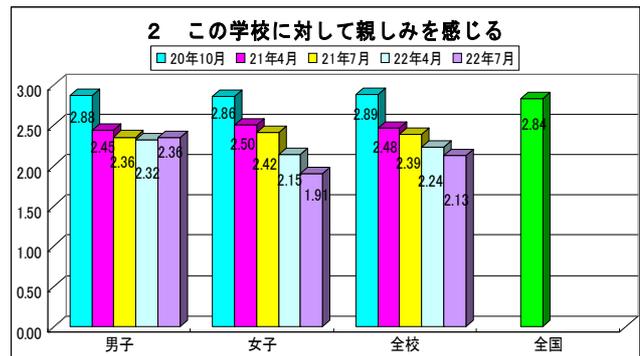
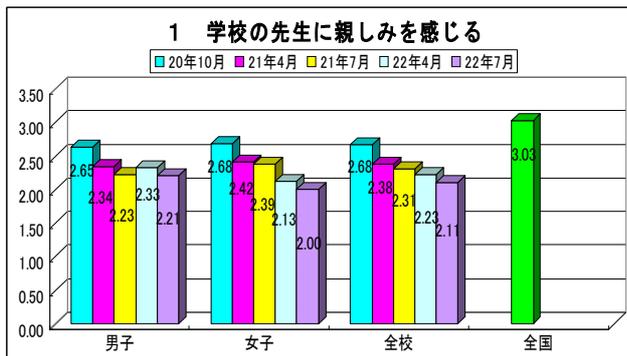
入学直後と、1学期末に1年生向けの調査を行った(1学期末には、2回以上のグループワークトレーニングを行っている)。適応度調査結果1から、入学前に不安を感じていた項目のうち、対人関係に関する「先輩、友達、先生」については、不安が大幅に小さくなっている。その理由として、先生については「厳しいと考えすぎただけであって、実際はそんなに大したことはなかった」というものが多かった。

友達や先輩については、「中学校生活に慣れた」



「周りの人に相談して、解決した」などが主なものである。また、「新たに不安になったこと」、「4月の期待はどうなった」という調査についても、人間関係に関するものは良い結果が出ている。

【適応度調査結果 2】



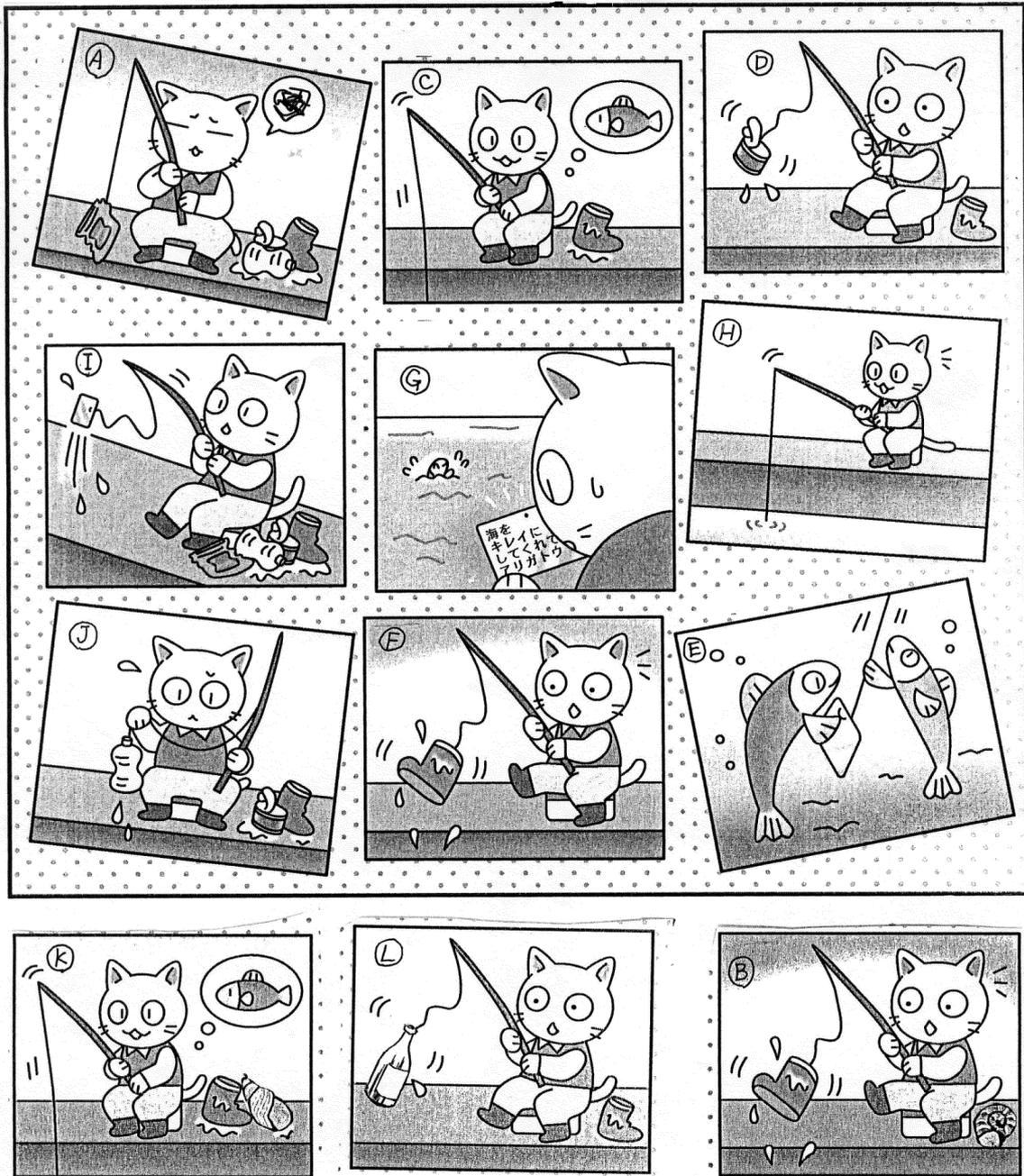
また、適応度調査結果 2 より、4月よりも7月の結果が、そして21年度よりも22年度の結果の方がおおむねよくなっている。特に、「学校の先生に親しみを感ずる」、「この学校に対して親しみを感ずる」、「この学校の生徒であることを誇りに思う」等は、環境に慣れるだけでは高まってこない感情である。これは、グループワークトレーニングの効果が十分に現れ、生徒自身が人間関係を上手に構築し、学校が生徒達にとって居心地のよい場所になったからだと考えることができる。

課題としては、我々教師がグループワークトレーニングをもっと知り、精通することが挙げられる。グループワークトレーニングに慣れた先生の方が、生徒への説明を短時間で済ませ、振り返りの時間をたくさんとっている。

また、学校のカリキュラムの中でのグループワークトレーニングの位置付けを明確にしていくことが求められる。

そして、環境に適応できない生徒に現れる小さな変化を見逃さない感性を磨くことと、それに対応できる力量を高めていくことも課題とし、今後も研修を積んでいきたい。

5 エクササイズ資料



出典（資料）脳が歓ぶ推理パズルキング2009， 5月号（ASH作）インフォレスト株式会社

参考資料

『協力すれば何かが変わる 〈続・学校グループワーク・トレーニング〉』 (遊戯社)

『「脳が歓ぶ推理パズルキング2009， 5月号（ASH作）」』 (インフォレスト株式会社)

『Creative School』 (プレスタイム社)

【実践報告6】

一校区の生徒の実態を把握した実践を通して

1 対象集団の状況

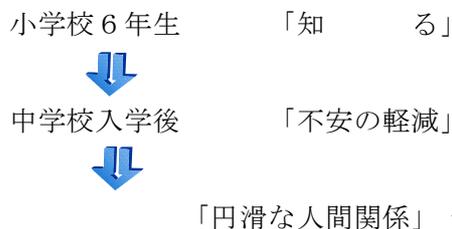
本校は、町内の中学校の生徒数の増加に伴い、昭和61年に分離独立した中学校である。校区は、豊かな緑に囲まれ、旧来から居住する地域と新興住宅地が混在している。開校当時は450名近く、16学級の中規模校であったが、生徒数の減少により現在187名、各学年2学級と特別支援学級を含む7学級の小規模校である。教職員と生徒の関係は家庭的な雰囲気をもっており、ゆったりとした環境の中で学校教育が行われている。

本校は、2つの小学校からの入学状況に特徴がある。一方のA小学校からは全員入学（平成21年度41名、平成22年度57名）し、他方のB小学校からは一部（平成21年度18名、平成22年度15名）が入学してきた。生徒全体の7割がA小学校を卒業して本校に入学してくるが、幼いころからの友達関係が変化する機会が無く、中には、保育園以来ずっと一緒である生徒も多い。それに対して、一部しか入学してこないB小学校を卒業してきた生徒にとっては、大変不安感をもって入学してきている。

2 実践内容

入学してきた生徒たちの多くは、入学する前の不安は友達関係よりも、上級生や学習に対して感じた。そんな中で、ほんの3割に満たない小学校から入学してきた生徒の不安は、友達関係を含めより大きいものがあると思われる。そのため、入学前後で、新しい環境に対する不安を解消する取組を進めることによって、お互いに協力したり心を通わせたりすることができると考え、実践した。

(1) 実践計画



グループ・アプローチを通して、円滑な人間関係を形成できるように支援する。

『安心』・『存在感（学級所属意識）』

	月	週	グループ・アプローチ	効果測定	教育相談	学校行事等
小学6年	9					体育大会へ参加
	1					中学校説明会
中学1年	4	1				入学式
		2				
		3			測定①	授業参観
		4				家庭訪問
	5					

5	6	文章完成法 (H21) 先生ばかりが住んでいる マンション (H22)			1年校外学習 (H21) 1年遠足(H22)
	7				引き渡し訓練
	8				
6	9			教育相談週間	
	10			教育相談週間	
	11			教育相談週間	
	12			教育相談週間	期末テスト
7	13				
	14	班対抗クイズ (H21) なぞの宝島 (H22)			
	15		測定②		

(2) 活動1 学校行事への参加「体育大会」(9月)

中学校の行事を観戦・参加することによって、中学校や中学生を身近に感じることができると考え、毎年9月の体育大会にA小学校の児童を招いている。

ア 活動の内容

体育大会の種目「大縄跳び」に小学生として参加したり、中学生が演じるパフォーマンスの演技を観戦したりしている。

イ 参加者の様子

A小学校6年生が、午後から応援合戦(クラスパフォーマンス)の演技を見たり、大縄跳びで競技に楽しそうに参加したりした。また、綱引きで1位になった3年のチームが、PTAチームと競技をする様子を見て楽しんでいた。



【小学生の大縄跳び】

【体育大会に参加した児童の感想】

中学校の体育大会を見て、最初に思ったことは、中学生の先輩はとても明るく元気だったことです。ぼくは、中学校は少し暗いイメージだと思ったので、それを見てビックリしました。中学生のパフォーマンスは、どれも息が合っていてすごいと思いました。

【A小学校 参加児童の感想】

中学校の体育大会へ行って思ったことは、中学生はデカイということでした。小6と中学生の身長の違いがこんなにあるとは思いませんでした。クラスの中でも、結構大きい人はいるのに、特に中3の男子と並ぶと小さく見えてしまいます。私たちも、中学生になったら、あんな風になるんだと思うと変な感じです。

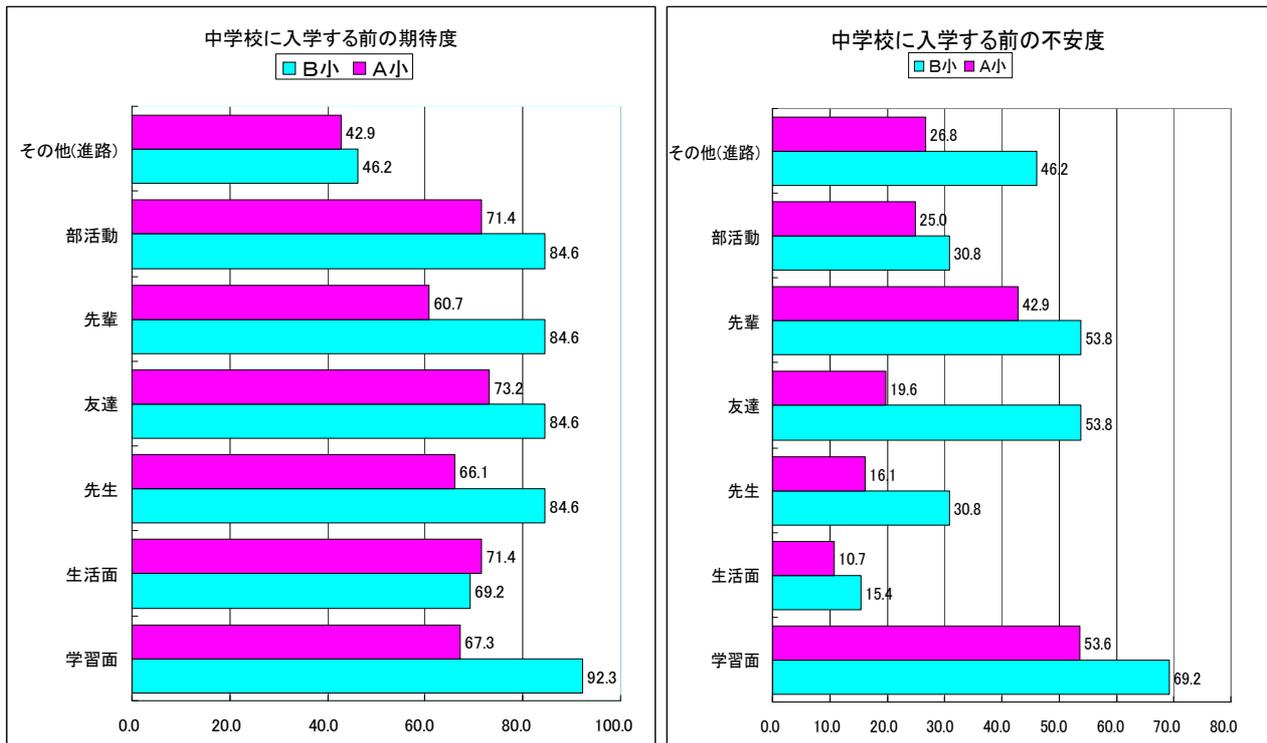
【A小学校 参加児童の感想】

ウ 課題

この実践は、小学生の児童が中学校を知るきっかけとなり、中学校入学への不安がすごく減少するようだ。しかし、今回中学校に来校した児童は、次年度入学する予定の児童全員ではない。4月の入学当初、生徒に期待度・不安度の調査をしたところ、二つの小学校から入学してきた生徒の期待度には大きな差はないものの、不安度は少人数しか入学してこないB小学校から入学した生徒が多くなっている。そこで、一部しか入学してこないB小学校の児童に対しての対策が必要であり、追跡の調査

を試してみた。

【期待・不安について小学校の比較】



(3) 活動2 「小学校6年生向け中学校説明会」(1月)

中学校に入学して学校不適応をおこさないためにも、6年生の児童が中学校の様子を自分の目で確かめ、中学生になるための心構えをもたせることを目的として、二つの小学校の児童を中学校に招いている。

ア 活動の内容

授業や施設を見学した後、中学校の教師より、授業や部活動などについて説明をした。また、生徒会役員が中心となって、校則などについて説明をした。

イ 参加者の様子

A小学校の児童は、毎年体育大会の時に見学に来て競技を一緒にやったり、観戦したりしていたが、中学校について話を聞く入学説明会は今回が初めてである。両小学校の児童ともに聞く態度が良かったのが印象的であった。また、各小学校の代表児童あいさつは、中学校の教師が驚くほど上手く、中学校入学への期待の大きさを感じさせた。

事前に質問・見学希望等を聞いて、中学1年生が「本校のよさ」を紹介する掲示物を会場に飾り、場の雰囲気盛り上げ、心のこもった有意義な時間となった。



【児童向けの説明会の様子】

【中学校説明会に参加した児童の感想】

私は、4月から行く中学校をすごく楽しみにしています。でも、新しい環境で生活するのに、少し不安も感じていました。今回、実際に中学校に行って、先輩たちの授業を見学させてもら

ったり、先生に中学を案内していただいたり、先生たちが質問に答えてくださったりしたお陰で、大分気持ちが楽になりました。まず、私が一番驚いたことは、運動場の広さと校舎の高さでした。「やっぱり小学校とは違うな」と思いました。そして中に入ると、先輩たちが描いたポスターがたくさん貼ってあって、すごく楽しそうな校舎でした。体育館も大きくて、さらに2階にもあったので驚きました。そして、一番楽しみにしていた先輩たちの授業を見学して思ったことは、どのクラスもまとまっていて、いい雰囲気だなあと感じました。「私も中学校に入ったら、いろんなことを一生懸命がんばるぞ!!」と、一層中学入学が楽しみになりました。

【A小学校 参加児童の感想】

私は最初、中学校はあまり楽しみではありませんでした。理由は、すごく仲がいい友達と別れてしまうことや不安がたくさんあったからです。けれど、中学校に行って説明を聞いているうちに、中学校に行くのが楽しみになりました。先生は優しく、先輩たちの授業を見たら授業も楽しみになりました。体育館が2階建てだったこともびっくりしました。私もはやく中学校へ行きたいと思いました。

【B小学校 参加児童の感想】



【1年生徒からのメッセージカード】

もうすぐ入る諸小生へ。中学生活がもうすぐ始まりますね。部活に悩む人も少なくはないでしょう。しかし、仮入部をうまく使って、自分に一番合う部活を選ぶのもいいと思います。僕の入っているテニス部は入ったばかりのころは筋トレばかりでしたが、やり終えればボールを打たせてもらえます。他の部は知りませんが、自分に合う部活が一つもないなんてことはほとんどないので、安心して選んでください。4月までお元気で。

【1年生徒 A小学校卒業生】

中学校は生徒の人数がとても少ないけど、みんな仲が良くて、とても楽しい学校です。もし、他の小学校の子と仲良くなれるか心配している人は、気にしなくても大丈夫です。私もB小から来て、A小の子と仲良くなれるか心配だったけど、自分からいろいろ話しかけると、笑顔で答えてくれて友達がたくさんできました。そういうところも中学校のいいところです。ぜひ、中学校生活も楽しんでください!!

【2年生徒 B小学校卒業生】

ウ 課題

入学前に中学校を知る機会は大変有意義であった。自宅から中学校までの通学距離や通学時間を知ることができた。また、中学校の在校生にとっても、間もなく入学してくる下級生の様子を知ることができた。しかし、時間的なゆとりがなく、校舎内を一通り見学しただけになってしまい、ゆっくりと校庭等を廻る時間があると良かった。

(4) 活動3 グループ・アプローチの実践

ア 現職教育

平成21年7月6日実施 「なぞの宝島」

平成22年5月24日実施 「匠の里」

本校の1年生において、グループ・アプローチを通じた研究がされていることが、本校の職員にも浸透してないことを感じていた。そこで、現職教育として、愛知県総合教育センターから講師を招き、職員が生徒になってグループ・アプローチに参加し、研修を積んだ。

グループ・アプローチやグループワークという言葉聞いたことはありましたが、実際に実践したり、自分自身が体験したりしたことはありませんでした。今回、実際に体験してみると、和気あいあいと楽しい雰囲気でき、抵抗感がなくなりました。また、クイズの答えにたどり着いたことから充実感を感じました。 【参加した教師】

イ 定期的な実践

平成21年度の実践を反省し、平成22年度は、1年生の学級活動の教育課程の中に2時間のグループ・アプローチの実施を位置付けた。

(ア) 文章完成法（平成21年5月実施） 一連想法を使ったエクササイズ

① ねらい

- ・ ふだんの自分を振り返り、感じていること、考えていることなどを明確にし、できた文を紹介し合うことで、他者理解を推進させる。

② 活動の内容

- ・ 各学級で学級担任がファシリテーターとなり、実施する。
- ・ 事前に時間を確保し、「わたしは…」等の10個の文章を完成する。
- ・ 生活グループの中で、お互いに発表し、感想を伝え合う。
- ・ グループごとにシェアリングをする。
- ・ 全体に感想を発表する。

③ 参加者の様子

【生徒の感想】

- ・ 友達の意外な一面を見ることができた。知らないところを知ることができた。
- ・ みんな一人一人考えていることが違うことが分かった。
- ・ 書いた文を聞くことによって、その人のことについて分かった。
- ・ 自分のことを正直に多く書いたことは久しぶりだ。
- ・ 違う小学校の子のことがよく分かった。
- ・ 自分がどういう人なのかなどがよく分かった。
- ・ 自分のことをかくさずに、言えるようになりたい。
- ・ 班の子と仲が深まった気がする。

【教師の感想】

- ・ 今回の題材は、文章を書く時間をしっかり取り、それをもとに発表させた。自分についてよく考える時間をとったことで、友達の個性などいろいろな違いが分かったようである。また、友達により興味をもてたのではないかと思う。

④ 課題

文章を書くことに対して、生徒の能力差が大きく、かなりの時間を必要としてしまった。また、グループを近くにいる生徒同士で実施したため、グループの中に積極的に話し合い活動に参加し、まとめることができる生徒がいるグループは活発に活動していた。しかし、消極的な生徒ばかりのグループは十分な活動ができなかった。グループの決定の仕方に課題が残った。一方、入学後間もない時期の実施であったため、グループ・アプローチの内容を別のものにした方がよかった。

(イ) 「先生ばかりが住んでいるマンション」(平成22年5月実施)

① ねらい

- ・ 自分もっている情報を正確に伝え、正しく聴くことの重要性に気付く。
- ・ 情報を集めてまとめるときに、協力の大切さについて学ぶ。

② 活動の内容

- ・ 各学級で学級担任や学年主任がファシリテーターとなり、実施する。
- ・ グループを作り、情報カードを使い協力して課題を解決する。
- ・ グループごとにシェアリングをする。
- ・ 全体に感想を発表する。

③ 参加者の様子

【生徒の感想】

- ・ 結構時間がかかったが、みんなで協力したら意外にできた。
- ・ グループ全員が参加して、協力して一人一人がもっている意見を言うことができ、楽しくできた。
- ・ みんなで協力して話し合えないとできなかった。自分の意見を出しつつ、他の人の意見を聞くことが大切だと思う。
- ・ 話をするときにあまりみんなで団結できなかった。



【ファシリテーター役の教師】

【教師の感想】

グループ・アプローチ第1回目。ゲーム感覚で行うことができるので、興味を示す生徒が多かった。初めはやり方に戸惑っていたものの、ほとんどのグループがルールを守り意見を出し合いながら行うことができた。時間が経つにつれて、グループを引っ張る生徒が出てきたり、用紙に記録する生徒が出てきたりした。ほとんどのグループが時間内に正解を導き出すことができた。

(ウ) 班対抗クイズ法(平成21年7月実施)

① ねらい

- ・ 互いに協力する体験を通して、仲間づくりをする。

② 活動の内容

- ・ 各学級で学級担任や学年主任がファシリテーターとなり、実施する。
- ・ 20問のクイズに自分の思った答えを書く。
- ・ グループを作り、お互いに発表し合う。
- ・ グループごとにシェアリングをする。
- ・ 全体に感想を発表する。

③ 参加者の様子

【生徒の感想】

- ・ 楽しかった。
- ・ なぞなぞがくだらなかったけれど、おもしろかった。
- ・ この班は楽しくできて、しかも1位だったので、最高でした。また、この班でしたいな。

- ・ 私が思いつかない答えを友達が出していたので、びっくりした。
- ・ 意外と分からず、苦戦したがおもしろかった。
- ・ 自分一人では分からなかったけど、班で考えると、いろいろな答えがあることが分かりおもしろかった。

【教師の感想】

- ・ 班の中で積極的に話し合う場面が多く見られて大変良かった。
- ・ 最初、「なぞなぞ」自体をつまらないと片づけてしまう生徒がいて、いやな雰囲気になってしまった。楽しい雰囲気で導入の仕方を工夫する必要がある。

④ 課題

クイズということで、大変楽しく取り組んだ生徒が多くいた。しかし、前回と同様にグループの組み方によって盛り上がりには差が出てしまうため、普段の生活の様子から、効果の上がるグループを工夫する必要がある。

(エ)「なぞの宝島」(平成22年7月実施)

① ねらい

- ・ 互いに協力する体験を通して、仲間づくりをする。

② 活動の内容

- ・ 各学級で学級担任や学年主任がファシリテーターとなり、実施する。
- ・ グループを作り、情報カードを使い協力して課題を解決する。
- ・ グループごとにシェアリングをする。
- ・ 全体に感想を発表する。

③ 参加者の様子

【生徒の感想】

- ・ もっとみんなに分かりやすく情報を言えるとよかった。
- ・ 前回よりすごく難しかった。
- ・ よく考えないと全然進まなかった。
- ・ 一つ違うと全部違ってくるので難しかった。



【教師の感想】

前回とやり方が同じなので、どのグループもスムーズに取りかかることができた。しかし、内容が難しく、生徒同士うまく指示が伝わらないことが多かったため、途中であきらめてしまうグループや、カードを全部並べて正解を探そうとしているグループがあった。一つ一つグループをまわり、悩んでいるグループや協力できないグループには、ヒントを与えたり、どのように進めるとよいかを教えた。しかし、時間内に正解を導き出すことができたグループはなかった。前回の振り返りで「しっかり伝えることが大事だと思った」「次にやるときは人の意見を聞きたい」などの感想が出たものの、今回にうまくつなげられた生徒は少ないように感じる。

【なぞの宝島】

ウ ショートエクササイズ (5月～随時実施)

① ねらい

- ・ 朝の会や帰りの会を利用して、学級や学年で互いに協力する体験を通して、仲間づく

りをする。

② ショートエクササイズの内容

・誕生日チェーン

学年全員が体育館に集まり、指だけを使って自分の誕生日を表し、1月から順番に並んだ。

・ジェスチャーゲーム

学年全員が体育館に集まり、7～8人でグループを作り、「昔の遊び」について交代にジェスチャーをして、その名前をみんなで当てる。

③ 参加者の様子

【生徒の感想】

- ・ チームが一つになってジェスチャーをしたときは、みんなで協力することはいいことだと思った。
- ・ 今日のゲームでみんなの仲が深まった。楽しかったので、機会があればまたやりたい。
- ・ 誕生日チェーンやジェスチャーゲームをやって、みんなで力を合わせないと全てのことができないとわかった。
- ・ 誕生日チェーンでは70人もいたけど、ほとんどの人が「しゃべらない」の約束を守ってできたので良かった。ジェスチャーゲームは、相手に大きく分かりやすく表現しなければいけないと思った。

④ 課題

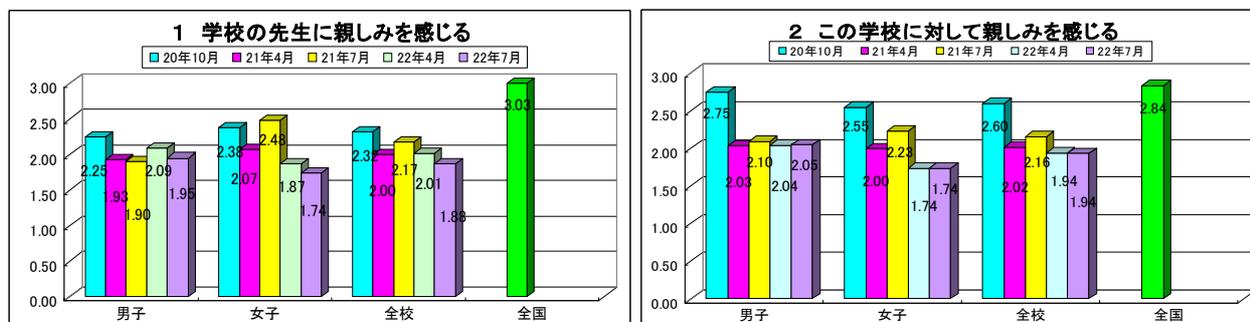
学級や学年単位で、朝や帰りの短学活を活用して、グループ・アプローチを実施することは、大変効果があることが分かった。しかし、時間的にいつも余裕があるわけではない。年間通して、行事等の前に計画的に実施していくことが大切である。

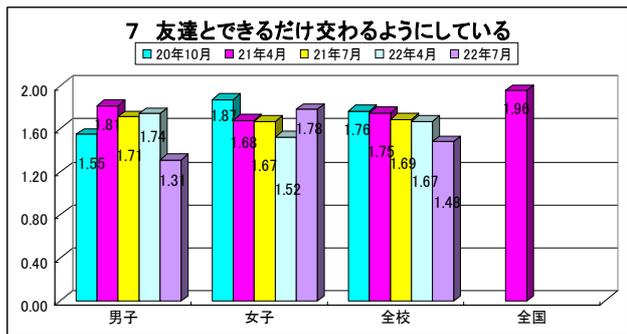
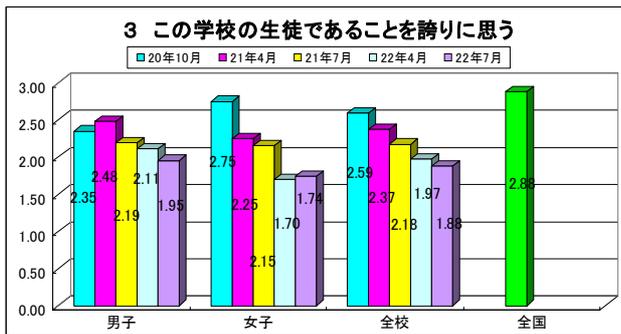
3 結果と考察

(1) 適応度調査の結果より

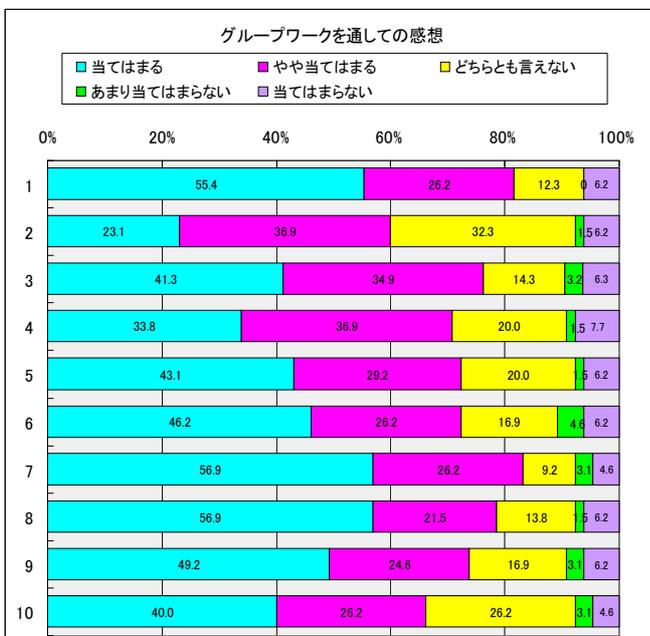
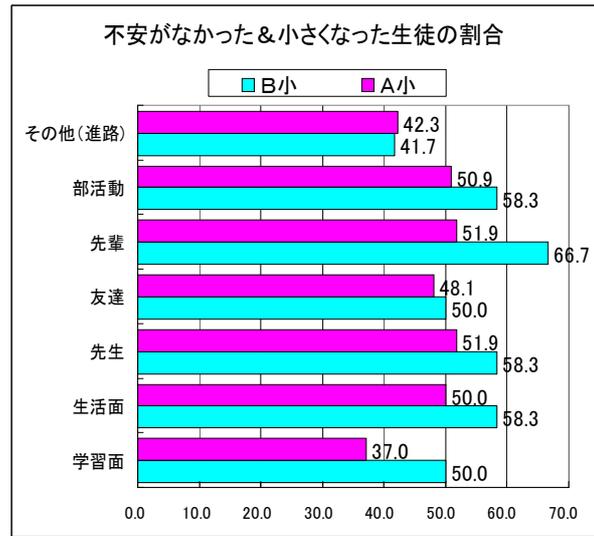
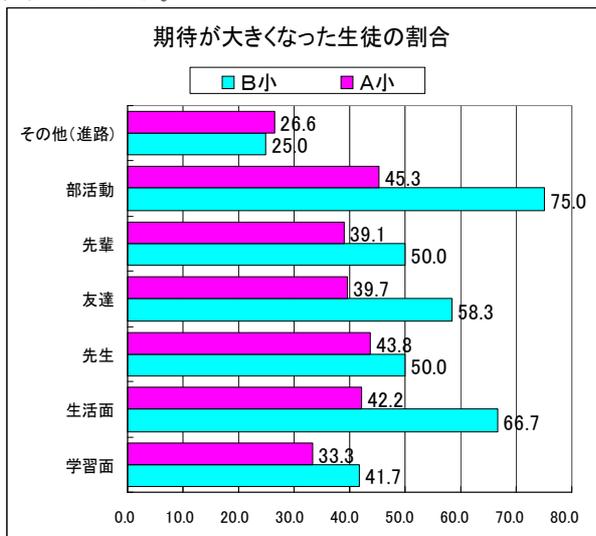
3年間の研究を通して、グループ・アプローチの実践を行った結果、「この学校に対して親しみをを感じる」「この学校の生徒であることを誇りに思う」という項目において、特に高い値を示し、特に毎年男女を問わず「親しみをを感じる」割合が大変高くなっている。中学校区の特性もあると思われるが、グループ・アプローチを通して、友だち関係がよい方向に改善してきていると考えられる。また、「自分から友達とできるだけ交わるようにしている」という値が高くなっていることから、自分から積極的にかかわろうとする気持ちが育っていることが分かる。

【適応度調査結果】





B小学校から入学した生徒が入学当初持っていた不安は、多くの項目において減少し、期待が大きくなっている。



- 1 みんなでやると楽しかった
- 2 自分のよさや、自分のことについて分かってきた
- 3 友達のよさや、友達のことについて分かってきた
- 4 自分の気持ちが分かってもらえてうれしかった
- 5 友達の気持ちを、思いやるようになってきた
- 6 自分の意見が、言えるようになってきた
- 7 協力することや、団結することが大切だと分かった
- 8 お互いの意見を、ちゃんと聞き合うことが大切だと分かった
- 9 みんなと仲良くできるようになったと思う
- 10 クラスのふんいきがよくなったと思う

グループ・アプローチを行うことによって、「みんなと仲良くできるようになった」「みんなとやると楽しかった」と感じている生徒が多い。特に、自分の意見が言えたことを自信と感じたり、友達の意見を聞くことの大切さを感じたりしていることが分かった。グループ・アプローチを実施した生徒たちは、その成果の大きさを実感している。

(2) 生徒の変容（B小学校出身の生徒）

【抽出生徒 A…明るく活発な生徒】

自己主張がやや強い傾向にあるため、仲間の中で孤立しやすい面をもっている。学校生活が進むにつれて、リーダー的な素質が発揮され、後期の級長として活躍している。文章完成法のグループ・アプローチの振り返りの中で、「1つの文章をどのように解釈するかは、別々なんだと思った。だから、私も自分の言った言葉が誤解されているかもしれないと心配です。言葉を慎重に選び誤解されないようにしたい」と述べている。小学校以来変わらない友達関係の生徒が多いが、グループ・アプローチを通して自分自身を振り返り、同時に友達関係を見つめ直すきっかけになったようである。

【抽出生徒 C…友達が少なく、からかわれやすい存在である】

授業中は、ぼんやりしていることが多く、教科担任の教師からよく注意を受ける。また、友達からの印象もよくない生徒である。1回目のグループ・アプローチの振り返りでは、自分自身の気持ちを少し出すことができなかつたと自己評価し、感想等も白紙であった。2回目のグループ・アプローチでは、クイズのすべての項目にきちんと回答し、友達の良いところについても少し書けていた。10月には、友達から嫌がらせを受けているという保護者からの訴えがあったが、その指導後には友達関係が改善され、仲のよい友達が少しずつ増えてきている。

(3) 考察

入学してから間もなくは、同じ小学校の生徒同士が集まって放課を過ごす場面が多く見かけられたが、グループ・アプローチや学校行事を通して、どの小学校を卒業しているかなどということを感じさせない友達関係ができてきた。A小学校卒業の生徒は、幼稚園の頃から変わらない友達関係を作っているため、幼い頃のイメージをお互いがもち続けている。しかし、成長に伴って考え方が変化していることをお互いが気付いていない傾向がある。特に、幼い頃から仲のよい友達に恵まれず、辛い思いをしている生徒にとっては、中学校入学は新しい友達を見つけたり、改善したりするチャンスである。

平成22年度は、例年以上にB小学校出身の生徒が少なく、特に女子生徒は3名しかいなかった。そのため、行事の精選に伴い、昨年まで探究的課題をもち取り組んでいた校外学習を仲間づくりを第1の目標とした遠足に変更した。中学校に入学して間もなくグループで楽しい体験をしたことや計画的にグループ・アプローチを実施したりすることによって、少人数で入学してきた生徒にとっては、特に有効な試みであった。幼い頃から人間関係が変わらないA小学校の生徒にとっても、自ら進んで友達をつくらうと努力したり、改めて友達を理解したりするきっかけになったようである。

4 今後の課題

本研究では、少人数の小学校から入学する3割の生徒の不安に焦点を当て全体の調査を行ってきた。本校では、グループ・アプローチを実施する時間を、1年生の学級活動の年間計画の中に位置付けて実践した。しかし、授業時間数の増加等を考えても、より多くの実施をしていくことは難しい。そのため、様々な学習活動の場面でショートエクササイズを取り入れたり、道徳や学級活動等の年間計画の内容をさらに見直したりすることから始める必要がある。また、教師はグループ・アプローチの手法を学ぶことにより、授業だけでなく日ごろの話や指導の場で、生徒の心をつかんだり生徒同士の関係づくりを行ったりすることができるようにしていきたい。教師の意識が高まり他学年でも、朝の会にショートエクササイズを取り入れたり、行事前にグループ・アプローチを実施したりして、生徒同士の関係づくりを深めている。

本校には、不適應症状から不登校になっている生徒は、幸いにもここ数年いない。今後も、一層小中の連携を深めたり、校区の特徴を生かして、中学校の教師が小学校へ出前授業に出かけたりすることも計画できるとよい。

小規模校だからこそ、生徒の縦や横のつながりができやすい。先輩との関係も密で、先輩の頑張る姿は、下級生の目標となり、中学校生活の希望へとつながっている。生徒の人間関係を日ごろから良好に保っていくことで、これからも生徒の学校への適應を図っていきたいと考える。

参考資料

『改訂 グループワーク・トレーニング』 (遊戯社)

『協力すれば何かが変わる』〈続・学校グループワーク・トレーニング〉 (遊戯社)

『「グループワーク・トレーニング3」〈友だちっていいな 自分っていいな〉 (遊戯社)

【実践報告 7】

ーグループ・アプローチと校種間連携を通してー

1 対象集団の状況

本校は、昭和51年4月に開校した全日制普通科の高校である。現在の規模は第1学年8学級、第2・3学年各7学級の22学級編成で、平成22年4月現在の生徒数は男子545名、女子327名の合計872名である。本校入学生徒の居住地域とその比率は、豊明市と東郷町の合計が全体の約33%、名古屋市が約42%、刈谷・知立市の三河地区が25%という数字である。この数字は、ここ数年似通った傾向で、豊明市と愛知郡地域・名古屋市内・三河地区の3地区でほぼ三分の一ずつという形であったが、平成22年度においては、三河地区の入学生がやや減少し、名古屋市内からの入学生が増加したことが一つの特徴と言える。また、男女比については、例年ほぼ男子2に対して女子1から男子3に対して女子2の割合で推移している。

本校は公共交通機関の最寄り駅から遠く、一部の生徒が通学途中で電車を利用するが、生徒のほとんどが自転車通学である。生徒気質を見ると、素直でおとなしいが、やや積極性に欠け、明確な目標をもたずに入学してくる生徒が多く、周囲の雰囲気や影響力のある生徒の言動に流される傾向がある。しかし、明確な目標をもった生徒は部活動での活躍や難関大学への進学などを果たしており、教えがいのある生徒たちでもある。

2 実践内容

(1) グループ・アプローチについて

ア 『匠の里』

(ア) 実施日時

平成21年4月21日（火） 1年生 7学級 277人

平成22年4月22日（木） 1年生 8学級 318人

1年生最初の学年行事として実施した宿泊研修のメニューの一つとして実施

(イ) 実施場所

平成21年度 愛知県豊田市 旭高原少年自然の家 研修室

平成22年度 岐阜県高山市 オハヨーサンホテル 研修室

(ウ) ねらい

高等学校への入学後、約2週間という時期に、高校生としての新たな人間関係を構築するきっかけとしてグループワークを利用する。

(エ) 活動の内容

新入学1年生最初の学年行事として例年実施されてきた宿泊研修のメニューの一つとして、学級担任がファシリテーターとなりグループワーク『匠の里』を実施した。

なお、本校職員は平成20年度の現職研修にてグループワーク『匠の里』を体験し、平成21・22年度とも宿泊研修引率者会にてグループワーク実施に当たってのグループワーク展開例やファシリテーターの注意点等、細かな点も確認して指導に当たった。

① グループ分け

グループワークを実施するためのグループ分けは、原則として学級内での出席番号の若い者から順番に人数でまとめる形で構成させた。この時期は、出身中学校からの情報が上がってきている特別な

事情のある生徒以外は、担任も生徒の人間関係が把握できておらず、グループ分けをする場合の特段の配慮をすることが困難である。そうした事情から、単純な名簿番号でのグループ分けとなった。さらに本校では、男女混合名簿にしているため、よほどの場合を除いてグループ内に男女が混在する形となっている。

② エクササイズの説明

ファシリテーターである担任が、実施するエクササイズのねらいを示し、内容やルールの説明をする。 【グループ分け】



③ 情報交換と問題解決

各グループのメンバーに、一人当たり4～5枚の情報カードを配布する。各カードに記されている情報を互いに口頭で交換し合いながら『匠の里』の地図を作り、問題解決を図る。メンバーの持っているカードのすべての情報が提示されないと最終的な解決に至らないので、メンバーは黙っている訳にはいかない。また、提示される情報を整理する者が出てこないと円滑に進まない。エクササイズの意図を理解する者がグループ内に出てくるかどうかの一つのポイントである。



【情報交換と問題解決】

④ 「振り返り」と「わかち合い」

地図作成と問題解決作業の終了後、グループワークを通じて各自が感じたことや考えたことを、自分なりの文章としてまとめる「振り返り」を実施し、その「振り返り」をグループ内で発表しあう「わかち合い」を実施する。

⑤ 「まとめ」

グループの中の代表生徒に解決した内容を発表させ、そのまとめをファシリテーターの担任が行う。



【振り返り】

(4) 参加者の様子

① 参加生徒の感想

- ・学級内のチームワークが良くなった感じがある。
- ・友人と協力することの重要性が体験できた。
- ・今まで話したこともなかった人と話すことができ、人間関係が広がった。
- ・〇〇君が何をするのかに気が付いて、みんなに声をかけてリードしてくれたので、うまくいった。

- ・目的を理解することの大切さが分かった。

② 教師の感想

- ・グループワークの意義を少しだけでも分かってくれたように感じた。
- ・カードに書かれていることが理解できない生徒や、書いてある漢字が読めない生徒がいたりして困った場面があった。
- ・グループ分けの難しさを感じた。

(カ) 課題

① 平成21年度

グループワークの現場で指導に当たった教員の感想にも見られたが、生徒の中には驚くほど語彙が少なかったり、情報カードに記載された内容が理解できなかったり、漢字が読めない生徒もおり、今後はこうした点について対策を講じることが必要である。また、グループ分けにも工夫がいると感じた。

② 平成22年度

前年度の反省に基づき、グループへの指示書や情報カードに記載されている漢字に振り仮名をつけ、指示や情報の内容が理解しやすいように工夫したことによってスムーズにグループワークが行われていった。しかし、今年の宿泊研修は前年度までのものから日程や宿泊施設を大幅に変更しており、また、当日は大雨や他団体との施設のバッティングで急遽の日程変更もあり、慌ただしい中でのグループワークとなり、落ち着きのない雰囲気を実施しているクラスもあった。

イ 『宇宙船での選択』

(ア) 実施日時

平成21年7月9日(木) 5限目 1年生 7学級 278人

平成22年6月15日(木) 5限目 1年生 8学級 317人

各学級の総合学習の時間を利用して実施

(イ) 実施場所

各HR教室

(ウ) ねらい

- ・グループ内で意志を決定する時の一つの方法を学ぶ。
- ・コンセンサスとは何かを知る。
- ・意見の違いをどのように調整し、結果として皆が満足できるような決定づくりをどのように図るかという方法を体験する。
- ・仲間づくりを進める。

(エ) 活動の内容

入学後、約2・3ヶ月が経過し、それぞれの学級内では生徒同士のグループが形成されていた。今回も前回の『匠の里』と同様に、担任がファシリテーターとして実施した。今回の生徒のグループ分けについては、学年としての統一をせず、各担任に一任する形で行った。担任によっては1回目の『匠の里』の時に気付いたことを考慮してグループ分けを工夫したり、普段の生徒のグループを意識しながら、新たな人間関係を構築できるような配慮を考えていたようであった。

- ① エクササイズのねらいを説明し、課題やルール、心得を説明する。
- ② 与えられた条件の中で、誰を排除するか個人の考えをまとめる。
- ③ 個人の決定を持ち寄り、グループの全員で合意して決定する。

- ④ メンバー全員が自分の思ったことや考えたことを振り返る「振り返り」を行う。
- ⑤ 各グループで「振り返り」を発表し合う「わかち合い」を行う。
- ⑥ グループごとに発表し、ファシリテーターがまとめる。

(オ) 参加者の様子

入学後、約2・3カ月が経過し、定期考査や体育大会を経験する中で、各学級にそれぞれの雰囲気ができ始めた頃での実施で、テーマが重苦しいものであるにもかかわらず、多くのグループで活発な議論が行われていた。担任の配慮で形成された、あまり人間関係をもたない生徒同士のグループでも、活発な意見交換をする姿が見て取れた。

① 生徒の感想

- ・多数決ではない方式で決めていくのは難しいと思った。
- ・一人一人違う意見で、(多数決と違って)その理由までお互いに考えながら答えを出していくことの大変さを感じた。
- ・みんなの考え方の違いはよく分かった。でもまとめられない。
- ・自分の意見をきちんとみんなが聞いてくれてうれしかった。
- ・あまりしゃべったことのない人の話が聞けてよかった。
- ・けっこう楽しかった。私だけがみんなと意見が違っていてびっくりした。

② 教師の感想

- ・男子と女子の間に感じられていた成熟度の差が一層はっきりしたように見える。
- ・女子の多くは、リーダーがいなくてもうまく人間関係を作っていくが、男子の中には母親の役をする女子とセットでないと他人との関係をもつことができない生徒が何人かいる。
- ・コミュニケーションの取り方を理解して行動する能力のある男子も見られた。
- ・グループワークの意義を含めた学習を試みようという気持ちが生まれた。
- ・生徒の行動は予想の範囲内だったが、相互理解の速度を上げる効果があるように思う。

(カ) 課題

① 平成21年度

4月に行った1回目の『匠の里』の反省から、ほとんどの担任がグループ分けに工夫を凝らしていた。単純な番号順のグループ分けでなく、担任の先生がファシリテーターとしての明確な意図を持ってグループ分けを工夫したことに大きな意味があったと考えている。特にこの7月という時期は、高等学校への入学後3ヶ月が経過しており、この間に2度の定期考査と学校行事としての体育大会が行われていた。こうしたことから、学級内での生徒たちの人間関係も一定の形が出来ており、そのグループを意識するのか、または無視するのかで、グループ分けが大きな意義をもってくる感じた。

② 平成22年度

年度の反省と4月に行った1回目の『匠の里』の反省を生かし、大きな問題もなく落ち着いた雰囲気で行うことができた。

(2) 校種間連携について

ア 本校の主な中高連携行事

(ア) 公開授業と懇談会

① 目的

- ・中学校の先生方を対象とした公開授業を実施し、本校の授業の現状を知っていただく。
- ・本校第1学年生徒と中学校の先生方との懇談会を実施し、生徒理解を深める。

- ・中学校の先生方との情報交換会を実施し、本校の学習指導や生徒指導の在り方について理解を深め、本校職員の力量向上の一助とする。

② 概要

- ・実施日は6月中旬の平日，午後1時50分から午後4時40分
- ・場所は会議室，1年生各教室，図書室
- ・対象は豊明・東郷，刈谷・知立，名古屋の各地区の中学校(22年度は10名参加)

〈日程と内容：平成22年6月15日(火)〉

時 間	内 容	場 所	備 考
13:30～13:50	中学校教員来校	会議室	受付
13:50～14:00	校長あいさつ	会議室	校長あいさつ，日程説明
14:00～14:20	学校紹介	会議室	生徒の学校生活について紹介 ・卒業生の進路（進路指導部）・部活動の様子(特活部)・学習指導(教務部)
14:30～15:20	公開授業と授業参観	各教室	3班に分かれて案内
15:20～15:40	休憩及び移動	各会場	懇談会会場への案内
15:40～16:05	中学校教員と生徒との懇談会	各会場	懇談会会場での点呼
16:10～16:35	情報交換	図書室	中学校教員と本校職員との情報交換 (懇談会情報，生徒情報，学習指導や生徒指導，進路状況など)
16:35～16:40	校長あいさつ，解散	図書室	

(イ) 学校説明会

① 目的

- ・中学3年生を対象（保護者・中学校教員も参加可）に本校の教育活動を知ってもらう。

② 概要

- ・実施日は8月上旬と10月下旬の二日間，午前もしくは午後の半日。
- ・場所は体育館をメインとした全ての施設。

〈日程と内容：平成22年度8月5日(木)〉

時 間	内 容	場 所	備 考
13:00～13:20	受付	体育館	中学校単位で受け付け
13:25～14:25	全体説明会	体育館	校長あいさつ，日程説明 生徒の学校生活について紹介 ・卒業生の進路（進路指導部）・部活動の様子(特活部)・学習指導(教務部)・学校生活(生徒指導部)
14:30～15:20	施設・部活動見学及び文化部体験入部(希望者のみ)	校内	施設・部活動見学は10班に分かれて案内 文化部体験入部は各部代表者が案内
15:20～	アンケート記入・解散	各控室	

(ウ) 中学校授業の参観

① 目的

中学校授業を参観することにより、教科指導や生徒理解の一助とする。

② 概要

- ・実施日は10月中旬の本校の考査期間を利用し参観する。〔平成22年度は10月7日(木)・8日(金)・12日(火)の三日間で実施〕
- ・参観中学校は豊明市の三中学校とする。
- ・各教科1～2名参加し、全体で3グループを編成し、各グループが一中学校で参観する。

(エ) 中学校の現状を知る学習会

① 目的

中学校の現状や問題点を知り、中学校との情報交換によって本校の教育活動の一助とする。

② 概要

- ・実施日は11月下旬の本校の考査期間を利用した現職研修とする。〔平成22年度は11月30日に実施予定〕
- ・豊明市の三中学校と刈谷・知立地区及び名古屋地区から一中学校をそれぞれ選択し、合計五中学校から輪番で講師を派遣していただく。

イ 中学校から高等学校にかけてのアンケート調査

(ア) 実施日

① 平成21年度

- ・E中学校 平成21年2月23日(月)・24日(火)
- ・本校 平成21年7月13日(月)

② 平成22年度

- ・E中学校 平成22年2月23日(火)・24日(水)
- ・本校 平成22年8月5日(木)

(イ) ねらい

本校がある豊明市内には、3校の公立中学校が存在する。そのうち、今回はE中学校から平成21年度に入学した14名、22年度に入学した20名の生徒が、中学校卒業前に残したアンケートと、本校入学後の1学期末に実施したアンケートの内容を比較しながら、適応度について考察する。

(ウ) 活動の内容と生徒の回答

① E中学校出身生徒の中学校卒業前におけるアンケート項目と回答

- | |
|---|
| A あなたが現在、来年度から通う高校での活動について、期待していることや楽しみにしていることを書いてください。 |
| B あなたが現在、来年度から通う高校での生活に対して、不安に思っていることがあったら書いてください。 |

○上記Aに対するE中学校生の回答

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・いろいろな人と友達になれること。(複数回答あり)・部活動の種類が多いこと。(複数回答あり)・文化祭や修学旅行などの学校行事が楽しみ。(複数回答あり)・新しい先生との出会い。・勉強を頑張りたい。(複数回答あり) |
|---|

○上記Bに対する生徒の回答

- ・勉強についていけるか。(複数回答あり)
- ・部活についていけるか。(複数回答あり)
- ・対人関係や新しい友達ができるかどうか。(複数回答あり)
- ・イジメや嫌がらせ。(複数回答あり)
- ・登下校の大変さ。(複数回答あり)

② E 中学校出身生徒の本校入学後の1学期末のアンケート項目と回答

- C 入学前に抱いていた期待や楽しみは、今現在どうなりましたか
- D 入学前に抱いていた不安は、今現在どうなりましたか

○上記Cに対する生徒の回答

- ・新しい友達がたくさんできた。(複数回答あり)
- ・授業は別に中学と変わらない感じがする。
- ・部活動や行事等で忙しいけど楽しい。
- ・体育大会は中学校の方が盛り上がり楽しかった。(複数回答あり)
- ・部活動も色々あり、自分に合った部活に入れて楽しい。(複数回答あり)

○上記Dに対する生徒の回答

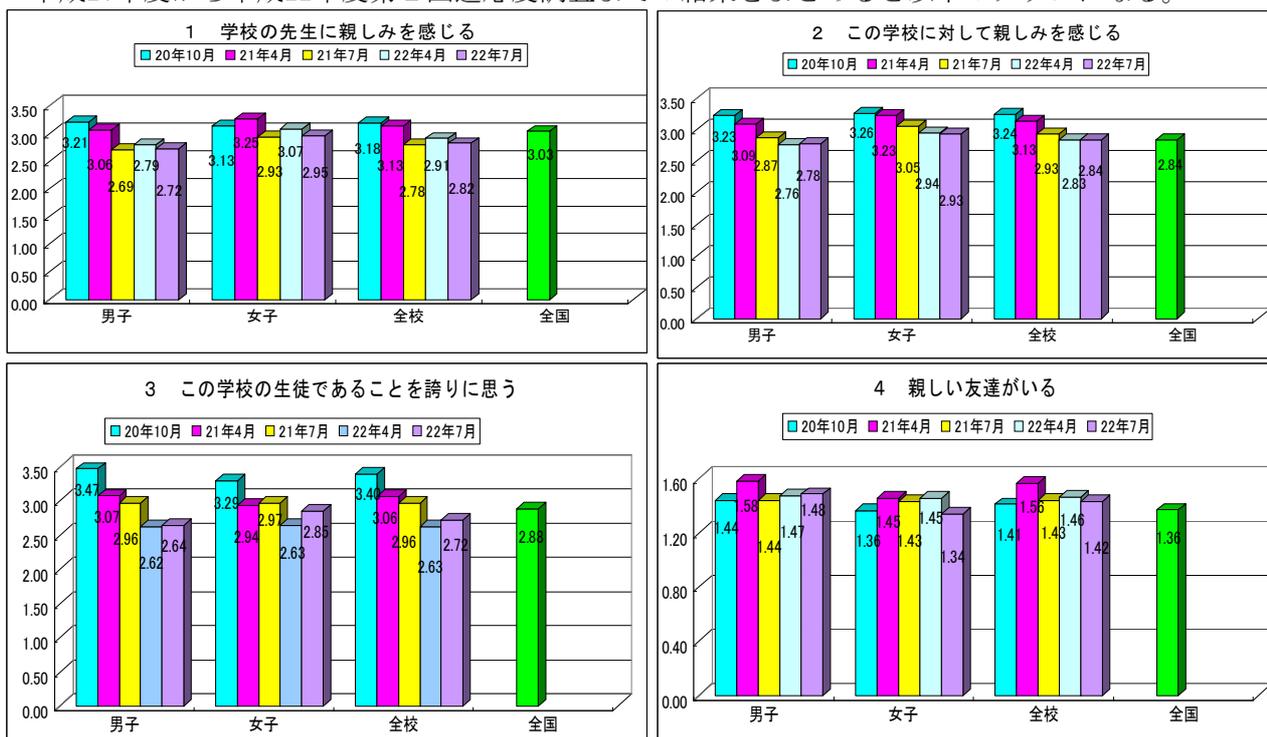
- ・友達はできたけど勉強はまだ不安だからこれから頑張る。(複数回答あり)
- ・学校にも慣れ、新しい友達もでき、不安はなくなった。
- ・先輩は思ったより優しくだったので、不安は小さくなった。(複数回答あり)
- ・現在もあまり解消されていない。
- ・勉強は難しく不安。(複数回答あり)

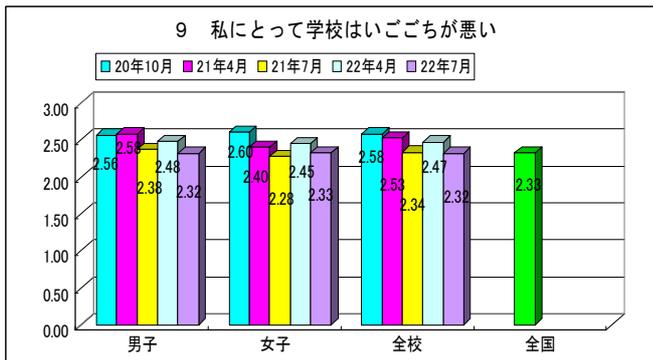
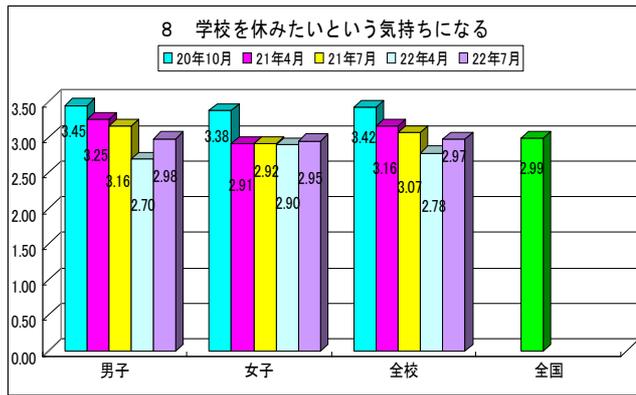
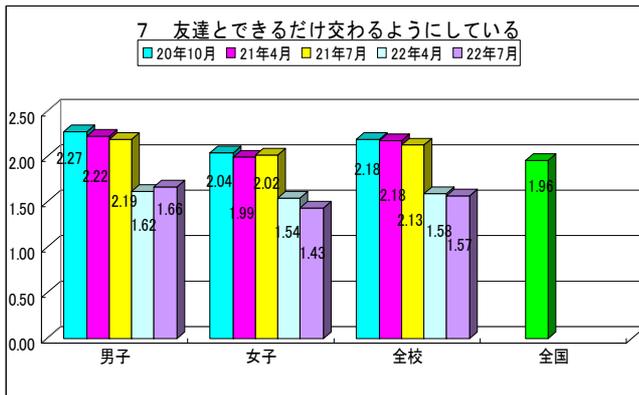
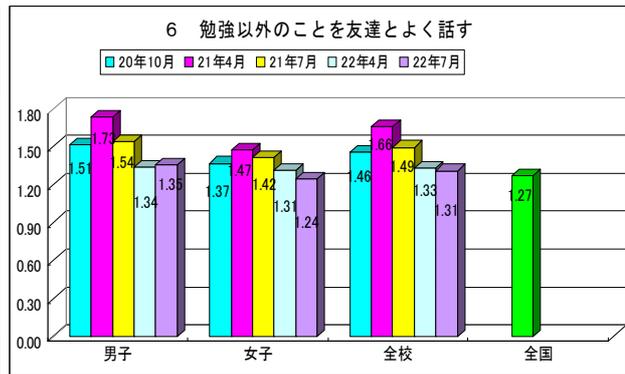
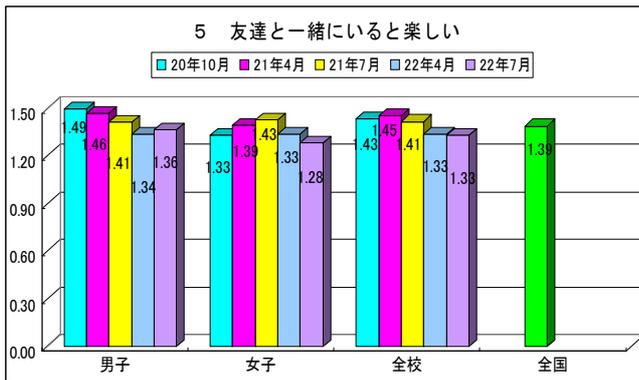
3 結果と考察

(1) 適応度調査結果

ア 適応度調査のまとめ

平成20年度から平成22年度第2回適応度調査までの結果をまとめると以下のグラフになる。





イ 考察

グラフ1・2・3・8・9は学校や先生に関するもので、グラフ4・5・6・7は友達に関するものである。学校や先生に関するグラフと友達に関するグラフのそれぞれの特徴を挙げると次のようである。

(ア) 学校や先生に関して

全てのグラフの学年平均は僅かではあるが、年々肯定度が高くなっている。これは、本校が遅刻者数の減少や身だしなみの改善など規律ある学校へと雰囲気が変わってきており、生徒側のこれに応えようとする姿勢の表れであると考えられる。次に、平成22年度入学生徒は半数以上のグラフで4月より7月の方が肯定度が僅かであるが低くなっている。これは、前述の学校の雰囲気から、4月は緊張感の表れで、7月になってその緊張が和らいだのではないかと考えられる。

(イ) 友達に関して

グラフ4を除いたグラフの学年平均は僅かであるが年々肯定度が高くなっている。これは、本研究でのグループワークの経験によって仲間との積極的な交流がなされるようになった表れであると考えられる。また、平成22年度入学男子は全てのグラフで4月より7月の肯定度が僅かであるが低くなっている。これは、自転車への軽微なイタズラが1学期中断続的に続いたことによる影響と、4月に肯

定感が高かったため、その反動が表れていると考えられる。なお、グラフ4は平成20年度の10月の結果が非常に肯定度が高くなっている。これは、平成21・22年度のアンケートは7月上旬実施であるのに対し、平成20年度のアンケートは10月実施であったため、本校のメイン行事である6月の体育大会と9月の文化祭を経験する中でクラスメイトとのかかわりがより強くなった結果と考えられる。

(2) 校種間連携結果

ア アンケートからの適応度

平成21・22年度本校入学のE中学校出身生徒の中学校卒業前におけるアンケート及び本校入学後の1学期末のアンケートから入学前の期待や楽しみがどのように変化したか、入学前の不安がどのように変化したかをまとめると以下の表ようになる。

(ア) 期待と楽しみの変化（入学前と1学期末との比較）

中学校卒業前のアンケート				本校入学後1学期末のアンケート												
期待していることや楽しみにしていること				①期待通り 楽しみの継続			②期待度や 楽しみの減少			①②どちらとも 言えない			回答なし			
	年度	21	22	計	21	22	計	21	22	計	21	22	計	21	22	計
部活動		12	12	24	67%	50%	58%	25%	25%	25%	8%	25%	17%	0%	0%	0%
学校行事		7	15	22	71%	33%	45%	14%	53%	41%	0%	13%	9%	14%	0%	5%
友達		7	9	16	71%	78%	75%	14%	0%	6%	0%	22%	13%	14%	0%	6%
学校生活全般		5	3	8	80%	67%	75%	0%	0%	0%	20%	33%	25%	0%	0%	0%
勉強や授業		3	1	4	0%	0%	0%	67%	0%	50%	0%	100%	25%	33%	0%	25%
その他		2	4	6	0%	25%	17%	0%	25%	17%	0%	50%	33%	100%	0%	33%

※平成21年度の入学生は14名、平成22年度入学生は20名で複数回答可

※その他は部活動と勉強の両立・先生との出会い・生徒会活動・制服が変わるなど

(イ) 不安感の変化（入学前と1学期末との比較）

中学校卒業前のアンケート				本校入学後1学期末のアンケート												
不安に思っていること				解消			小さくなった			変わらない			回答なし			
	年度	21	22	計	21	22	計	21	22	計	21	22	計	21	22	計
勉強(授業・テスト)		12	15	27	25%	13%	19%	17%	13%	15%	58%	73%	67%	0%	0%	0%
学校生活全般		8	3	11	75%	66%	73%	0%	33%	9%	25%	0%	18%	0%	0%	0%
友達		5	5	10	80%	80%	80%	0%	0%	0%	0%	20%	10%	20%	0%	10%
人間関係(先輩・イジメ等)		5	5	10	40%	40%	40%	0%	20%	10%	60%	40%	50%	0%	0%	0%
通学		2	1	3	100%	0%	67%	0%	100%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
部活動		1	3	4	0%	33%	25%	0%	0%	0%	100%	67%	75%	0%	0%	0%
その他		2	3	5	100%	33%	60%	0%	33%	20%	0%	33%	20%	0%	0%	0%

※平成21年度の入学生は14名、平成22年度入学生は20名で複数回答可

※その他は部活動と勉強の両立・担任はしっかりしているか・修学旅行先・弁当作りなど

イ 抽出生徒の変容

平成21・22年度本校入学当初、それぞれの担任会で、A中学校出身生徒で集団の中にもうまく溶け込めそうでないような雰囲気のある生徒が居れば様子を見ていこうと決め、平成21年度は3名（A・B・C）、22年度は2名（D・E）の抽出生徒の入学後の変容を担任の所見や校種間連携のアンケートからまとめたものが以下の表である。

生徒A

- 1 入学当初の様子
クラスになじめず、教室内では一人であることが多かった。その反面、教師に対してはとてもひとなつこく接していた。
- 2 校種間連携アンケート本人記述
 - ア 中学卒業前の不安に関して
 - ・普通に生活できるかどうか。・友達ができるかどうか。・クラスの人と仲良くできるかどうか。・イジメとか大丈夫なんかなあとか。・担任はしっかりしているかなあとか。
 - イ 1学期末時点での不安に関して
 - ・新しい友達はたくさんできました。・まあおおめにみてもいいかなあってところです。・クラスは今よかましってぐらいですかね。悪くないです。・担任の先生はよかったですね。安心です。・イジメがまだどうなるかわかりませんが、そのうちないとも言えません。どうなるかねって感じです。
- 3 2学期末の様子
クラスの中に同じ趣味をもつ生徒を発見して教室内で1人であることは減少している。
- 4 変化のきっかけ
2学期初めに転部し、打ち解けられる仲間が多く見つかった。

生徒B

- 1 入学当初の様子
積極的に人とかかわろうとせず、クラスにうまくなじめなかった。それが不安となり、宿泊研修に参加できなかった。
- 2 校種間連携アンケート本人記述
 - ア 中学卒業前の不安に関して
 - ・第一希望校の勉強についていけるか。・学校生活
 - イ 1学期末時点での不安に関して
 - ・解消
- 3 2学期末の様子
将来の進路や学力についての不安を抱え、学校を休みがちになった。そして、その欠席が更に登校への気持ちを妨げることとなった。
- 4 変化のきっかけ
一度欠席をしてしまったことが、本人の中で負い目となり、学校に足が向かなくなってしまうと考えられる。また、欠席が増えていくことで、学業に取り残されていくという不安も大きくなっていったことだろう。
- 5 学校の支援
11月ころより不登校傾向に入る。中学校と連絡を取ったり、家庭訪問を何度か行った。

生徒C

- 1 入学当初の様子
マイペースな性格のため、集団で行動すると時間が守れず遅刻することが多かった。性格が理解されず、イタズラを受けることがあった。
- 2 校種間連携アンケート本人記述
 - ア 中学卒業前の不安に関して
 - ・勉強。・部活動。・友達。・3年間、通い続けられるか (いろいろな意味で)。
 - イ 1学期末時点での不安に関して
 - ・不安でもあるし、難しい。
- 3 2学期末の様子
学校に慣れるのに時間がかかったが、教員の支援もあり、大きな問題もなく生活している。
- 4 変化のきっかけ
クラス全体がグループワークや学校行事などを通じて、本人の性格や行動を理解できるようになった。このことにより、本人も少しずつ心を開いて行動するようになっていった。
- 5 学校の支援
体育の水泳授業でのイタズラ被害から、数件のイタズラの被害が発覚。中学校と連絡を取ったり、加害生徒への指導を行った。

生徒D

1 入学当初の様子

非常に真面目で、集団の行動においては皆に合わせることができず、人前で話すことも苦手で1人であることが多かった。

2 校種間連携アンケート本人記述

ア 中学卒業前の不安に関して

- ・先輩にからまれること。・3年間通い切れるか。

イ 1学期末時点での不安に関して

- ・優しい先輩ばかりで、不安は完全に消えました。ヤンキーのような人がいると思っていましたが、ヤンキーはいませんでした。・3年間通い切れると思います。この高校に入学して本当によかったです。

3 1学期末の様子

真面目さがクラスの中で理解され、皆に信頼されている。友達もいて有意義な学校生活を送っている。

4 変化のきっかけ

宿泊研修、グループワーク、体育大会などの活動で他の生徒と話したり、一緒に行動したりすることで皆と打ち解けていった。

生徒E

1 入学当初の様子

中学校時代親しかった友人とクラスが別になり、同じ中学出身者と一緒に行動するもなじみず、「学校に行きたくない」と訴えた。入学2週間目に欠席、その日の夕刻に母親とともに「やめたい」と相談に来校。

2 校種間連携アンケート本人記述

ア 中学卒業前の不安に関して

- ・なし

イ 1学期末時点での不安に関して

- ・今は勉強についていけるか心配です。

3 1学期末の様子

欠席は2日のみで落ち着いて生活している。部活には参加していないが、行事の委員としての仕事などは真面目に取り組んでいる。友人関係も少しずつ広がりを見せている。

4 変化のきっかけ

母親と来校した折に1時間ほど自分の気持ちを表に出したことで、1人で無理に頑張ってきた姿勢が緩んだ。宿泊研修時に他にも悩んでいる生徒がいることに気付き、順応していこうとする気持ちが芽生えた。出身中学校の先生に会いに行き励まされた。

ウ 考察

(ア) アンケートから読み取れる適応度

期待や楽しみの変化については、本校入学の際、多くの生徒が部活動・学校行事・友達づくりに期待や楽しみを抱いていることが分かる。そのうち、新しい友達との出会いや友達づくりには満足している生徒が多いが、学校行事については意見が大きく分かれた。『②期待度や楽しみの減少』と感じた生徒は主に22年度入学女子生徒が多く、中学校時の体育大会と比較して、「本校の体育大会の準備期間が短く、盛り上がり欠ける」との感想が挙がっていた。部活動は『②期待度や楽しみの減少』『①②どちらも言えない』と感じた生徒も、意欲的な活動の中で少しの不満や不安が同居しているようである。

不安の変化については、不安に思っていることの一つは勉強に関することで、他の項目と大きな差がある。入学後の変化についても「変わらない」と回答した生徒が非常に多かった。これは、普通科進学校である本校の学習に関する指導姿勢についての情報やイメージと、生徒たちのこれまでの学習習慣との差によるものであり、また、一部の例外はあるものの、授業や学習に対して真面目に向き合おうとする意識からのものであると思われる。2番目に多かったのが学校生活全般に関することで、「3年間続けられるか」、「学校できちんとやれるか」、「学校にとけこめるか」などである。この項目につ

いては多くの生徒が入学後解消したと回答している。3番目に多かったのが、友達と人間関係である。まず、友達については入学後解消した生徒がほとんどであるが、人間関係については「解消」や「小さくなった」と回答した生徒と「変わらない」と回答した生徒が同数であった。イジメや先輩との関係に不安をもち続けている生徒がいることが分かった。

これまでも本校は、新入生オリエンテーションの総まとめという意味と、高校に入学して新しい環境での人間関係構築を大きな目標として宿泊研修を設定し実施してきた。この宿泊研修での諸活動に本研究のグループワークの論理的手法が加わり、より一層人間関係づくりが充実してきたと感じる。

(イ) 抽出生徒の変容

教員の観察眼はなかなか鋭い。入学当初の様子から不安定要素のある生徒をよく見ていると感じた。平成21年度抽出生徒3名『生徒A・B・C』、22年度抽出生徒2名『生徒D・E』の計5名のうち2名の生徒の変容記録から、担任がグループワークでの体験が本人やクラスの仲間に良い影響を与えたことが記載されており、グループワークによって人間関係構築に効果があることが分かった。

また、抽出生徒5名のうち、不登校傾向に陥り学校（主に担任や学年主任）からの支援を受けた『生徒B』の校種間連携アンケートの本人の記述に注目してみると、中学校卒業前では「第一希望校の勉強に…」、1学期末時点では「解消」と記述しており、「第一希望校への思い」が強くうかがえ、「解消」と強がっているように受け取れる。不登校になることはなかったが学校から支援を受けた『生徒C』は中学校卒業前では「・勉強・部活…」と多くの不安を挙げてはいるが1学期末時点では「不安でもあるし、難しい」と素直に自分の気持ちを記述している。また、「やめたい」と相談に来校した『生徒E』は中学校卒業前では「なし」であるが1学期末時点では「今は勉強についていけるか心配です」とこれも素直に自分の気持ちを記述している。他の2名の記述も中学卒業前・1学期末時点とも素直な気持ちをしっかりと記述している。観察と記録、生徒の変化を見守るには非常に重要なキーワードである。そして、これに生徒の記述からの読み取りが加われば、生徒の心の変化を早い段階で理解することができると思われる。

4 今後の課題

本研究で一番難しく感じたのは、多くの教員の協力を得て研究を進めることであった。グループワークの実践やアンケートの実施、抽出生徒の観察など平成21・22年度の各1年学年会、総数32名の教員の協力である。本校ではこれまでも、『新入生オリエンテーションの総まとめ』と『新しい環境での人間関係構築』を大きな目標として宿泊研修を設定し実施してきたが、平成22年度からは日程が短縮され1泊2日となっており、二つの目標を達成することが難しくなった。グループワークは人間関係構築に効果のある手法であることを本研究で協力した教員は周知しているので、宿泊研修の主な目標を後者に置き、是非、これを継続していきたい。また、より効果が上がるようファシリテーターの育成に力を注ぎ、LTでの展開も年間計画として学年の中で取り入れていきたい。

参考文献

『Creative School』

(プレスタイム社)

『新グループワーク・トレーニング』

(遊戯社)

校種間連携の記録 1

生徒の不安はどうなったのか（中学校→高等学校）

平成21年度

	入学前の気持ち (不安に思っていること)	1学期末時点での気持ち (入学前の不安はどうなったか)
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> ・第一希望校の勉強についていけるか。 ・学校生活。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解消。
生徒B	<ul style="list-style-type: none"> ・普通に生活できるかどうか。 ・友達できるかどうか。 ・クラスの人と仲良くできるかどうか。 ・イジメとか大丈夫なんかなあとか。 ・担任はしっかりしているかなあとか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達はたくさんできたし、まあ大目に見てもいいかなあってところです。 ・クラスはうんまあ今よかましてぐらいですね。悪くはないです。 ・担任の先生は良かったですね。安心です。 ・イジメはまだどうなるかわかりませんが、そのうち無いともいえません。どうなるかって感じです。
生徒C	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強の進むスピード。 ・雨の日も自転車通学しなくてはいけない。 ・対人関係。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いまのところ大丈夫。
生徒D	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
生徒E	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強が難しいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そんなに変わらない。
生徒F	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強。 ・部活動。 ・テスト。 ・友達。 ・3年間通い続けられるか(いろいろな意味で)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安でもあるし難しい。
生徒G	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強が難しそう、勉強が苦手であまりよくかどうか。 ・新しい友達ができるかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくいっている教科もあるが、赤点になりそうながあるので、まだ少し不安。
生徒H	<ul style="list-style-type: none"> ・授業についていけるか。 ・上手くいくかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強の方はかろうじてついていけるが、中学校と比べペースが速く不安はあまりぬぐえない。その他はとりあえず上手くいっている。
生徒I	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強についていけるか。 ・新しい友達ができるか。 ・行事は楽しいのか。 ・学校にとけこめるか。 ・修学旅行先。 ・通学の大変さ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校にも慣れ、新しい友達もたくさんできて、不安はなくなった。

	入学前の気持ち (不安に思っていること)	1学期末時点での気持ち (入学前の不安はどうなったか)
生徒J	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強。 ・部活。 ・先輩。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強は予習復習が大変だし、難しさも段違いで、不安が消えない。 ・部活は大変だし、辛いことが多くて、まだ慣れていない。 ・先輩は思っていたより優しくかったので、不安は最初より小さくなった。
生徒K	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩にからまれること。 ・3年間通いきれるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優しい先輩ばかりで、不安は完全に消えました。ヤンキーのような人がいると思っていましたが、ヤンキーはいませんでした。いい人ばかりでした。3年間通いきれると思います。この高校に入学して本当によかったです。
生徒L	<ul style="list-style-type: none"> ・学校できちんとやっていけるかな。 ・勉強や部活にきちんとついて行けるかな。 ・自分の目標に向かってやって行けるかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あんまりきちんとやれてないかんじがする。ダラけてる。 ・目標もあまりもてないし、全然いそがしすぎる。
生徒M	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強について。 ・友達ができるかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強は全然できていません。 ・友達はまあまあできた。 ・勉強以外の不安はなくなった。
生徒N	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に来る人たちが良い人であるかどうか。 ・苦手教科も難しくなること 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い人はあまりいない。変な人ばかりだった。 ・苦手教科はなんとかなった。
生徒O	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強についていけるか不安。 ・校則に耐えられるか不安。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強は意外と難しくて、これから不安。 ・校則は厳しいが学校のルールなので仕方がないと思う。
生徒P	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強と部活動の両立。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安がないと言えようそになりますが、前に比べると不安はなくなりました。
生徒Q	<ul style="list-style-type: none"> ・なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なし。
生徒R	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人がいじめとかをしないか。 ・勉強するのに授業について行けるか。 ・友達ができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめはない。 ・友達はできた。 ・授業は頑張ってついていくようにしている。
生徒S	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強についていけるか。 ・友達はたくさんできるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達はできたけど勉強はまだ不安だからこれから頑張る。
生徒T	<ul style="list-style-type: none"> ・なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今は勉強がついていけるか心配です。
生徒U	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校での勉強は難しいので、遅れないように頑張りたい。

校種間連携の記録 2

生徒の期待や楽しみはどうなったのか（中学校→高等学校）

平成21年度

	入学前の気持ち (期待していることや楽しみにいること)	1学期末時点での気持ち (入学前の期待や楽しみはどうなったか)
生徒 a	・部活。	・順調。
生徒 b	・普通に生活できればいいです。 ・友達たくさん作りたいです。 ・部活を頑張りたいです。 ・勉強をものすごく頑張りたい。	・新しい友達はたくさんできたし、まあ大目に見てもいいかなあってところです。 ・部活は同情で入って失敗しました。頑張りすぎてもう嫌。変える。
生徒 c	・中学より校則がユルくなる。 ・学校行事。 ・新しい友達。 ・楽しい高校生活。	・かなっている。
生徒 d	・部活と勉強の両立。 ・部活。 ・学校行事。	・一番楽しい時間。
生徒 e	・部活が楽しみ。 ・高校生活全部が楽しみ。	・まあいい感じに楽しい。
生徒 f	・勉強と部活動。 ・テスト。 ・友達。 ・行事(文化祭、修学旅行)。	・不安でもあるし難しい。
生徒 g	・色々な人と友達になれること。 ・部活動の種類が多いこと。 ・行事。	・新しい友達もできて、毎日が充実している。
生徒 h	・部活動。 ・学校行事。	・部活動では、中学より出来るスペースが限られていて若干の不満を感じる。 ・学校行事は個性的なものが多くとても楽しい。
生徒 i	・新しい友達。 ・部活動。	・友達がたくさんでき、部活動も中学より充実している。
生徒 j	・新しい友達や先生に出会うことが楽しみです。 ・部活動、学校行事の盛り上がり等に期待しています。	・忙しいけど楽しい。
生徒 k	・中学とはちがう学校生活。	・行事が楽しかった（遠足など）。
生徒 l	・部活。	・充実している。

	入学前の気持ち (期待していることや楽しみにしていること)	1学期末時点での気持ち (入学前の期待や楽しみは怎么样了か)
生徒 m	<ul style="list-style-type: none"> ・行事。 ・部活。 ・クラスメートとの付き合い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事は皆で協力して行えば、楽しくやれることが分かってよかった。期待通り。 ・部活は辛いけど、楽しくやれるしよかった。期待もあったが不安も生まれた。 ・クラスメートの付き合いも、楽しい人も多く楽しめたが不安なものもあった。期待どおりだった。
生徒 n	<ul style="list-style-type: none"> ・入りたい部活に入ること。 ・新しい友達を作ること。 ・高校の文化祭。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望した部活に入ることができ、部員として活動しています。気の合う人がたくさんいて、中学時代5人しかいなかった友達が20人くらいになりました。 ・文化祭は全員参加で自分の役割があることがうれしい。
生徒 o	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動。 ・新しい友達。 ・学校生活。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動はもっと多人数でできると思っていたが、期待より少人数で残念だった。自分なりに頑張ればいいと改めて思った。 ・入学してすぐにたくさんの友達ができて楽しく過ごしています。 ・学校生活でもっと行事が盛んで楽しいと思っていたが期待はずれだった。
生徒 p	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動。 ・行事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ同じです。両方とも積極的に取り組んでいます。
生徒 q	<ul style="list-style-type: none"> ・友達作り。 ・中学校とは違う行事など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん友達ができてうれしい。 ・今、体育大会が終わったけど、中学より盛り上がらない、中学の方が楽しかった。
生徒 r	<ul style="list-style-type: none"> ・行事はどれくらい盛り上がるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事は中学のが楽しくて盛り上がった。
生徒 s	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と修学旅行に行くこと。 ・勉強と部活動の両立。 ・文化祭、体育大会など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活をやっていると、つい疲れて寝てしまうことがあったり、まだ、うまく両立できていないので頑張りたい。 ・中学校の時の体育大会より盛り上がりは少なくて、なんかあっけなく終わって行った。
生徒 t	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はとくに部活に対しての期待や楽しみはありません。
生徒 u	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい仲間。 ・部活。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活についての楽しみはありません。 ・女子が少ないので、新しい仲間はできました。

【実践報告 8】

—キャリア教育の一環としての実践を通して—

1 対象集団の状況

本校は、普通科と商業科・生活文化科を併設する全日制高校である。渥美半島に位置し、藩校として創設以来、今年度で200年目を迎える。「文武両道」の伝統を受け継ぎ、地域からの信頼が厚く、地元の中学校から本校に入学を希望する生徒は多い。特に普通科は地域の進学校であり、優秀な成績の生徒が入学してくる。商業科・生活文化科を志望する生徒はおおむね次の3種類の理由が当てはまる。(1)普通科に入学するには学力に不安があるが、どうしても本校に入学したい。(2)部活動に熱心に取り組みたい。(3)卒業後の目標が明確で、専門学科で学ぶ内容が希望する進路につながっている。

生徒の多くは、素直でまじめな努力家で、学習活動・部活動・学校行事いづれにも一生懸命取り組んでいる。しかし、積極性に乏しく、声をかけてもらうのを待っている生徒も目に付く。ほぼ8割の生徒が田原市内から通学しており、「中学校の時から顔を知っている」生徒が多い中、入学当初少数の生徒は「周囲が親しそうに話しているのを横目に見て」、孤立感と不安感を募らせている。

本校では、4月第2週に全校で面接週間を設定している。入学後1週間内に担任と個別に面談する機会となる。この面接で、地元ではない生徒の口から「同じ中学の人がいないので、話す人がいない」「周りの人たちは知り合いらしく仲良く話しているが、自分は話しかけづらい」という言葉が度々漏れる。

また、平成22年度より普通科が1クラス増となり、ますます新入生の学校環境への適応を図る必要度が増した。

2 実践内容

「小1プロブレム」「中1ギャップ」「高1の不適応」という言葉が広まりつつある。これは学習面・生活面だけではなく、人間関係においても言えるであろう。小・中学校において人的交流があまりない集団で過ごしてきた生徒たちは、高校に入学して初めて多様で活発な交流を要求され、体験する。また数年来の不況下で、学卒者の就職状況が一変した。成績や出欠状況だけでなく、職場や社会での人間関係を積極的に構築できる人材が求められている。

そこで、グループ・アプローチを利用し、人間関係における「高1の不適応」の解消だけにとどまらず、「生きる力」の一つとして、豊かな人間関係を構築する力を育成したい。本校では、「キャリア教育」を「総合的な学習の時間」の中心に位置付け、第1学年では、「自己を見つめる」をテーマの一つに据えた活動内容を展開している。他者とのかかわりを通して自らの「在り方・生き方」を考えるキャリア教育の一環として、グループ・アプローチを活用したい。

(1) 対象

ア 平成21年度 1年280名（普通科5クラス200名、商業科1クラス40名、生活文化科1クラス40名）

イ 平成22年度 1年321名（普通科6クラス241名、商業科1クラス40名、生活文化科1クラス40名）、2年200名（普通科5クラス）

(2) 時期・内容

4月当初はまだお互いをよく知らず、集団を作り始める時期である。そこで、共通の話題がもて、短時間で協力できる問題解決型のグループワークが適しているのではないかと考えた。

6月初めに実施する1年生の遠足は、班別で田原市内のオリエンテーリングを行う。2回目は遠足と関連づけて、お互いの理解を深めたり、自分の役割を見つめたりしながらコンセンサス（全体の合意）を図るグループワークを取り入れた。

ア 平成21年度

(ア) 4月第3週 問題解決型グループワーク「匠の里」

(イ) 6月第2週 合意形成型グループワーク「好きなプロスポーツは？」

イ 平成22年度

(ア) 4月第2週 問題解決型グループワーク「匠の里」（1年生）、「続・なぞの宝島」（2年生）

(イ) 5月第4週 合意形成型グループワーク「サバイバル」

【20年度の実践】

ア 代表委員による公開授業

グループ・アプローチを正しく理解している代表委員が公開授業を行い、「グループ・アプローチとはどのようなものか」を見学してもらった。

イ 現職研修による全職員の体験

2月に現職研修を実施し、グループ・アプローチ「匠の里」を体験してもらった。参加した教員の96%が「満足」「ほぼ満足」し、その際の感想は、「楽しかった」「別のグループワークも体験したい」といった肯定的なものがほとんどであった。

【21年度の実践】

ア 問題解決型グループワーク「匠の里」

(ア) ねらい

- ・互いに協力する体験を通して、対人交流を促す。
- ・グループで活動しているときの自分の動き（聴くこと・話すこと）に目を向ける。

(イ) 活動の形態

各クラス単独で教室にて実施。

担任の方がより生徒の実情に迫ることができると考え、実施経験のある代表委員が補佐し、各クラス担任にファシリテーターをお願いした。これにより、グループ・アプローチを実施できる教員の育成も図ることができる。学年主任がグループ・アプローチを肯定的にとらえ、代表委員・教育相談部と学年団が連携をとったことで、より効果的な実施ができたと考えている。

- ・担任が単独で実施（1クラス）
- ・担任がファシリテーターとなり相談部が補佐について実施（1クラス）
- ・相談部がファシリテーターとなり担任が参観（3クラス） ・相談部で実施（2クラス）

(ウ) 活動の内容

- ① エクササイズのねらいを示し、課題の内容やルールを説明する。
- ② グループの各メンバーに3～4枚ずつ情報カードを配布する。
- ③ カードに書かれている「匠の里」に関する断片的な情報を口頭で伝え合う。
- ④ 情報交換しながら「匠の里」の地図を作り、問題を解決する。
- ⑤ 各人で自分が思ったこと、考えたことを言語化する「ふりかえり」を行う。
- ⑥ 各グループ内で「ふりかえり」を発表し合う「わかちあい」を行う。
- ⑦ グループごとにわかちあった内容を発表し、ファシリテーターがまとめる。

(エ) 参加者の様子

入学直後ということで、名簿番号順でグループを作った。これは、1カ月間名簿順で座席を指定していること、清掃活動は年間を通じて名簿順で作った班で行うことを考慮したからである。ゲーム感覚で行えることもあり、問題解決自体はほとんどの生徒が楽しんで活動していた。しかし、全体の活動を見てみると、既に親しい生徒同士のいる班は冒頭から活発に活動していたが、まだ声を掛け合えない班も見られた。完成した後、話題が見つからずに黙ってしまった班も見られた。

■生徒の振り返り

- ・人の話を聞くことは大切だと思った。
- ・自分の意見が言えない人もいる。その時は言える人が聞いてあげることが大切だと思う。
- ・みんな仲良くできた。 ・話したことがない人と話せた。 ・いろんな考えがある。

■担任から見た、グループワーク実践後の生徒の変化

- ・孤立する生徒が出現しなかった。
- ・話したことのないクラスメイトとなじめるようになった。 ・仲間意識をもてるようになった。
- ・エクササイズ後、早速携帯のアドレス交換をしていた。 ・少しずつクラスがまとまってきた。
- ・クラスになじめない生徒も友人を見つけて共にいる光景が見られるようになった。
- ・交流するきっかけになったが、これがこれから先の友人関係を直接結びつけるかは不明。

(オ) 課題

ゲーム性が強いので、ゲームに正解することに夢中になってしまい、プロセスまで目が向かない生徒がいた。グループ・アプローチの有意性を十分理解してもらえなかったり、グループ・アプローチは難しいという印象を抱いたりして、ファシリテーターになることに積極的でない教員もいる。授業時間を譲っていただいて実施したので、時間割の変更が難しく、担任が参加できないクラスもあった。

イ 合意形成型グループワーク「好きなプロスポーツは？」

(ア) ねらい

- ・グループとしての決定を行う際に、グループ・プロセス（各メンバーの感情やグループの動き）に目を向ける。

(イ) 活動の形態

各クラス単独で教室にて実施。

- ・担任が単独で実施（2クラス） ・担任がファシリテーターとなり相談部が補佐（5クラス）

(ウ) 活動の内容

- ① エクササイズのねらいを示し、課題やルールを説明する。
- ② スポーツに関する意識調査において、人気があった順番に、大相撲、プロ野球、プロサッカー、プロゴルフの4競技の順位について、まず個人で決定する。
- ③ 次に個人の決定を持ち寄り、グループの全員で合意し決定する。
- ④ 各人で自分が思ったこと、考えたことを言語化する「ふりかえり」を行う。
- ⑤ 各グループ内で「ふりかえり」を発表し合う「わかちあい」を行う。
- ⑥ グループごとに分かち合ったことを発表し、ファシリテーターがまとめる。

(エ) 参加者の様子

遠足と前後して実施したため、グループを遠足の班に設定した。遠足前に実施したクラスでは、遠足が円滑に進んだ一助になったと聞いている。遠足後に実施したクラスでは、このグループワークの実践当初からどの班も和気あいあいとしていた。

■生徒の振り返り

- ・いろいろな意見が出る。
- ・自分が思っていたよりみんなの意見が違っていて、話し合いは重要だと思った。
- ・人の意見をしっかり聞いた。
- ・少数意見の理由を取り入れていくことがとても大事だと気付いた。
- ・いろいろな価値観があった。
- ・話し合うと共感できることがたくさんあった。
- ・話し合っただけでは、答えが違っていても、納得いくことが分かった。
- ・遠足が楽しみ。
- ・自分から言わなきゃだめだ。

■教員の感想

- ・話し合うことの大切さや、他人の考えを聞くことの大切さを知るよい機会になったと思う。
- ・多様な意見を聞けるようになった。

(オ) 課題

個人の意見が一致してしまうと話し合いに至らないグループがあった。遠足班で実施したので1グループ8人であった。これはコンセンサスを得るための話し合いにはやや多い人数であり、話し合いに参加しない生徒、できない生徒がいた。

遠足の前に実施すれば、班の生徒同士で話し合う機会がもて、人間関係を深めるという点で、より効果があったのではないか。

ウ 現職教育

21年度も、教育相談部と連携し、グループ・アプローチを研修のテーマとして2月に実施した。前年と異なる点として、本校代表委員がファシリテーター（実施者）を務め、総合教育センターの指導主事に参観・指導していただく形式を採用した。これは、「経験の浅い教員でもグループ・アプローチを実施できる」ことを理解してもらい、翌年度の副担任による実施につなげるねらいがある。

この際、従来の指導案を提示するのではなく、着眼点や注意点なども併記した「シナリオ」を使用した。「シナリオ」を読み上げれば、誰でも一定以上の水準を保ったグループ・アプローチを実施できると考え、次年度に向けて作成を行った。

【22年度の実践】

前年度実践後の課題を検討し、次の5点の変更を加えた。

(1) 「総合的な学習の時間」の一環とする（資料1）

第1学年では「自己を見つめる」をテーマの一つに据え、キャリア教育の一環として、自己理解の深化を図る活動内容を展開している。そこで、総合学習の年間指導計画を策定の際、本研究を4月の取組の一つとして明確に位置付け、その具体的内容を、「グループの共同作業を通じて、自己理解と他者理解を図る」とした。そのため、入学式直後の早い時期（4月9日）にグループワークの時間を確保し、全クラス一斉に実施することができた。

(2) 学年団による実施

副担任が実施して、担任には観察に専念してもらおう体制を作った。担任が観察に専念することで、リーダーとなる生徒や配慮を要する生徒を早期に発見できるし、副担任もクラス運営に積極的にかかわっていくことができる。また、グループ・アプローチを実施できる教員を育成する機会を増やす事にもつながる。

(3) 2年生の継続実施

20年度、本校では2年生になり不登校になる生徒が現れた。また、修学旅行を5月に控え、新しい人間関係の構築は2年生にとっても重要な問題である。そこで、研究を超えてはいるが、クラス替えのある普通科2年生は再びグループ・アプローチを実施した。

(4) 生徒の実情に沿った内容の変更

21年度の合意形成型グループワーク「好きなプロスポーツは？」は、本校の生徒には易しく、時間に余裕が見られた。そこで、やや難度の高い「サバイバル」を選択した。そのねらいも、「意思決定時の一つの方法としてコンセンサス（全員の合意）を学ぶ」ことを第一とした。

2年生には「匠の里」と同様の問題解決型グループワークで、より難度の高い「続・なぞの宝島」を採用した。この実践の振り返りは、「リーダーを発見する・プロセス（人的交流の結果）だけでなくグループ内での自分の役割を発見する・グループのメンバーの良いところを発見する」という項目があり、一層深い振り返りができると考えた。

(5) シナリオの採用

新転任などで研修を受けていない教員がいることを想定し、どの実践も前年度の研修で使用した「シナリオ」を採用した。

ア 問題解決型グループワーク「匠の里」

ねらい及び活動の内容は前年どおりである。

(ア) 活動の形態

各クラス単独で教室にて実施。

- ・副担任がファシリテーターとなり担任が参観（3クラス）
- ・副担任が単独で実施（3クラス） ・担任が単独で実施（2クラス）

(イ) 参加者の様子

無理のない分わかりやすいレベルのグループワークであるので、生徒全体が積極的に臨み、みんなで取り組もうという姿勢が見られた。なかなかなじめないと思われる生徒も、後半以降積極的に参加していた。しかし、わずかではあるが、自分から伝えようという意識をもてず、教師が近づくと動く生徒も見られた。



【配られた情報カードを見る】



【グループでの話し合い】

実践後の感想や変化に昨年度と大きな違いは見られなかったが、目に付いたものは以下のとおりである。

■生徒の振り返り

- ・高校生になると、みんなコミュニケーションの取り方が上手だと思った。
- ・入学して初めていろんなことを話すことができていい実習だった。
- ・普段しゃべったことのない人と交流し触れ合ったことで、温度差が少し縮まった。
- ・一人では分わからないことも、お互いに意見を出し合うことで大きく気付きが広がると感じた。
- ・強制的ではなく自然にコミュニケーションがとれた。

■教員の感想

- ・初めてのファシリテーターも、全く緊張することなく、生徒たちが理解し行動できるように、実施の方向が明確でやりやすかった。
- ・素直な高校生らしい動きを感じることができた。
- ・病気療養後この学年に復学した生徒が、級友と交流するよいきっかけとなった。

イ 問題解決型グループワーク「続・なぞの宝島」(2年生)

(ア) ねらい

- ・互いに協力する体験を通して、対人交流を促す。
- ・グループで活動しているときの自分の動き(聴くこと・話すこと)に目を向ける。
- ・グループのメンバーの良いところに目を向け、ほめ合う。

(イ) 活動の形態

各クラス単独で教室にて実施。

- ・副担任がファシリテーターとなり担任が参観(4クラス) ・副担任が単独で実施(1クラス)

(ウ) 活動の内容

グループの各メンバーに3～4枚ずつ配布された情報カードに書かれている「遺跡」に関する断片的な情報(例えば、『サイカの扉を開けると、『光の間』がある』)を口頭で伝え合い、情報交換しながら「遺跡」の地図を作り、順路(宝への道順、脱出までの道順)を話し合う。

(エ) 参加者の様子

クラス替えでよく知らないメンバーもいる緊張はあるものの、前年度グループワークを2回経験しているので、最初からスムーズに取り組むことができていた。今回はどのような実習なのかとい

う、生徒の期待も感じられた。

■生徒の振り返り

- ・1年の時にやったことがあるので、話をスムーズに進めることができた。
- ・名前も知らない人と話すのは、予想以上にやりづらかった。
- ・やっているうちに会話がが増えていった。
- ・相手の言っていることを理解したり、自分が言いたいことを伝えたりするのは難しかった。
- ・みんなが意見を言い合わないとまとまらないと思った。
- ・みんなで協力して何かに取り組むことは、できたときに達成感があり楽しい。
- ・もっと自分の意見を積極的に言うべきで、他人に任せきりの状態になっていた。(自分について)
- ・昨年よりルールが増えていて難しかったのに、いろいろ話せて楽しかった。
- ・他人の意見と自分の意見を合わせて何かを考えるのは、とても楽しかった。

ウ 合意形成型グループワーク「サバイバル」(1年生)

(ア) ねらい

- ・グループで何かを決める(意思決定)ときの一つの方法としてコンセンサス(全員の合意)を学ぶ。
- ・意見の違いをどのように調整して、皆が満足できるような決定づくりができるかを体験する。
- ・自分やグループのプロセスに注目して、仲間づくりをすすめる。

(イ) 活動の形態

各クラス単独で教室にて実施。

- ・担任が単独で実施(6) ・相談部がファシリテーターとなり担任が参観(1)
- ・副担任がファシリテーターとなり相談部が補佐, 担任が参観(1)



【自分の考えた答えとその理由を記入】



【グループでの話し合い】

(ウ) 活動の内容

「ある国の山の中、道に迷ったあなた方は、その危機からどのように脱出して生き延びるのか…」
このような状況で起こると予想される事柄についての質問に対して、まずメンバー一人一人が自分
なりの答えを出す。次にグループでコンセンサス(全員の合意)によって答えを決定する。

(エ) 参加者の様子

グループを、遠足時のオリエンテーリング班(1班8名)に設定して実施した。すでに班長が決
まっているので、班長のリードの下に話し合いをしている班が多かった。積極的に黒板を使用して
説明している生徒もいた。ただ、コンセンサスを得るには人数が多く、全員が話し合いに参加しき
れていないグループもあった。

■生徒の振り返り

〈全員の合意(コンセンサス)をどう思うか〉

- ・決めるのに時間がかかるが、よりよい意見が出て話し合いがよくなる。
- ・意見を言わなければ多数決と変わらない。一人一人がしっかり発言することが大切。
- ・何か決めごとをする時は多数決だったので、コンセンサスは難しいと思った。
- ・多くの思考を取り込みやすい方法だ。

〈気付き・感想〉

- ・視野が広がった。
- ・異なった意見を尊重することによってよりよい選択をすることができる。
- ・自分とは違った意見を聞いて、そんな意見もあるのかと気付くことができ楽しかった。
- ・みんなそれぞれ自然に役割ができていてよかった。仲良くなれてうれしい。

・発言しないと話合いにならないので、ちゃんとと言わないといけないと思った。

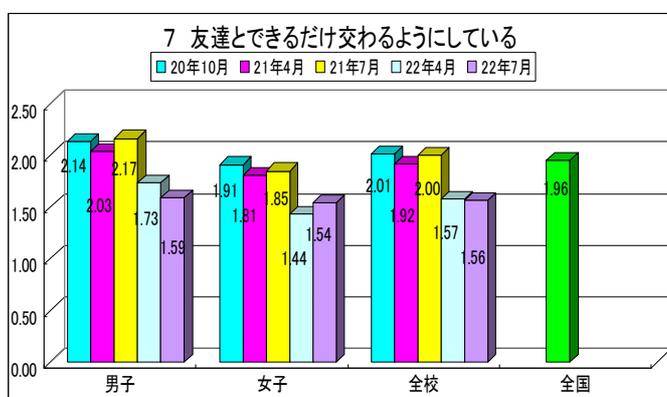
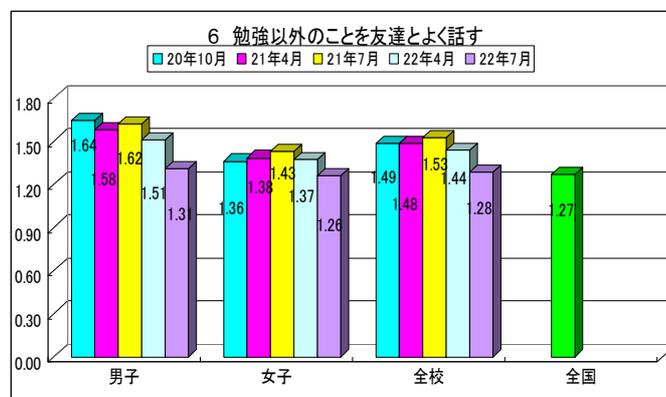
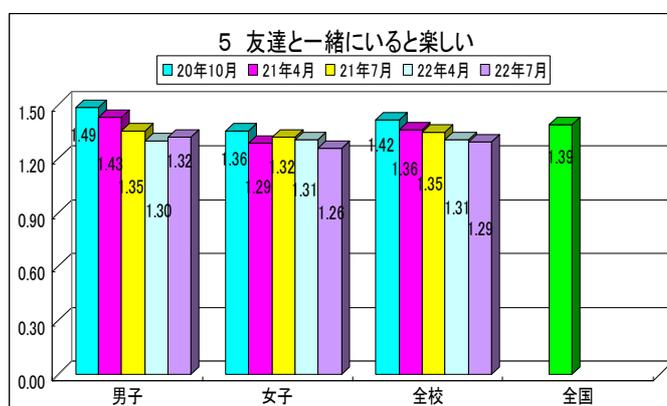
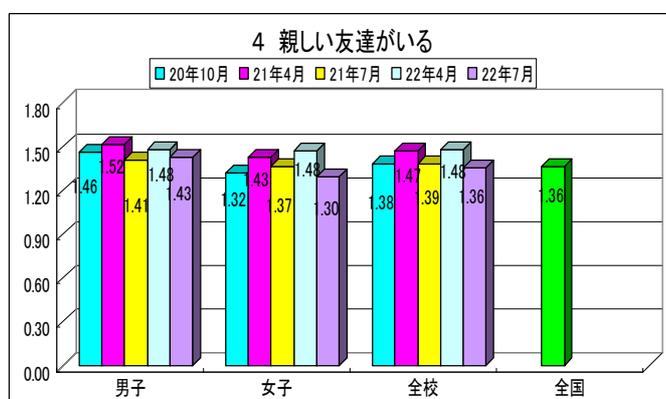
■教員の感想

- ・男子が目立たない女子の名前を覚え始めた。(逆も)
- ・グループによって、しっかり議論できたところとそうでないところと、いろいろあった。
- ・自分の意見を言う場面が多く見られた。
- ・生徒が、協力することの大切さを知るよい機会になったと思う。
- ・他の授業とは異なり、生徒の表情やコミュニケーションの様子を直接見ることができる。
- ・遠足前にグループとしてよい雰囲気になったと思う。

3 結果と考察

(1) 「新入生の学校環境への適応度調査」より

【適応度調査結果】



友達関係については（設問4・5），おおむね良好ではないかと思われる。「友達と一緒にいると楽しい」と感じている生徒の割合がかなり高く，自分から交流を進めようとする意識も高い（設問7）。学校生活に慣れるにつれ「親しい友達がいる」割合も増えている。

(2) アンケート調査（期待・不安について，グループワークを通じて感じたこと・気付いたこと）より

【平成 21 年度】

適応度調査と同時に 2 回実施。自由記述で回答。

ア 第 1 回アンケート（4 月実施・巻末資料 2）

『不安』を ①学習面 ②通学，校則などの生活面 ③人間関係 ④部活動 ⑤進路 に分類し，入学前の不安・入学直後の変化・不安の解消法について質問した。

【不安調査結果】

	学習面			生活面			人間関係			部活動			進路		
	入学前	入学後	解消率	入学前	入学後	解消率	入学前	入学後	解消率	入学前	入学後	解消率	入学前	入学後	解消率
継続	258	94		150	19		233	16		203	36		129	76	
解消		156	60%		128	85%		214	92%		162	80%		50	39%

※277 名調査・無回答あり 斜体は入学後も継続している不安の実数を表す

① 学習面の不安

- ・勉強について行けるかどうか
- ・予習する習慣を身に付けられるかどうか

〈解消群の解消方法〉

- ・今のところは何とかかなりそう
- ・予習復習をしっかりとやる
- ・授業を受ける
- ・努力する
- ・友人に聞く

② 生活面の不安

- ・遅刻せずに登校できるか
- ・学校が遠い
- ・校則が厳しいか
- ・バスに間に合うか
- ・下校時間が何時になるか
- ・一人でちゃんと通学できるか

〈解消群の解消方法〉

- ・早く家を出る
- ・一緒に行く人を見付ける
- ・友達や先輩に聞く
- ・先生の話聞く

③ 人間関係の不安

- ・新しい友達ができるか
- ・先生は優しいか
- ・上下関係は厳しくないか

〈解消群の解消方法〉

- ・自分からも積極的に話しかける
- ・いっぱい話す
- ・いろんな人に話しかける
- ・あまり気にしすぎない

④ 部活動の不安

- ・どの部活動に入部するか
- ・勉強と両立できるか
- ・先輩は怖くないか
- ・3年間続けられるか
- ・希望の部活動に入部できるか
- ・練習についていけるか

〈解消群の解消方法〉

- ・たくさん部活動見学に行った
- ・先輩から話しかけてくれた
- ・真剣に取り組んだ
- ・同じ部に入部した人たちと励まし合って練習した
- ・慣れた
- ・勉強と両立できる部活動に入った

⑤ 進路の不安

- ・どこに進学しようか
- ・どういう大学に行きたいか

〈解消群の解消方法〉

- ・とにかく勉強する
- ・資料を見る
- ・先生の進路の話をよく聞く

学習面と人間関係に不安を抱いていた生徒が多い。不安が最も少ないのは進路である。これは、高校合格直後の安心感や期待感が大きくて、進路に対する不安までいたらないと推測できる。

不安の解消率が最も大きいのは人間関係である。新しい人間関係をおおむね自力で構築できたことを表している。

イ 第2回アンケート（7月実施・巻末資料3）

入学前の不安の解消の確認・現在の不安(新しく不安となった項目も含む)・入学前の期待について質問した。

【入学前の不安と期待調査結果】

		実数	%
入学前の不安	解消された	226	82
	解消されていない	51	18
入学前の期待	大きくなった	146	54
	変わらない	96	35
	小さくなった	31	11

〈現在の不安〉（以下の数字は記述回答の実数、複数回答あり）

① 学習面 147名

- ・授業についていけない
- ・成績が下がった
- ・進級できるか
- ・学習時間が足りない
- ・検定に受かるか

② 生活面 5名

- ・疲れやすい
- ・睡眠時間と学習時間

③ 人間関係 10名

- ・もっと仲よくなれるか
- ・3年間このクラスでやっていけるか
- ・友人関係

④ 部活動 16名

- ・ついていくのが大変
- ・勉強との両立が難しい
- ・帰宅時間が遅い
- ・先輩が厳しい
- ・上達しない
- ・続けられるか
- ・休みがない

⑤ 進路 35名

- ・希望する大学に行けるか
- ・やりたいことが見つかるか
- ・就職できるか

特になし 110名

〈入学前の期待〉

① 学習面 7名 ② 生活面 104名 ③ 人間関係 77名 ④ 部活動 115名 ⑤進路 4名

入学前の不安はほぼ解消されている。継続している不安は学習面が多い。現在の不安については、多くの生徒が学習面を挙げている。これは授業の進度が上がってきたためであろう。特に、特定の教科に対する不安が多く見られる。このアンケートの1ヶ月前から2年次の文系・理系の選択に迫られているため、進路に対する不安も増加している。部活動についての不安も、学習と

の両立にかかわることが多い。

入学前の期待や楽しみは、生活面（学校行事）・人間関係（新しい友達やクラス）・部活動を挙げている。その期待が「大きくなった」・「変わらない」という回答が、9割近くあった。「小さくなった」生徒の中にも、「みんなのことを知ったから」「期待どおりだったから」という回答が複数あった。体育大会・文化祭という大きな学校行事に向けて、クラスで具体的な取り組みが始まるこの時期に、大きな期待感を持って学校生活を過ごしているのは、良好な人間関係が構築できているからであろう。

ウ グループワークでの変化について（7月実施・巻末資料3）

第2回アンケートで、2度のグループワーク経験後の自己の変化・周囲との関係の変化についても質問した。「ふりかえり」と「わかちあい」の効果を確認するためである。グループ・アプローチでは集団でワークに取り組んだ後、「ふりかえり」で自分の心や行動について向き合う。さらに、自分の「ふりかえり」をグループ内に発信する「わかちあい」で、メンバーと心の交流を深めていく。客観的に比較・判断することは難しい項目ではあるが、主観的であっても、本人の自覚を示してもらうことは重要だと考えた。

【グループ・ワークでの変化について】

	自己評価	実数	%
自己変化	周囲を尊重・協力できるようになった	78	28
	積極的になる・主張できるようになった	20	7
	相手の話を聞いて、多面的思考ができる・新たな考えを創造できるようになった	140	50
関係変化	周囲との関わりに積極的になった	191	68
	親交が深まった	82	29
	クラスの雰囲気が良くなった	15	5
	周囲が自分を理解してくれた	3	1

※277名調査・無回答あり

ほとんどの生徒が何らかの変化を自覚できている。自由記述で回答してもらったが、同じような意見を集約すると、自己の変化については3項目、周囲との関係の変化については4項目にまとめることができた。

〈自己変化〉

- ① 周囲を尊重・協力できるようになった。→視野が広くなり、周囲の動きに目を向けられるようになった。
- ② 積極的になる・主張できるようになる。→自ら働きかけて人的交流を活性化した。
- ③ 相手の話を聞いて、多面的思考ができる・新たな考えを創造できるようになった。→思考の交流ができるようになった。

〈関係変化〉

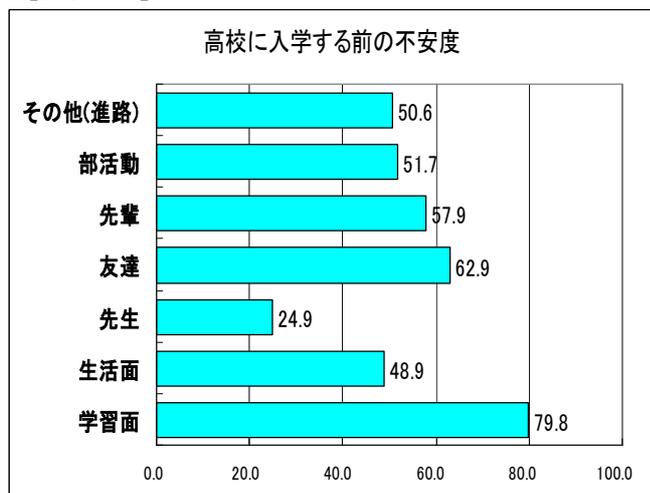
- ① 周囲とのかかわりに積極的になった。→自ら人的交流を広めることができた。
- ② 親交が深まった。→自ら人的交流を深めることができた。
- ③ クラスの雰囲気がよくなった。→全体を見ることができた。
- ④ 周囲が自分を理解してくれた。→周囲から見られている自己をとらえることができた。

【平成 22 年度】

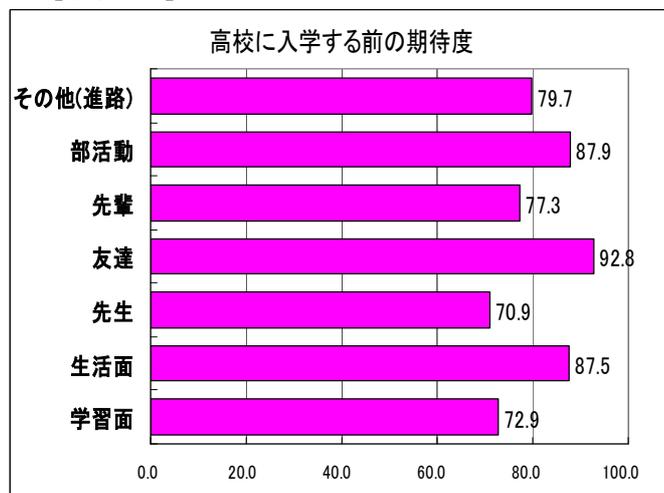
適応度調査の中に設問を入れて実施。「期待」・「不安」については具体的内容を記述して回答。

【平成 22 年度アンケート結果】

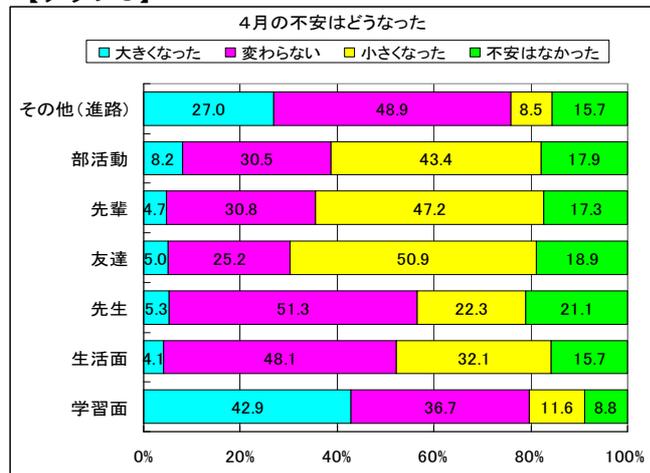
【グラフ A】



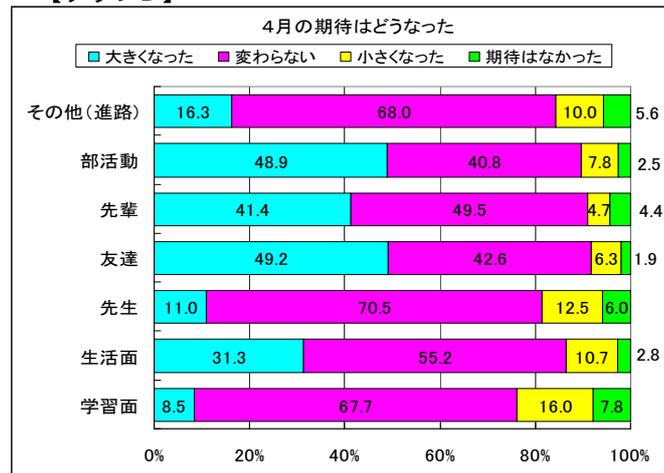
【グラフ B】



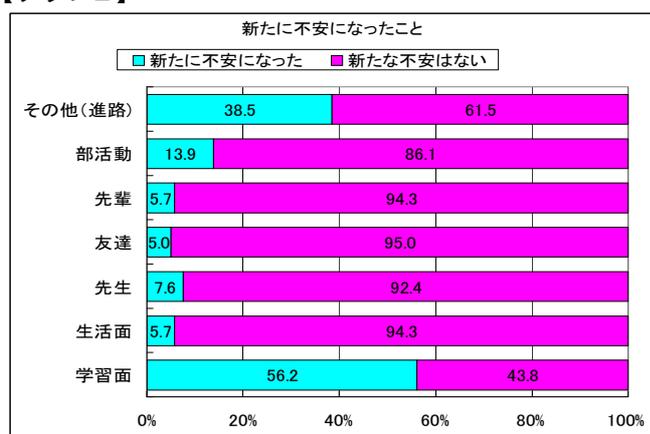
【グラフ C】



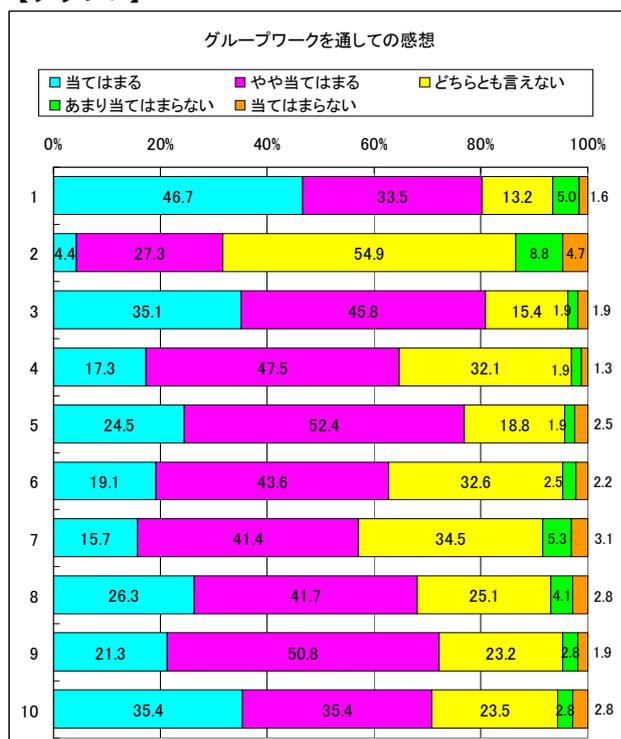
【グラフ D】



【グラフ E】



【グラフ】



- 1 みんなでやると楽しかった。
- 2 自分のよさや、自分のことについて分かってきた。
- 3 友達のよさや、友達のことについて分かってきた。
- 4 自分の気持ちが分かってもらえてうれしかった。
- 5 友達の気持ちを思いやるようになってきた。
- 6 自分の意見が言えるようになってきた。
- 7 協力することや、団結することが大切だと分かった。
- 8 お互いの意見を、ちゃんと聞き合うことが大切だと分かった。
- 9 みんなと仲良くできるようになったと思う。
- 10 クラスの雰囲気がよくなったと思う。

グループワークを経験して、「自分が変わったと思うこと」・「周りの人との関係で変化したと思うこと」・「感じたこと、気付いたこと」についての記述回答では、

- ・自分の意見を言うことに少しだけ自信をもてた。 ・少し積極的に話せるようになった。
- ・クラスの中で話したことがなかった人とも話せるようになった。
- ・誰とでも話せるようになった。 ・クラスの空気に溶け込めた気がする。
- ・もっと仲良くなれたらいいなと思った。

など、人間関係の変化や、それに伴う不安の解消に関する内容が多かった。

昨年度と同様に、入学前は学習面と友達に関する不安度が大きい(グラフA)。学習面では、「留年」・「宿題の量」・「進路」・「授業について行けるか」など、人間関係では、「クラスに同じ中学の人がいない」・「違う中学の人との人間関係」・「田原の人ばかりで不安だった」・「先輩にいじめられないか」などの不安が記述回答に多く見られた。期待度が大きいのは、友達・部活動・生活面である(グラフB)。中学は通学範囲が狭く、また部活動も限定されている。部活動・学校行事の多さ、電車やバスでの通学、新しい友達・先生・先輩との出会いなど、高校生活に期待することはいつの時代も変わらないと感じた。また、「将来に役立つ技術や資格の取得」・「専門的なことを学べるので、自分の技術が高められる」といった、専門学科での学びの期待もあった。

人間関係や部活動に関する不安は、学校生活に慣れるに従って解消され、その分期待が大きくなっている(グラフC, D)。特に友達や部活動について、5割近くの生徒が「期待が大きくなった」と答えている。新たに不安になったことは、昨年度と同様、やはり進路と学習面である(グラフE)。

グループワークについては(グラフF)、「みんなでやると楽しかった」・「友達のよさや、友達のことについて分かってきた」・「友達の気持ちを、思いやるようになってきた」の項目で、ほぼ8割の生徒が「当てはまる」・「ほぼ当てはまる」と答えている。新しい学校環境での仲間づくり、また他者理解という点で有効であったと考える。ただ、「自分のよさや、自分のことについて分かってきた」の項目については、肯定的な答えが3割しかない。自分の動きや感情に目を向ける自己理解までは至っていないようである。

(3) 考察

生徒は、人間関係を筆頭に学習、部活動、生活と様々な不安を抱いて入学してくる。本校生徒は、友達・先輩・先生など多くの人との新たなかかわりの中で、その不安を自分なりに解消し、良好な状態で学校環境に適応している。人間関係については、グループ・アプローチが不安解消に有効な手助けをしていると言えよう。グループ・アプローチによって、生徒は人的交流を進める楽しさを知り、級友と積極的に交流を活性化させている。また、その交流の中で、友達のよさを認め、自分の所属するクラスや部活動、学校に対する安心感をもてるようになっていく。

学校環境への適応のみならず、コミュニケーション能力・自己伝達能力・自他の理解能力を磨き、人間関係形成力を養成する手だてとしても、グループ・アプローチは有効に働いていることが、生徒の振り返りからうかがえる。

4 今後の課題

(1) 実施時期

新入生の適応を促す取組は、入学後のできるだけ早い時期に学年全体で取り組むと、より大きな効果が期待できる。他学年ではあるが、始業式2日後から不登校になった生徒がいた。前年度のクラスの友人や、部活動の友人らの援助もあって現在は通級できるまでに回復しているが、これが新入生で、同じ中学校から来た生徒がほとんどいない場合どうなったであろうか。

クラスが替わる4月、夏休み明けで学校行事が続く9月、学期のスタート時は、新入生だけでなく在校生にとっても、人間関係に不安を抱きやすい時期である。年間を通して継続的に、また3年間を見通して計画的に実施する必要性を感じる。遠足・修学旅行・体育大会・文化祭など、クラス単位で取り組む学校行事と連携させていくと、相乗効果を図ることができる。22年度は「総合的な学習の時間」の年間指導計画の中に位置付け、グループワークの時間を確保したものの、十分とは言えない。普通科・商業科・生活文化科では教育課程が異なるため、学年一斉にグループワークの時間を確保することが難しい。朝や帰りのS T時にショートエクササイズを実施するのも、一つの方法かと考える。

(2) グループの構成

2度のグループワークは、違うメンバーで実施した。メンバーが異なれば、自分の役割も周囲の動きも変化があったと推測できる。一方、同じメンバーで継続してグループワークを実施すると、グループの持ち味や、メンバーの新たな一面を発見することになるであろう。

(3) グループ・アプローチが苦手な生徒への対応

どのワークでも、数名ではあるが、グループワークを苦手、不快と回答した生徒がいた。しかし、「自分の意見をしっかりと伝えるようにしないといけないと思った」・「ちゃんと話し合いに参加できるようになりたい」と、自分自身に向き合った振り返りができており、ワークそのものは肯定的にとらえている。また、合意形成型のグループワークでは、少数に耳を傾ける大切さに気付いた生徒が多数いるので、グループワークが苦手な生徒を援助できる生徒の育成や、集団としての仲間意識の形成も期待できる。

ファシリテーターが活動中の生徒の発言や行動をよく観察し、苦手、不快でないような要因を「ふりかえり」から探り、次の内容やグループ構成に生かすことが大切だと考える。

(4) ファシリテーターの育成

本校のグループワークは、多少経験がある教育相談部員だけではなく、全く経験がない担任・副担任もファシリテーターを務めた。経験のない教員がファシリテーターを務めても「ふりかえり」「わか

ちあい」の感想を見ると、生徒は十分な気付きを得ている。習熟したファシリテーターを待って活動しないより、未熟ではあっても多くの教員がファシリテーターとなって実施し、様々なパターンのグループワークを実施してはどうだろうか。そのためには、教育相談部が中心となった現職研修が重要となる。

参考文献

- 『Creative School』 (プレスタイム社)
『協力すれば何かが変わる』(続・学校グループワーク・トレーニング) (遊戯社)
『人間関係づくりトレーニング』 (金子書房)
『予防開発的教育相談の推進に関する研究－行事をいかすグループ・アプローチの取組を中心として－』
愛知県総合教育センター相談部教育相談研究室(2004)

【資料1】

総合的な学習の時間（第1学年普通科）年間学習指導計画書

1 実施内容および指導体制

「キャリア教育～自己理解の深化を図る」

- (1) 「自己を見つめる」をテーマに、諸活動を通じて自分を知るとともに、他者の価値観や個性のユニークさを理解し、受容する能力を養う。
- (2) 「郷土からの視点」「環境」をテーマに、郷土の歴史・文学・自然について、体験学習も含め、多角的な視点から学習した上で、次第に視野を広げ、自己を取り巻く地域環境や現代日本社会の仕組みを学習する。
- (3) 国語科を中心に、1年学年会や情報研修部、他教科の教員が協力して指導にあたる。

2 年間指導計画

時間	月	テーマ	実施単位	具体的内容
1	4	オリエンテーション	クラス	総合学習の説明。
2		「自己を見つめる」①	クラス	グループの共同作業を通じて、自己理解と他者理解を図る。
3		グループアプローチ「匠の里」		
4		「自己を見つめる」②		
5			クラス	作文「自己を語る」およびクラスでの発表。
6	5	田原市内オリエンテーリングの事前学習	クラス	『小説渡邊崋山』、松尾芭蕉『笈の小文』等
7				
8	6	田原市内オリエンテーリングの実施	学年	文学歴史散策と自然観察（1年学年会と協議）。
9				まとめと反省。
10				
11				
12	7	テーマ学習研究（学校祭に向けて）	クラス	郷土に関する研究・創作（研究発表、太鼓、劇、展示物作成等。図書館、インターネットなども利用する。）
13				
14	9	テーマ学習まとめ（学校発表準備）	クラス	
15				
16				
17	10	環境学習	学年	環境に関する講話などを実施し、その後、環境ボランティア活動を行う。
18				
19		情報モラル	クラス	インターネット、携帯電話によって引き起こされるいじめ等の諸問題を生徒自らが調べ、対処方法を話し合う。
20				
21				
22	11	「自己を見つめる」③	クラス	「日本人のアイデンティティー」、「日本語の変化と乱れ」、「格差社会」等のテーマを設定し、自ら調べたことを小論文にまとめ、クラスで発表する。
23				
24				
25				
26	12	郷土自然学習	学年	外部講師による講話（事前指導）。
27				汐川干潟にて、バードウォッチング・自然観察。（情報研修部と協議）
28				
29				
30	1	「論語」を読む	クラス	校名の由来等について学ぶ。
31				
32				
33	2	「自己を見つめる」④	クラス	自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばす方策を考え、レポートにまとめる。
34				
35	3	反省とまとめ	クラス	1年間の反省と自己評価

【資料2】

新入生の学校環境への適応に関するアンケート

みなさんは高校に入学する前、どんな不安を感じていましたか。また、入学後、その不安はどうなりましたか。学習面、生活面、人間関係、部活動、その他の5項目について、以下のシートに記入してください。

	入学前、何が不安でしたか。	入学して、その不安はどうなりましたか。	どのように不安を解消しましたか。
学習面			
生活面 通学や 校則など			
人間関係 友人や 先生、 先輩など			
部活動			
その他 卒業後の 進路など			

【資料3】

1年生の学校環境への適応に関するアンケート

1年 組 番：氏名

1 みなさんには4月のアンケートで、不安に思っていること(学習, 生活, 人間関係, 部活動, その他進路など)について答えてもらいましたが、現在はどうでしょうか。

(1) 入学前に不安に思っていたことは、現在解消されていますか。

はい いいえ (理由

)

(2) 現在、不安に思っていることは何ですか。

(3) 入学前に期待していたこと、楽しみにしていたことは何ですか。

(4) (3)の期待や楽しみは、今現在どうですか。

大きくなった 変わらない 小さくなった

(理由

)

2 4月におこなったグループワーク「匠の里」と、6月に行ったグループワーク「好きなプロスポーツは？」を経験して、自分が変わったと思うことを記入してください。

3 2度のグループワークで周りのクラスメイトとの関係がどう変化しましたか。

資料【校種間連携について】

【幼稚園】

幼保小連携 ・資料を小学校へ提供：幼稚園指導要録の写しの提供。＊平成21年度から保育録の写しも提供が制度化 ・幼保小連絡会

【小学校】

	幼保小 園児児童交流	幼保小 連携	小中 児童生徒交流	小中 連携
A 小	<ul style="list-style-type: none"> 園児と小1の合同行事(3学期、3月) 運動会に園児の参加プログラム編成(9月) 小3が幼保3園を訪問(2月中旬) 特別支援関係の子供と個別懇談(12～3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小連絡会(6、8月) 養護教諭・教務主任が訪園(12～2月) 新入生に関する情報交換(随時) 小学校教諭による保育実習体験(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> 部活見学(7月) 授業見学(2月) 先輩から話を聞く会(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連絡会(3月)
B 小	<ul style="list-style-type: none"> 運動会に園児の参加プログラム編成(9月) 特別支援関係の子供と個別懇談(12～3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 幼保教員の授業参観と幼保小連絡会(6月) 幼保小連絡会(2月) 新入生に関する情報交換(随時) 	<ul style="list-style-type: none"> 部活見学(7月) 授業見学(2月) 先輩から話を聞く会(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連絡会(3月)
C 小	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設見学(2月末) 特別支援関係の子供と個別懇談(12～3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小連絡会(2月) 新入生に関する情報交換(4月、2月) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観(1月) 先輩から話を聞く会(1月) 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連絡会(3月)
D 小	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設見学(1月) 特別支援関係の子供と個別懇談(12～3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小連絡会(2月) 新入生に関する情報交換(5月、2月) 	<ul style="list-style-type: none"> 先輩から(生徒会役員)から話を聞く会(1月) 中学校を知る会(1月) 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連絡会(3月)

【中学校】

	小中 児童生徒交流	小中 連携	中高 生徒交流	中高 連携
E 中	<ul style="list-style-type: none"> 部活見学(7月) 授業参観(2月) 先輩(生徒会生徒)からの説明会(2月) 特別支援関係の児童の授業参観(随時) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導主事・校務主任が小学校にて情報交換(定期テスト時) 中学校図書委員が小学生向けに本の紹介カードを送る(2学期) 	<ul style="list-style-type: none"> 先輩の話を聞く会(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> 中学教員が高校授業参観〔豊明高〕(6月) 高校教員が中学の授業参観(10月) 中高教職員による夏祭り警備(8月)
F 中	<ul style="list-style-type: none"> 体育大会見学、一種目に参加(9月) 授業学校施設見学会(1月) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と教員が学校施設・授業見学(1月) 小学校にて情報交換(3月) 		<ul style="list-style-type: none"> 中高連絡会(11月)

【高等学校】

	中高 生徒交流 および中生徒・高教員交流	中高連携
G 高	<ul style="list-style-type: none"> 体験入学(学校紹介・部活見学)(8月、10月) 後輩に話をしに行く会(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> 中高教員の交流：出身中学教員の授業参観、高1生徒との懇談、教員間情報交換(6月) 体験入学(8月、10月) ・中高教職員による夏祭り警備(8月) 中学校の授業参観(10月) 中学校の現状についての学習会(11月) 事件発生時の情報交換
H 高	<ul style="list-style-type: none"> 部活見学会(8月) 体験入学、文化祭一般公開(9月) 	<ul style="list-style-type: none"> 部活見学8月、体験入学・文化祭見学(9月) 中学校訪問(5月、9月) 事件発生時の情報交換